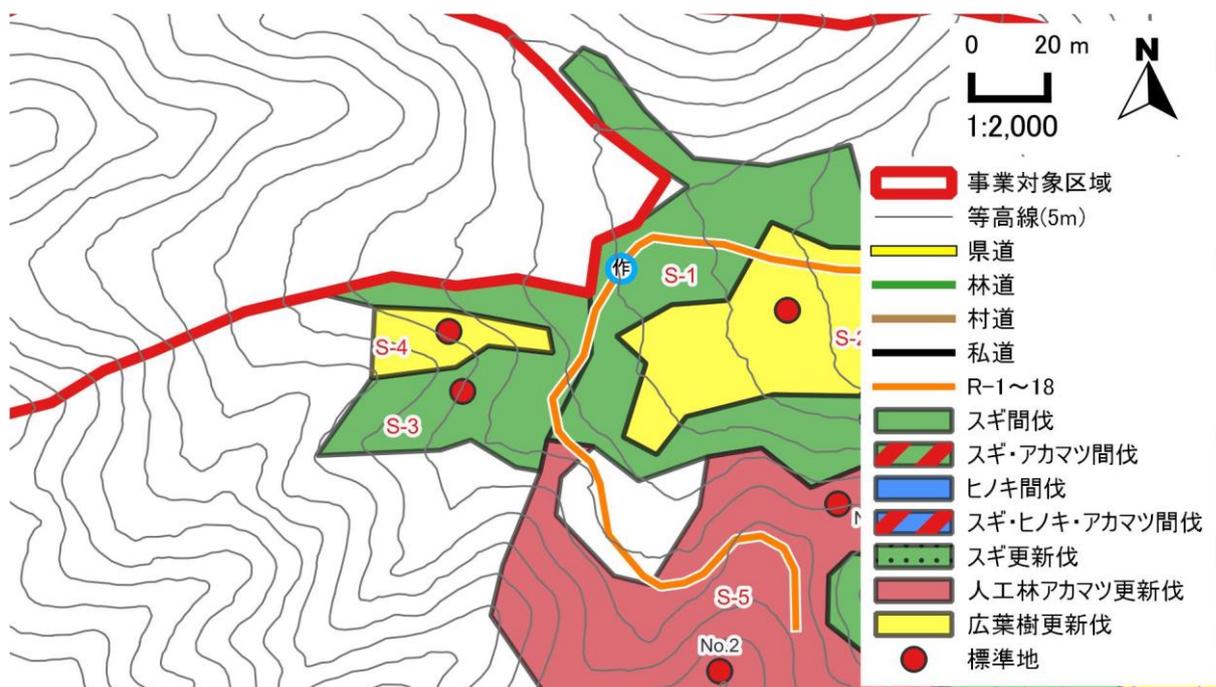


1.5 詳細設計(S-3 地区)

図表 118 S-3 地区



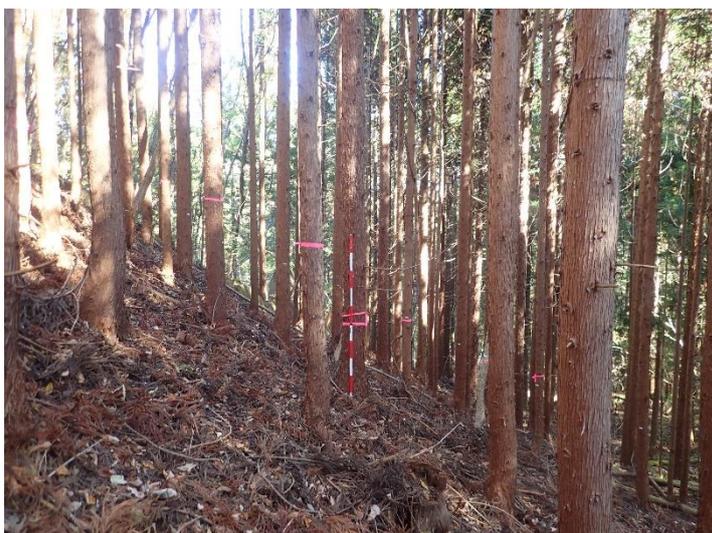
標準地調査の結果をもとに、S-3 地区の現況について図表 119 にまとめる。

図表 119 S-3 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	スギ、7 齢級(34 年生)
実測面積	0.20ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	540 本(2,700 本/ha)、171.60m ³ (858.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 19cm、平均樹高 19m、形状比 100
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は極めて乏しく、ほとんど見られない。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-3 地区の標準地

図表 120 S-3 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。スギの成長の支障となる広葉樹は伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	200 本(1,000 本/ha)、28.40m ³ (142.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 14cm、平均樹高 16m
伐採率	37.0%(本数)、16.6%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 121 にまとめる。

図表 121 S-3 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.20ha		0.20ha
本数	540 本(2,700 本/ha)		340 本(1,700 本/ha)
蓄積	171.60m ³ (858.0m ³ /ha)		143.20m ³ (716.0m ³ /ha)
直径、樹高	19cm、19m		23cm、20m
相対幹距比(Sr)	10%		12%
形状比(H/D)	形状比 100		形状比 87

○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 122 S-3 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	7	間伐 37.0% (整備後本数 1,700 本/ha)
...
令和 16 年	9	間伐 30.0% (整備後本数 1,190 本/ha)
...
令和 26 年	11	間伐 30.0% (整備後本数 833 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

図表 123 S-3 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		28.40	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	19.17	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	3.95	m3	13.9%	残置	—
	その他	5.25	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		6.53	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.6 詳細設計(S-4 地区)

図表 124 S-4 地区



標準地調査の結果をもとに、S-4 地区の現況について図表 125 にまとめる。

図表 125 S-4 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、12 齢級(58 年生)
実測面積	0.06ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	132 本(2,200 本/ha)、20.40m ³ (340.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 14cm、平均樹高 13m、形状比 93
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、クリ、イタヤカエデ、ホオノキ、モミ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-4 地区の標準地

図表 126 S-4 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	114 本(1,900 本/ha)、15.18m ³ (253.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 13cm、平均樹高 12m
伐採率	86.4%(本数)、74.4%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 127 にまとめる。

図表 127 S-4 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.06ha		0.06ha
本数	132 本(2,200 本/ha)		18 本(300 本/ha)
蓄積	20.40m ³ (340.0m ³ /ha)		5.22m ³ (87.0m ³ /ha)
直径、樹高	14cm、13m		22cm、16m
相対幹距比(Sr)	16%		36%
形状比(H/D)	形状比 93		形状比 73

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 128 S-4 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和6年	12	更新伐 86.4%(整備後本数300本/ha)
...
令和9年	1	萌芽整理
...
令和16年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

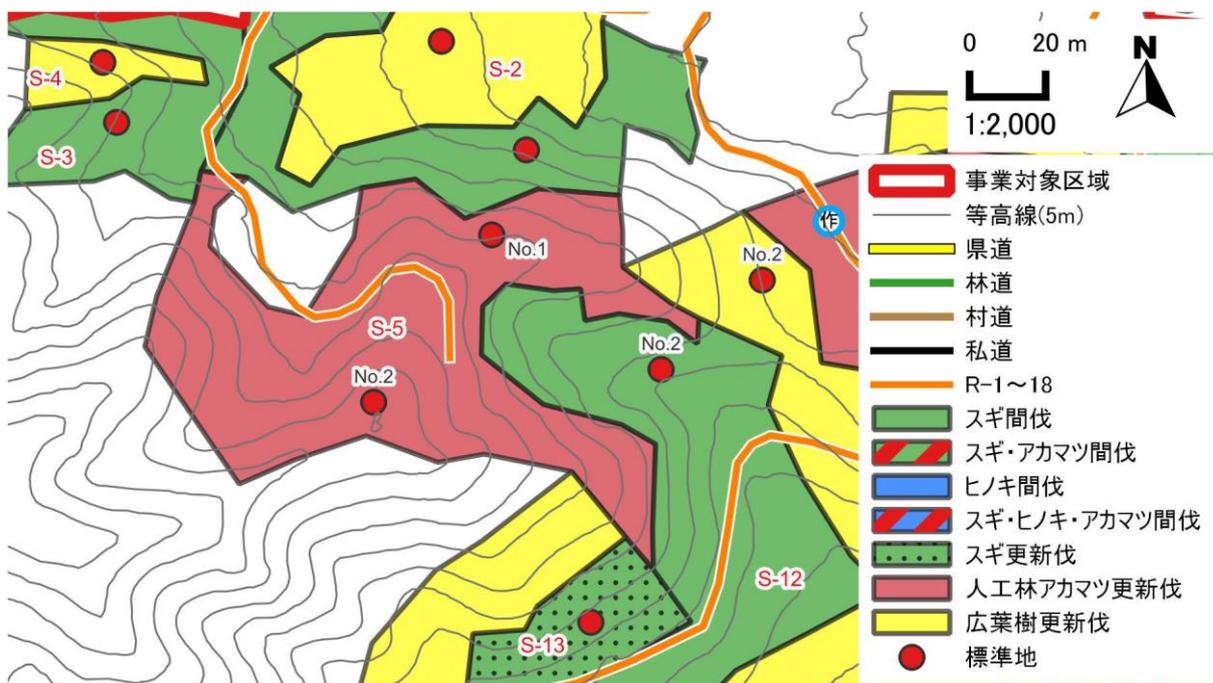
図表 129 S-4 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		15.18	m3	—	—	—
内 訳	AB材	10.25	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	2.11	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	2.81	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		4.86	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は1.23、広葉樹は1.32。

1.7 詳細設計(S-5 地区)

図表 130 S-5 地区



標準地調査の結果をもとに、S-5 地区の現況について図表 131 にまとめる。

図表 131 S-5 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	アカマツ、13 齢級 (62～65 年生)
実測面積	0.70ha
標準地 ^{※1}	2 箇所 (200m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	910 本 (1,300 本/ha)、336.70m ³ (481.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 24cm、平均樹高 18m、形状比 75
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。スギが混じる。コナラ、コシアブラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。部分的に下層にヒノキが植えられている。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-5 地区の No. 1 標準地



S-5 地区の No. 2 標準地

図表 132 S-5 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の広葉樹のうちコナラ、ミズナラ以外の樹種を優先的に残す。
伐採本数・材積 ^{※1}	420 本(600 本/ha)、122.85m ³ (175.5m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 22cm、平均樹高 18m
伐採率	46.2%(本数)、36.5%(材積)
その他	なし

※1 上層木のための値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 133 にまとめる。

図表 133 S-5 地区の整備後の状況

区 分	整備前		整備後
樹種	アカマツ	更新伐 ⇒	アカマツ
実測面積	0.70ha		0.70ha
本数	910本(1,300本/ha)		490本(700本/ha)
蓄積	336.70m ³ (481.0m ³ /ha)		213.85m ³ (305.5m ³ /ha)
直径、樹高	24cm、18m		26cm、18m
相対幹距比(Sr)	15%		21%
形状比(H/D)	形状比 75		形状比 69

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 134 S-5 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	13	更新伐 46.2%(整備後本数 700 本/ha)
...
令和 16 年	15	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

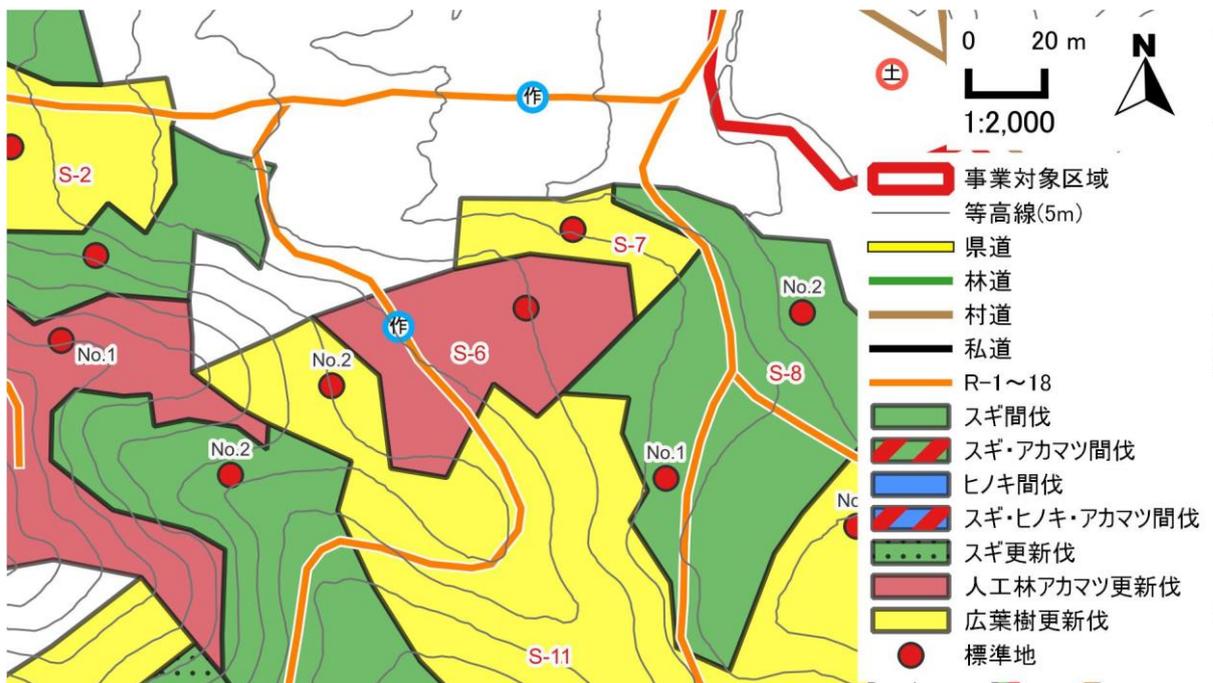
図表 135 S-5 地区の木材量

区 分	内 容			利用方法	材区分	
伐採材積(立木)	122.85	m ³	—	—	—	
内 訳	AB材	82.92	m ³	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	17.08	m ³	13.9%	残置	—
	その他	22.73	m ³	18.5%	残置	—
枝 葉	28.26	m ³	拡大係数 1.23	残置	—	

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.8 詳細設計(S-6 地区)

図表 136 S-6 地区



標準地調査の結果をもとに、S-6 地区の現況について図表 137 にまとめる。

図表 137 S-6 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	アカマツ、12 齢級(58 年生)
実測面積	0.26ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	104 本(400 本/ha)、98.28m ³ (378.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 33cm、平均樹高 23m、形状比 70
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。スギが混じる。コナラ、ウワミズザクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-6 地区の標準地

図表 138 S-6 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の広葉樹のうちコナラ、ミズナラ以外の樹種を優先的に残す。
伐採本数・材積 ^{※1}	52 本(200 本/ha)、28.08m ³ (108.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 26cm、平均樹高 21m
伐採率	50.0%(本数)、28.6%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 139 にまとめる。

図表 139 S-6 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	アカマツ	更新伐 ⇒	アカマツ
実測面積	0.26ha		0.26ha
本数	104 本(400 本/ha)		52 本(200 本/ha)
蓄積	98.28m ³ (378.0m ³ /ha)		70.20m ³ (270.0m ³ /ha)
直径、樹高	33cm、23m		39cm、25m
相対幹距比(Sr)	22%		28%
形状比(H/D)	形状比 70		形状比 64

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 140 S-6 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	12	更新伐 50.0% (整備後本数 200 本/ha)
...
令和 16 年	14	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

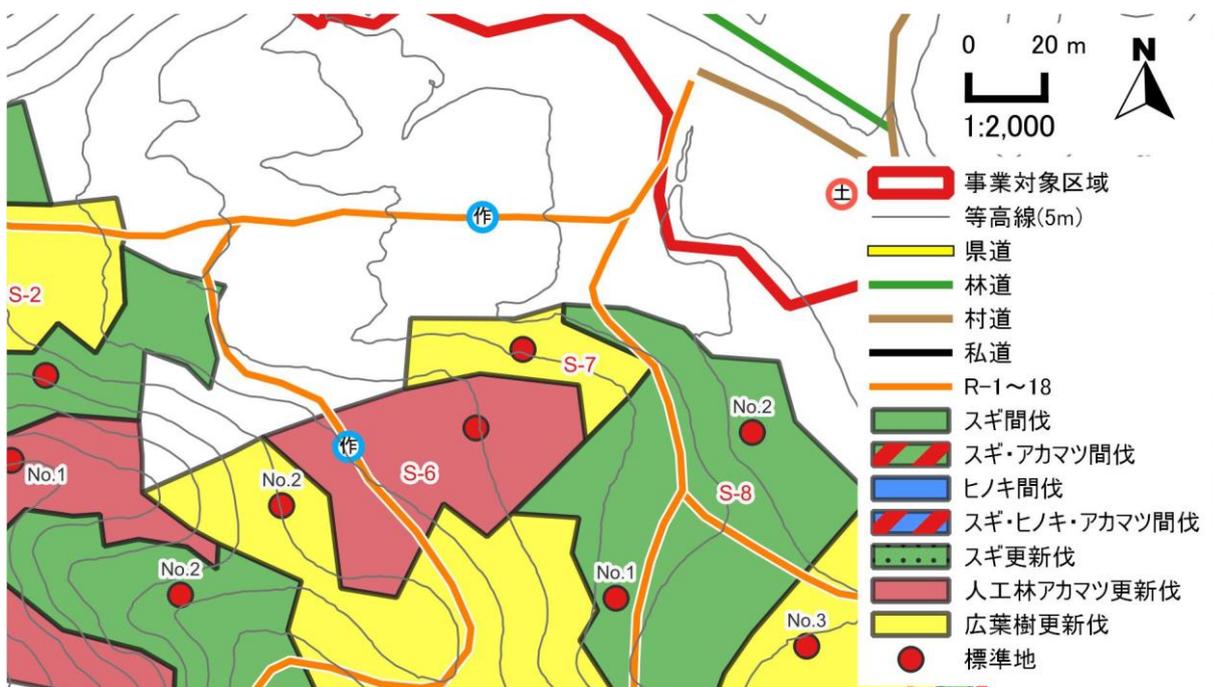
図表 141 S-6 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		28.08	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	18.95	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	3.90	m3	13.9%	残置	—
	その他	5.19	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		6.46	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.9 詳細設計(S-7 地区)

図表 142 S-7 地区



標準地調査の結果をもとに、S-7 地区の現況について図表 143 にまとめる。

図表 143 S-7 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、12 齢級(58 年生)
実測面積	0.10ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	270 本(2,700 本/ha)、19.70m ³ (197.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 12cm、平均樹高 10m、形状比 83
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、ヤマザクラ、イタヤカエデ、モミ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-7 地区の標準地

図表 144 S-7 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	240 本(2,400 本/ha)、15.70m ³ (157.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 11cm、平均樹高 9m
伐採率	88.9%(本数)、79.7%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う後の林分状況の変化を図表 145 にまとめる。

図表 145 S-7 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.10ha		0.10ha
本数	270 本(2,700 本/ha)		30 本(300 本/ha)
蓄積	19.70m ³ (197.0m ³ /ha)		4.00m ³ (40.0m ³ /ha)
直径、樹高	12cm、10m		17cm、13m
相対幹距比(Sr)	19%		44%
形状比(H/D)	形状比 83		形状比 76

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 146 S-7 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和6年	12	更新伐 88.9%(整備後本数300本/ha)
...
令和9年	1	萌芽整理
...
令和16年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

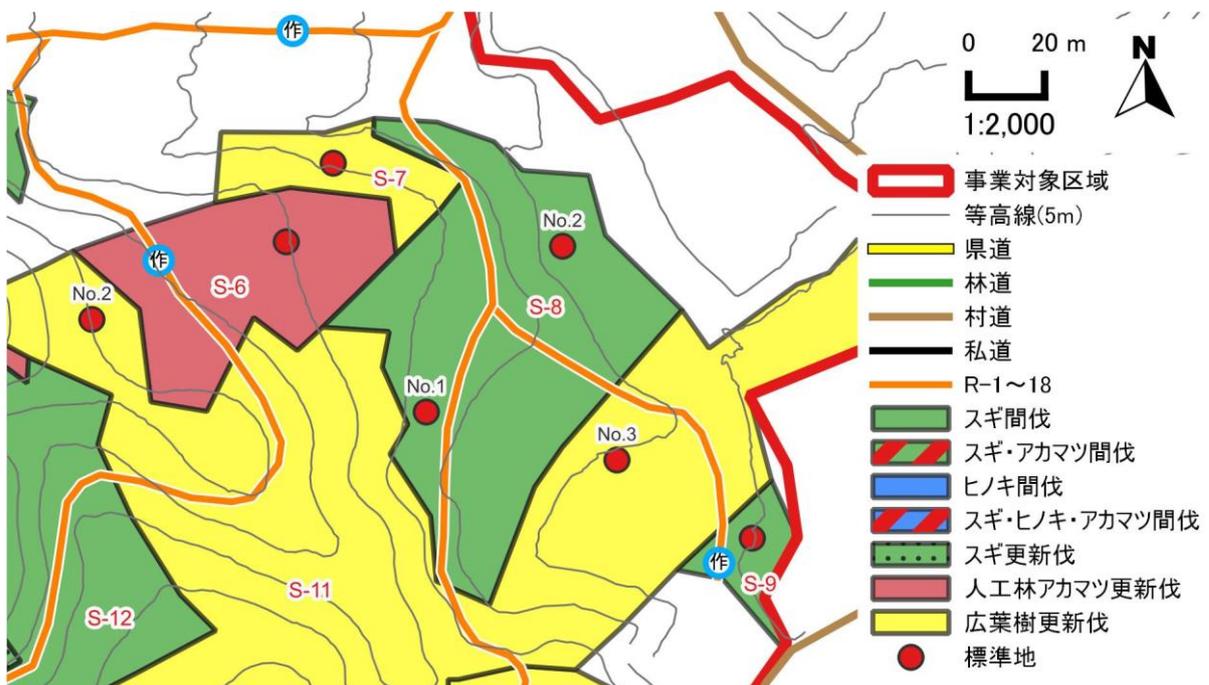
図表 147 S-7 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		15.70	m3	—	—	—
内 訳	AB材	10.60	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	2.18	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	2.90	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		5.02	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は1.23、広葉樹は1.32。

1.10 詳細設計(S-8 地区)

図表 148 S-8 地区



標準地調査の結果をもとに、S-8 地区の現況について図表 149 にまとめる。

図表 149 S-8 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	スギ、11~12 齢級(55~58 年生)
実測面積	0.57ha
標準地 ^{※1}	2 箇所(200m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	627 本(1,100 本/ha)、408.69m ³ (717.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 29cm、平均樹高 20m、形状比 69
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。モミ、アカマツ、広葉樹が混じる。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-8 地区の No. 1 標準地



S-8 地区の No. 2 標準地

図表 150 S-8 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	228 本(400 本/ha)、93.77m ³ (164.5m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 24cm、平均樹高 18m
伐採率	36.4%(本数)、22.9%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ。の値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 151 にまとめる。

図表 151 S-8 地区の整備後の状況

区 分	整備前		整備後
樹種	スギ	間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.57ha		0.57ha
本数	627本(1,100本/ha)		399本(700本/ha)
蓄積	408.69m ³ (717.0m ³ /ha)		314.93m ³ (552.5m ³ /ha)
直径、樹高	29cm、20m		30cm、22m
相対幹距比(Sr)	15%		17%
形状比(H/D)	形状比 69		形状比 73

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 152 S-9 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和6年	11~12	間伐 36.4%(整備後本数700本/ha)
...
令和16年	13~14	主伐 100.0%(整備後本数0本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

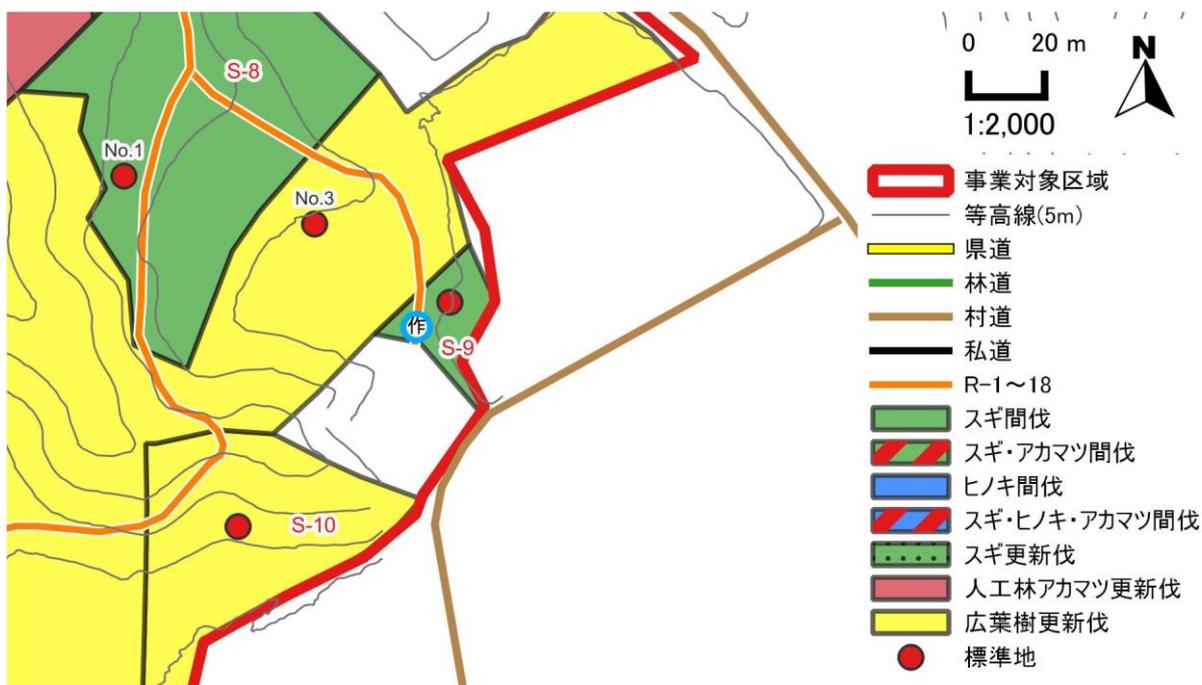
図表 153 S-9 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		93.77	m ³	—	—	—
内 訳	AB材	63.29	m ³	67.5%	搬出利用	並材
	C材等	13.03	m ³	13.9%	残置	—
	その他	17.35	m ³	18.5%	残置	—
枝 葉		21.57	m ³	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は1.23、広葉樹は1.32。

1.11 詳細設計(S-9 地区)

図表 154 S-9 区



標準地調査の結果をもとに、S-9 区の現況について図表 155 にまとめる。

図表 155 S-9 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	スギ、10 齢級(48 年生)
実測面積	0.06ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	48 本(800 本/ha)、23.70m ³ (395.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 27cm、平均樹高 19m、形状比 70
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-9 地区の標準地

図表 156 S-9 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。スギの成長の支障となる広葉樹は伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	12 本(200 本/ha)、4.98m ³ (83.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 25cm、平均樹高 18m
伐採率	25.0%(本数)、21.0%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 157 にまとめる。

図表 157 S-9 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.06ha		0.06ha
本数	48 本(800 本/ha)		36 本(600 本/ha)
蓄積	23.70m ³ (395.0m ³ /ha)		18.72m ³ (312.0m ³ /ha)
直径、樹高	27cm、19m		27cm、19m
相対幹距比(Sr)	19%		21%
形状比(H/D)	形状比 70		形状比 70

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 158 S-9 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	10	間伐 25.0% (整備後本数 600 本/ha)
...
令和 16 年	12	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

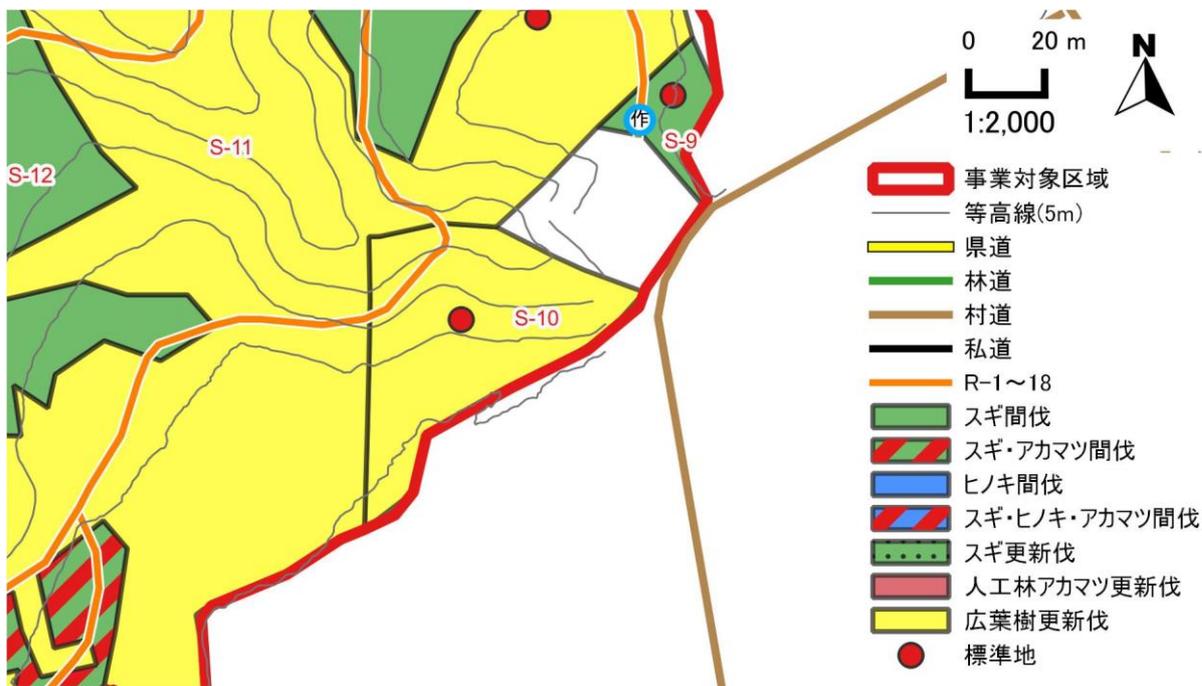
図表 159 S-9 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		4.98	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	3.36	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	0.69	m3	13.9%	残置	—
	その他	0.92	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		1.15	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.12 詳細設計 (S-10 地区)

図表 160 S-10 地区



標準地調査の結果をもとに、S-10 地区の現況について図表 161 にまとめる。

図表 161 S-10 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、10 齢級 (48~50 年生)
実測面積	0.31ha
標準地 ^{※1}	1 箇所 (100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	558 本 (1,800 本/ha)、20.15m ³ (65.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 9cm、平均樹高 9m、形状比 100
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、クリ、ヤマザクラ、ホオノキ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-10 地区の標準地

図表 162 S-10 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	434 本(1,400 本/ha)、10.23m ³ (33.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 8cm、平均樹高 8m
伐採率	77.8%(本数)、50.8%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 163 にまとめる。

図表 163 S-10 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.31ha		0.31ha
本数	558 本(1,800 本/ha)		124 本(400 本/ha)
蓄積	20.15m ³ (65.0m ³ /ha)		9.92m ³ (32.0m ³ /ha)
直径、樹高	9cm、9m		14cm、11m
相対幹距比(Sr)	26%		45%
形状比(H/D)	形状比 100		形状比 79

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 164 S-10 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	10	更新伐 77.8% (整備後本数 400 本/ha)
...
令和 9 年	1	萌芽整理
...
令和 16 年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

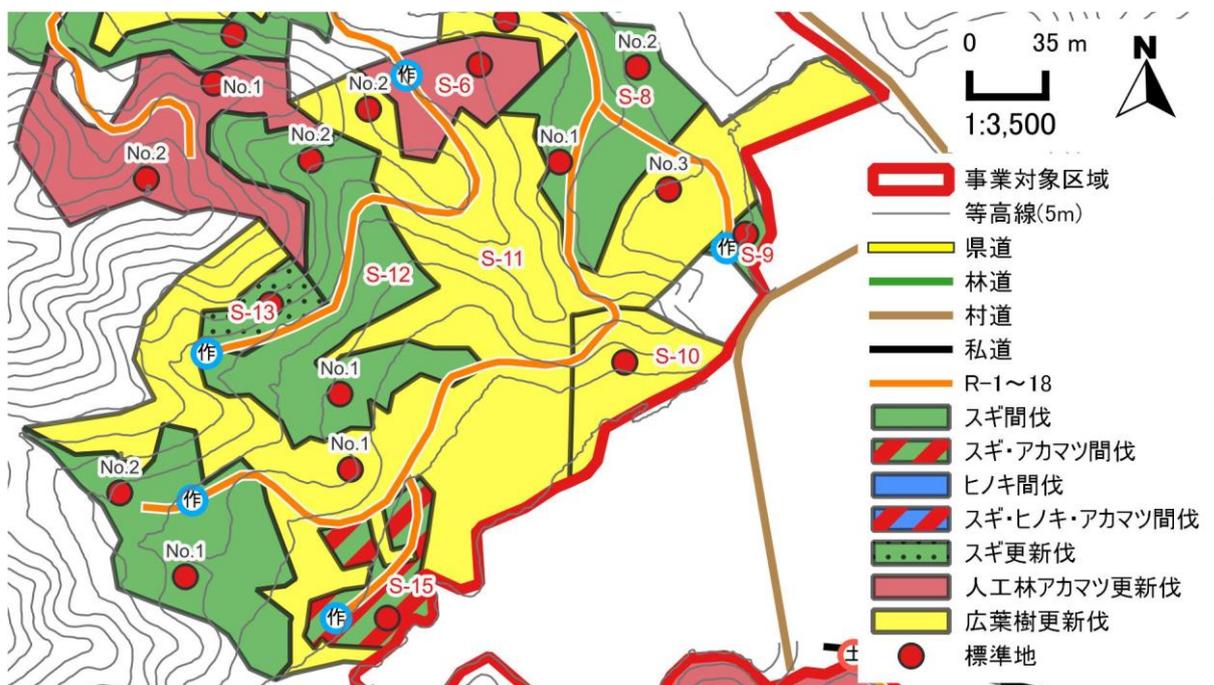
図表 165 S-10 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		10.23	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	6.91	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	1.42	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	1.89	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		3.27	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.13 詳細設計(S-11 地区)

図表 166 S-11 地区



標準地調査の結果をもとに、S-11 地区の現況について図表 167 にまとめる。

図表 167 S-11 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、10～13 齢級(48～64 年生)
実測面積	2.85ha
標準地 ^{※1}	3 箇所(300m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	3,990 本(1,400 本/ha)、1,151.40m ³ (404.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 18cm、平均樹高 13m、形状比 72
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、クリ、ヤマザクラ、モミ等の高木性の樹種が多い。アカマツが混じる。ナラ枯れ、マツ枯れが見られる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-11 地区の No. 1 標準地



S-11 地区の No. 2 標準地



S-11 地区の No. 3 標準地

図表 168 S-11 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	3,420本(1,200本/ha)、864.41m ³ (303.3m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径17cm、平均樹高12m
伐採率	85.7%(本数)、75.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 169 にまとめる。

図表 169 S-11 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	2.85ha		2.85ha
本数	3,990本(1,400本/ha)		570本(200本/ha)
蓄積	1,151.40m ³ (404.0m ³ /ha)		287.00m ³ (100.7m ³ /ha)
直径、樹高	18cm、13m		22cm、15m
相対幹距比(Sr)	21%		47%
形状比(H/D)	形状比72		形状比68

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 170 S-11 地区の将来計画

年	齢級	施業
令和6年	10~13	更新伐 85.7%(整備後本数200本/ha)
...
令和9年	1	萌芽整理
...
令和16年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

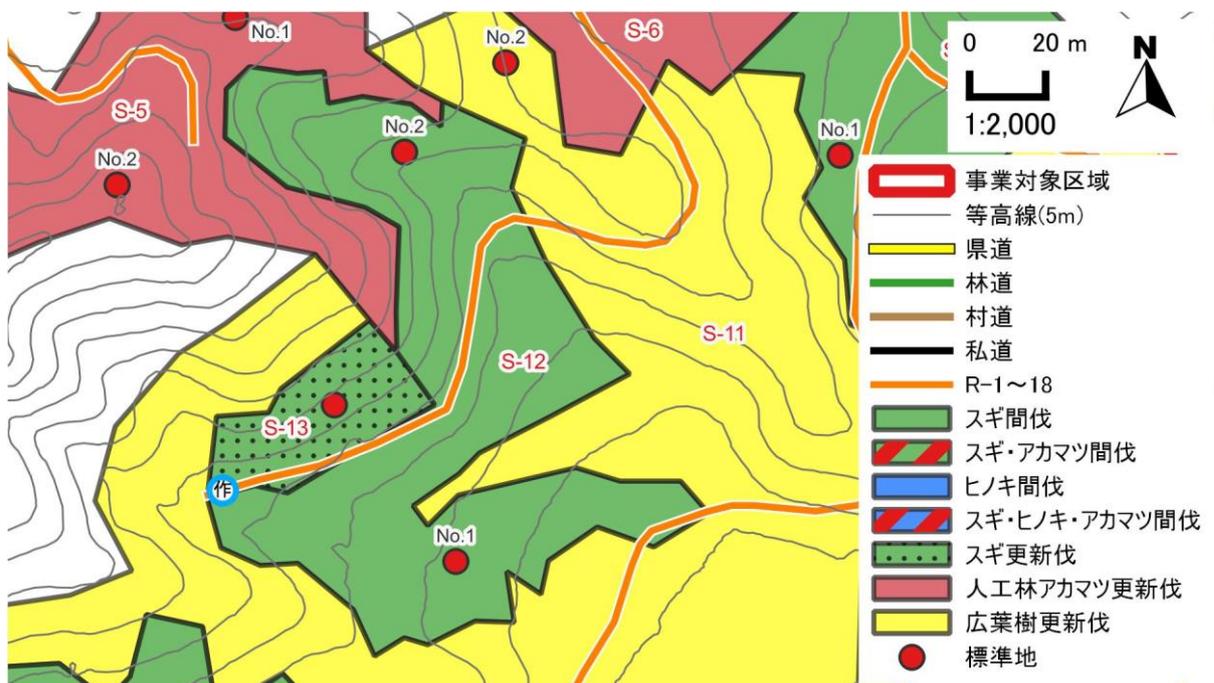
図表 171 S-11 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		864.41	m3	—	—	—
内 訳	AB材	583.48	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	120.15	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	159.92	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		276.61	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は1.23、広葉樹は1.32。

1.14 詳細設計(S-12 地区)

図表 172 S-12 地区



標準地調査の結果をもとに、S-12 地区の現況について図表 173 にまとめる。

図表 173 S-12 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	スギ、11～13 齢級 (55～65 年生)
実測面積	0.82ha
標準地 ^{※1}	2 箇所 (200m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	738 本 (900 本/ha)、769.57m ³ (938.5m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 36cm、平均樹高 25m、形状比 69
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。モミ、広葉樹が混じる。部分的に下層にヒノキが植えられている。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-12 地区の No. 1 標準地



S-12 地区の No. 2 標準地

図表 174 S-12 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。下層のヒノキ植栽木は残す。
伐採本数・材積 ^{※1}	246 本(300 本/ha)、155.39m ³ (189.5m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 29cm、平均樹高 23m
伐採率	33.3%(本数)、20.2%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ。の値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 175 にまとめる。

図表 175 S-12 地区の整備後の状況

区 分	整備前		整備後
樹種	スギ	間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.82ha		0.82ha
本数	738本(900本/ha)		492本(600本/ha)
蓄積	769.57m ³ (938.5m ³ /ha)		614.18m ³ (749.0m ³ /ha)
直径、樹高	36cm、25m		40cm、26m
相対幹距比(Sr)	13%		16%
形状比(H/D)	形状比 69		形状比 65

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 176 S-12 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	11~13	間伐 33.3%(整備後本数 600 本/ha)
...
令和 16 年	13~15	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

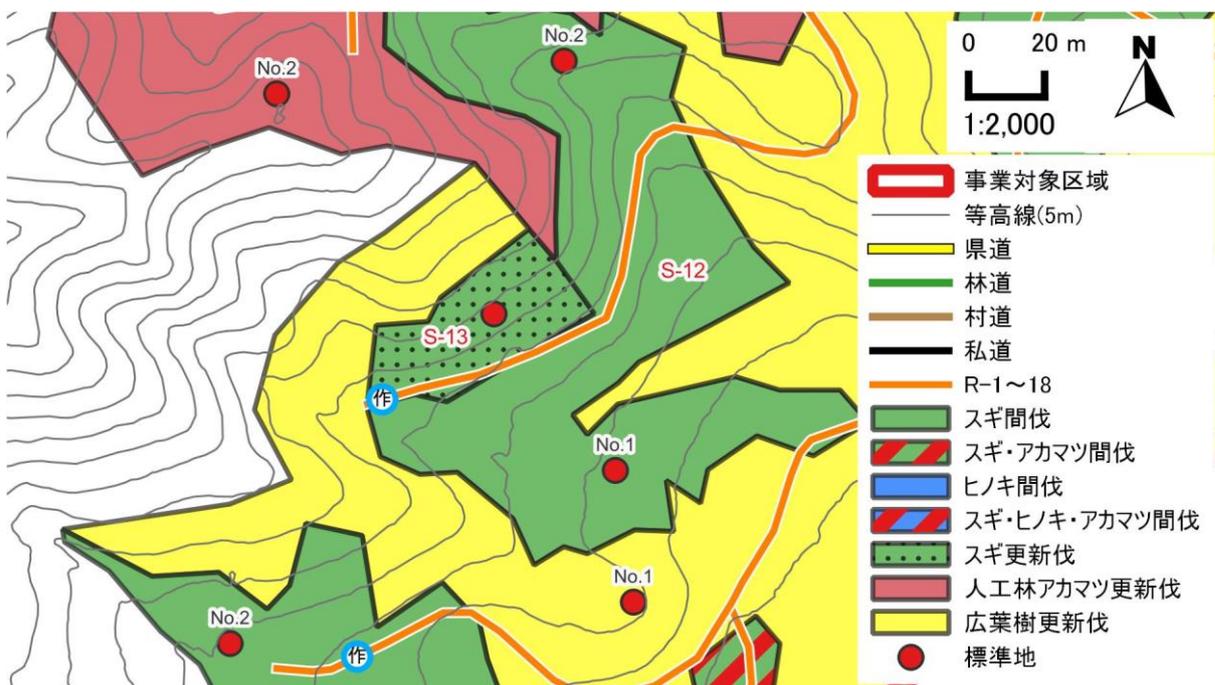
図表 177 S-12 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		155.39	m ³	—	—	—
内 訳	AB材	104.89	m ³	67.5%	搬出利用	並材
	C材等	21.60	m ³	13.9%	残置	—
	その他	28.75	m ³	18.5%	残置	—
枝 葉		35.74	m ³	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.15 詳細設計(S-13 地区)

図表 178 S-13 地区



標準地調査の結果をもとに、S-13 地区の現況について図表 179 にまとめる。

図表 179 S-13 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	スギ、11 齢級(52 年生)
実測面積	0.13ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	403 本(3,100 本/ha)、37.57m ³ (289.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 12cm、平均樹高 10m、形状比 83
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。広葉樹がスギの樹冠をおさえるように成長している。
下層植生	下層植生は乏しいものの、高木性の広葉樹も見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-13 地区の標準地

図表 180 S-13 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。広葉樹は残す。
伐採本数・材積 ^{※1}	182 本(1,400 本/ha)、4.29m ³ (33.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 8cm、平均樹高 7m
伐採率	45.2%(本数)、11.4%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 181 にまとめる。

図表 181 S-13 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	更新伐 ⇒	スギ
実測面積	0.13ha		0.13ha
本数	403 本(3,100 本/ha)		221 本(1,700 本/ha)
蓄積	37.57m ³ (289.0m ³ /ha)		33.28m ³ (256.0m ³ /ha)
直径、樹高	12cm、10m		16cm、12m
相対幹距比(Sr)	18%		20%
形状比(H/D)	形状比 83		形状比 75

○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で更新伐を実施することが望ましい。

図表 182 S-13 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	11	更新伐 45.2% (整備後本数 1,700 本/ha)
...
令和 16 年	13	更新伐 45.0% (整備後本数 935 本/ha)
...
令和 16 年	15	更新伐 45.0% (整備後本数 514 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

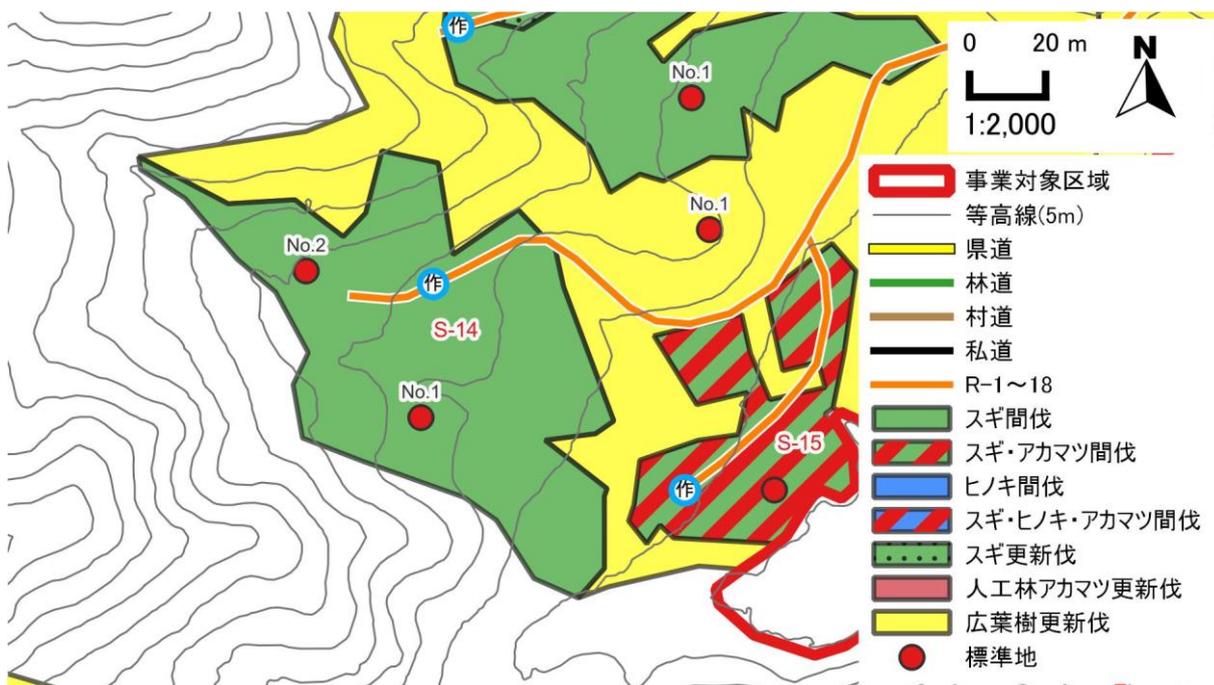
図表 183 S-13 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		4.29	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	2.90	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	0.60	m3	13.9%	残置	—
	その他	0.79	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		0.99	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.16 詳細設計(S-14 地区)

図表 184 S-14 地区



標準地調査の結果をもとに、S-14 地区の現況について図表 185 にまとめる。

図表 185 S-14 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	スギ、11～12 齢級(55～60 年生)
実測面積	0.64ha
標準地 ^{※1}	2 箇所(200m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	576 本(900 本/ha)、721.92m ³ (1,128.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 34cm、平均樹高 26m、形状比 76
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。アカマツ、広葉樹混じる。部分的に下層にヒノキが植えられている。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-14 地区の No. 1 標準地



S-14 地区の No. 2 標準地

図表 186 S-14 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。アカマツは優先的に伐採する。下層のヒノキ植栽木は残す。
伐採本数・材積 ^{※1}	192 本(300 本/ha)、98.88m ³ (154.5m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 23cm、平均樹高 23m
伐採率	33.3%(本数)、13.7%(材積)
その他	なし

※1 上層木だけの値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 187 にまとめる。

図表 187 S-14 地区の整備後の状況

区 分	整備前		整備後
樹種	スギ	間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.64ha		0.64ha
本数	576 本(900 本/ha)		384 本(600 本/ha)
蓄積	721.92m ³ (1,128.0m ³ /ha)		623.04m ³ (973.5m ³ /ha)
直径、樹高	34cm、26m		39cm、27m
相対幹距比(Sr)	13%		15%
形状比(H/D)	形状比 76		形状比 69

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 188 S-14 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	11~12	間伐 33.3%(整備後本数 600 本/ha)
...
令和 16 年	13~14	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

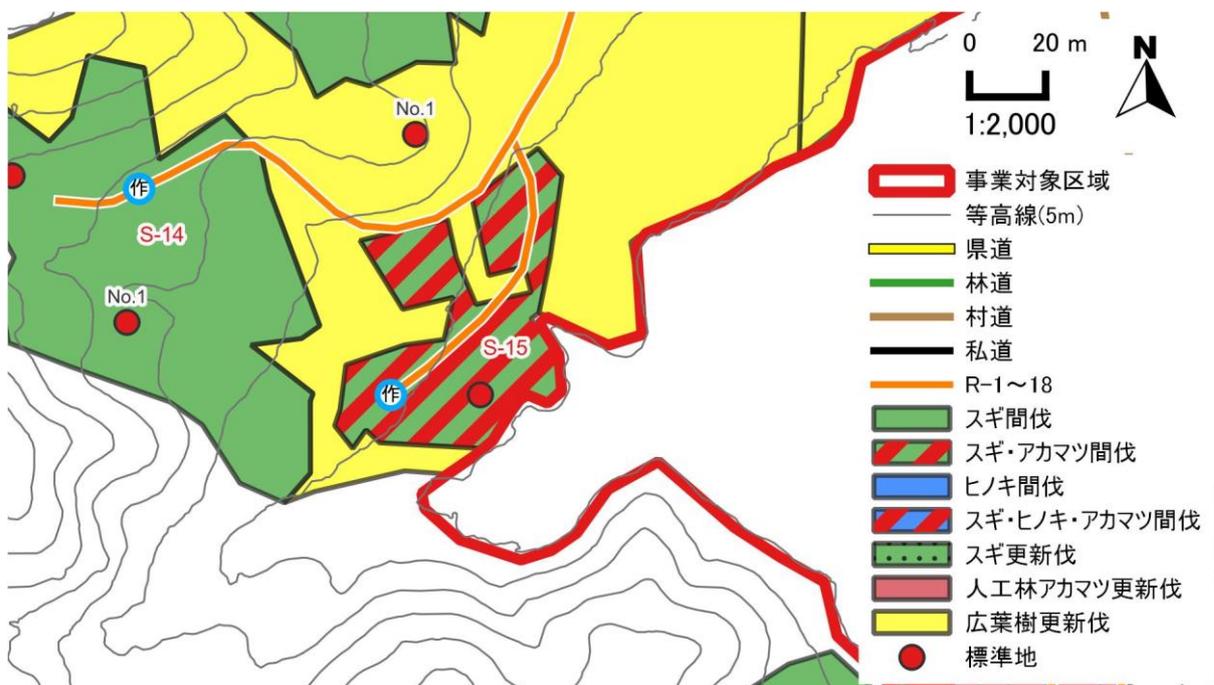
図表 189 S-14 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		98.88	m ³	—	—	—
内 訳	AB 材	66.74	m ³	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	13.74	m ³	13.9%	残置	—
	その他	18.29	m ³	18.5%	残置	—
枝 葉		22.74	m ³	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.17 詳細設計(S-15 地区)

図表 190 S-15 地区



標準地調査の結果をもとに、S-15 地区の現況について図表 191 にまとめる。

図表 191 S-15 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	アカマツ・スギ、12 齢級(60 年生)
実測面積	0.26ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	182 本(700 本/ha)、184.34m ³ (709.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 33cm、平均樹高 24m、形状比 73
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。モミが混じる。広葉樹が混じる。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-15 地区の標準地

図表 192 S-15 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	52 本(200 本/ha)、46.28m ³ (178.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 32cm、平均樹高 24m
伐採率	28.6%(本数)、25.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ不值。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 193 にまとめる。

図表 193 S-15 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	アカマツ・スギ	間伐 ⇒	アカマツ・スギ
実測面積	0.26ha		0.26ha
本数	182 本(700 本/ha)		130 本(500 本/ha)
蓄積	184.34m ³ (709.0m ³ /ha)		138.06m ³ (531.0m ³ /ha)
直径、樹高	33cm、24m		34cm、23m
相対幹距比(Sr)	16%		19%
形状比(H/D)	形状比 73		形状比 68

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 194 S-15 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	12	間伐 28.6% (整備後本数 500 本/ha)
...
令和 16 年	14	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

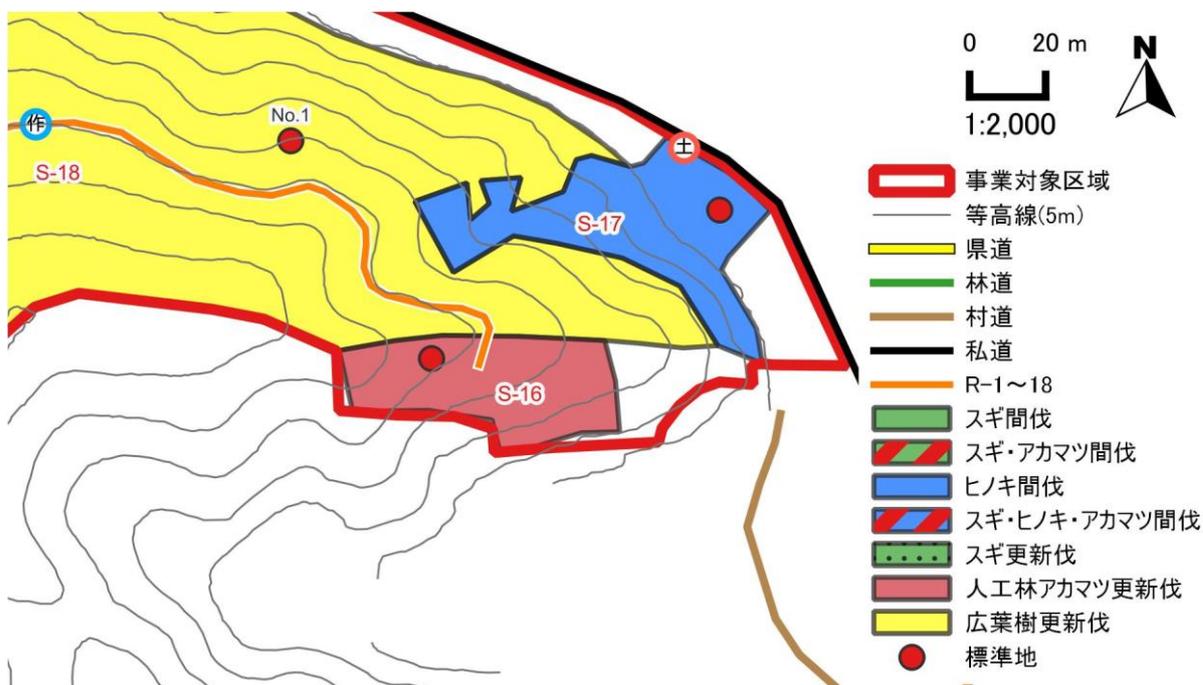
図表 195 S-15 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		46.28	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	31.24	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	6.43	m3	13.9%	残置	—
	その他	8.56	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		10.64	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.18 詳細設計(S-16 地区)

図表 196 S-16 地区



標準地調査の結果をもとに、S-16 地区の現況について図表 197 にまとめる。

図表 197 S-16 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	アカマツ、9 齢級(41 年生)
実測面積	0.16ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	288 本(1,800 本/ha)、74.72m ³ (467.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 17cm、平均樹高 14m、形状比 82
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。スギ、ヒノキが混じる。コナラ、ウワミズザクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-16 地区の標準地

図表 198 S-16 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の広葉樹のうちコナラ以外の樹種を優先的に残す。
伐採本数・材積 ^{※1}	144 本(900 本/ha)、10.56m ³ (66.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 12cm、平均樹高 12m
伐採率	50.0%(本数)、14.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 199 にまとめる。

図表 199 S-16 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	アカマツ	更新伐 ⇒	アカマツ
実測面積	0.16ha		0.16ha
本数	288 本(1,800 本/ha)		144 本(900 本/ha)
蓄積	74.72m ³ (467.0m ³ /ha)		64.16m ³ (401.0m ³ /ha)
直径、樹高	17cm、14m		23cm、16m
相対幹距比(Sr)	17%		21%
形状比(H/D)	形状比 82		形状比 70

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 200 S-16 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	9	更新伐 50.0% (整備後本数 900 本/ha)
...
令和 16 年	11	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

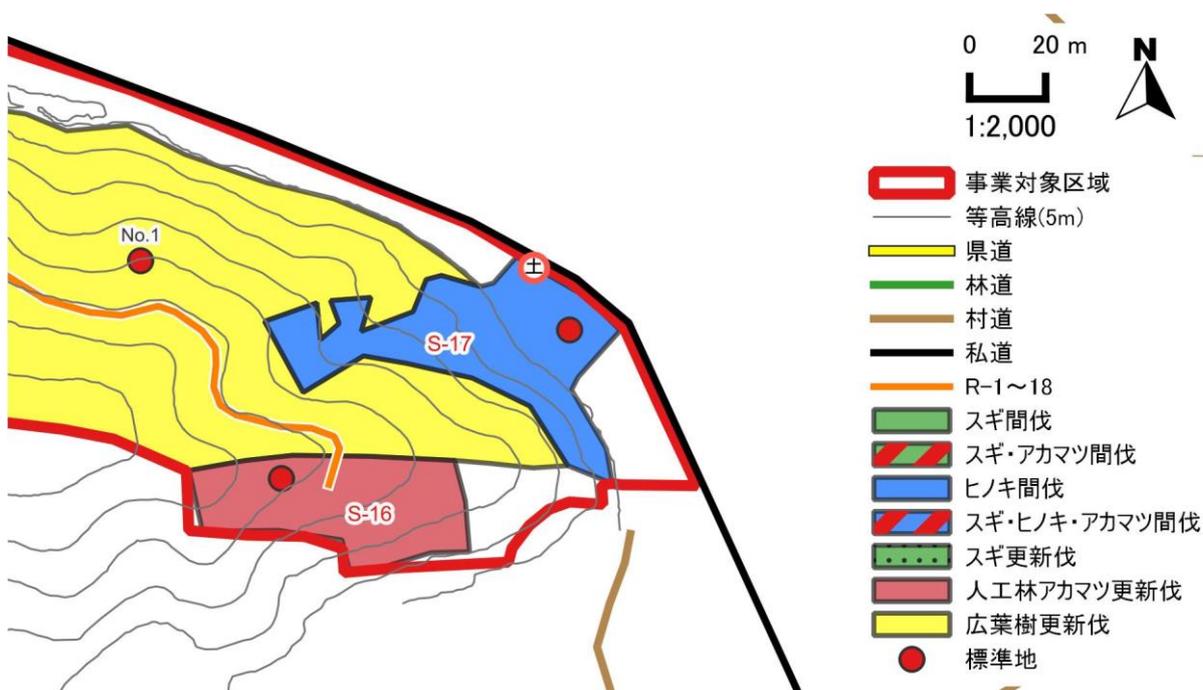
図表 201 S-16 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		10.56	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	7.13	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	1.47	m3	13.9%	残置	—
	その他	1.95	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		2.43	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.19 詳細設計 (S-17 地区)

図表 202 S-17 地区



標準地調査の結果をもとに、S-17 地区の現況について図表 203 にまとめる。

図表 203 S-17 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	ヒノキ、11 齢級 (52 年生)
実測面積	0.22ha
標準地 ^{※1}	1 箇所 (100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	220 本 (1,000 本/ha)、135.52m ³ (616.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 27cm、平均樹高 21m、形状比 78
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。スギが混じる。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-17 地区の標準地

図表 204 S-17 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	66 本(300 本/ha)、25.08m ³ (114.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 22cm、平均樹高 20m
伐採率	30.0%(本数)、18.5%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 205 にまとめる。

図表 205 S-17 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	ヒノキ	間伐 ⇒	ヒノキ
実測面積	0.22ha		0.22ha
本数	220 本(1,000 本/ha)		154 本(700 本/ha)
蓄積	135.52m ³ (616.0m ³ /ha)		110.44m ³ (502.0m ³ /ha)
直径、樹高	27cm、21m		29cm、22m
相対幹距比(Sr)	15%		17%
形状比(H/D)	形状比 78		形状比 76

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 206 S-17 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	11	間伐 30.0% (整備後本数 700 本/ha)
...
令和 16 年	13~18	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

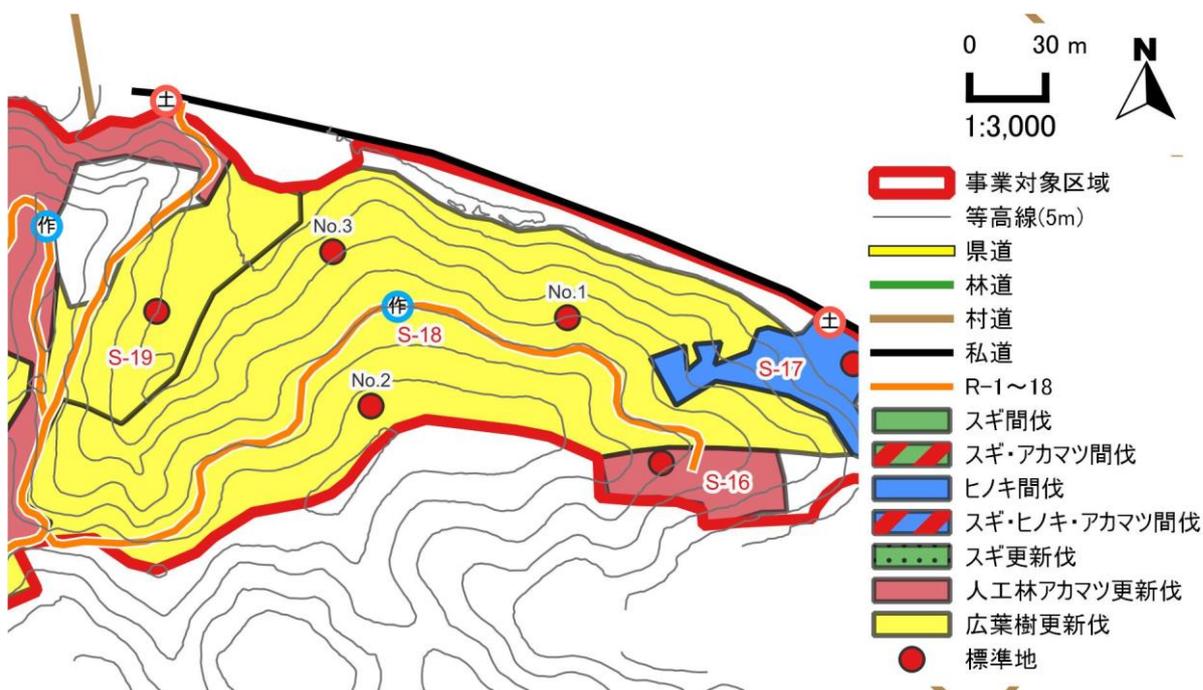
図表 207 S-17 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		25.08	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	16.93	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	3.49	m3	13.9%	残置	—
	その他	4.64	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		5.77	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.20 詳細設計(S-18 地区)

図表 208 S-18 地区



標準地調査の結果をもとに、S-18 地区の現況について図表 209 にまとめる。

図表 209 S-18 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、7～9 齢級(33～41 年生)
実測面積	2.34ha
標準地 ^{※1}	3 箇所(300m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	7,722 本(3,300 本/ha)、379.78m ³ (162.3m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 10cm、平均樹高 9m、形状比 90
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、クリ、ヤマザクラ、ホオノキ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-18 地区の No. 1 標準地



S-18 地区の No. 2 標準地



S-18 地区の No. 3 標準地

図表 210 S-18 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	6,552本(2,800本/ha)、322.22m ³ (137.7m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径10cm、平均樹高8m
伐採率	84.8%(本数)、84.8%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 211 にまとめる。

図表 211 S-18 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	2.34ha		2.34ha
本数	7,722本(3,300本/ha)		1,170本(500本/ha)
蓄積	379.78m ³ (162.3m ³ /ha)		57.80m ³ (24.7m ³ /ha)
直径、樹高	10cm、9m		10cm、10m
相対幹距比(Sr)	19%		45%
形状比(H/D)	形状比90		形状比100

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 212 S-18 地区の将来計画

年	齢級	施業
令和6年	7~9	更新伐 84.8%(整備後本数500本/ha)
...
令和9年	1	萌芽整理
...
令和16年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

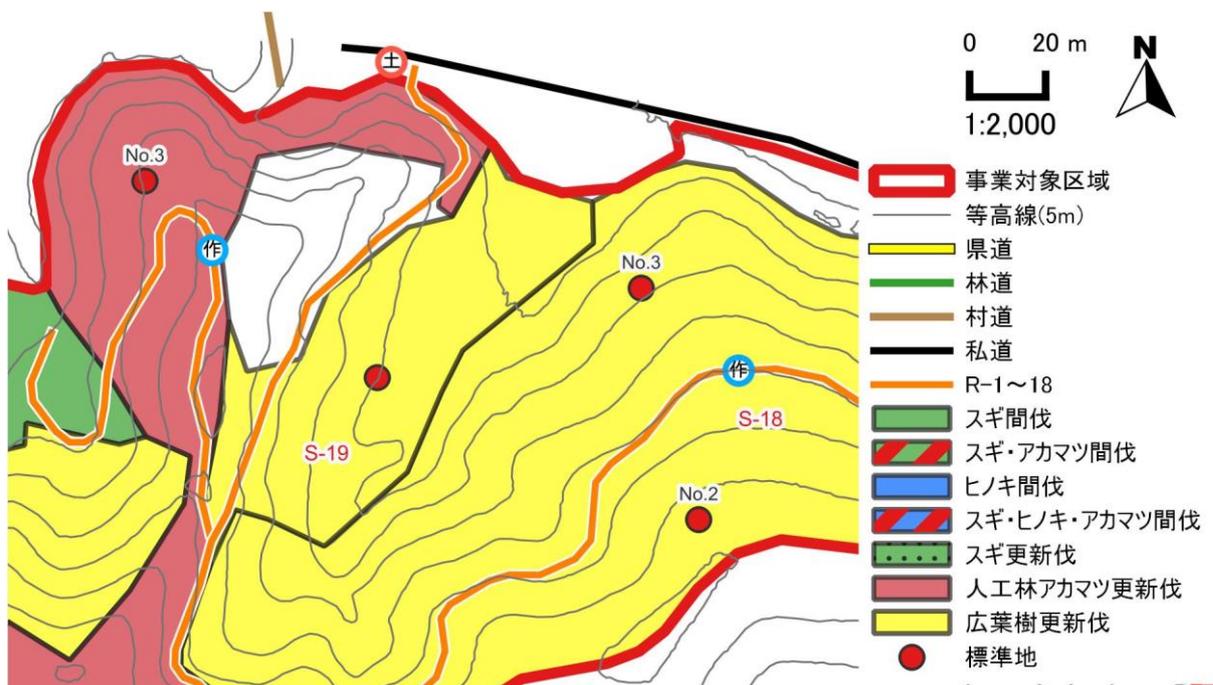
図表 213 S-18 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		322.22	m3	—	—	—
内 訳	AB材	217.50	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	44.79	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	59.61	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		103.11	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.21 詳細設計(S-19 地区)

図表 214 S-19 地区



標準地調査の結果をもとに、S-19 地区の現況について図表 215 にまとめる。

図表 215 S-19 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、13～16 齢級(62～77 年生)
実測面積	0.45ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	675 本(1,500 本/ha)、128.70m ³ (286.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 16cm、平均樹高 12m、形状比 75
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、ホオノキ、ウワミズザクラ、モミ等の高木性の樹種が多い。スギが混じる。ナラ枯れが見られる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-19 地区の標準地

図表 216 S-19 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	585 本(1,300 本/ha)、89.55m ³ (199.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 14cm、平均樹高 10m
伐採率	86.7%(本数)、69.6%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 217 にまとめる。

図表 217 S-19 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.45ha		0.45ha
本数	675 本(1,500 本/ha)		90 本(200 本/ha)
蓄積	128.70m ³ (286.0m ³ /ha)		39.15m ³ (87.0m ³ /ha)
直径、樹高	16cm、12m		24cm、19m
相対幹距比(Sr)	22%		37%
形状比(H/D)	形状比 75		形状比 79

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 218 S-19 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	13～16	更新伐 86.7% (整備後本数 200 本/ha)
...
令和 9 年	1	萌芽整理
...
令和 16 年	2～	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

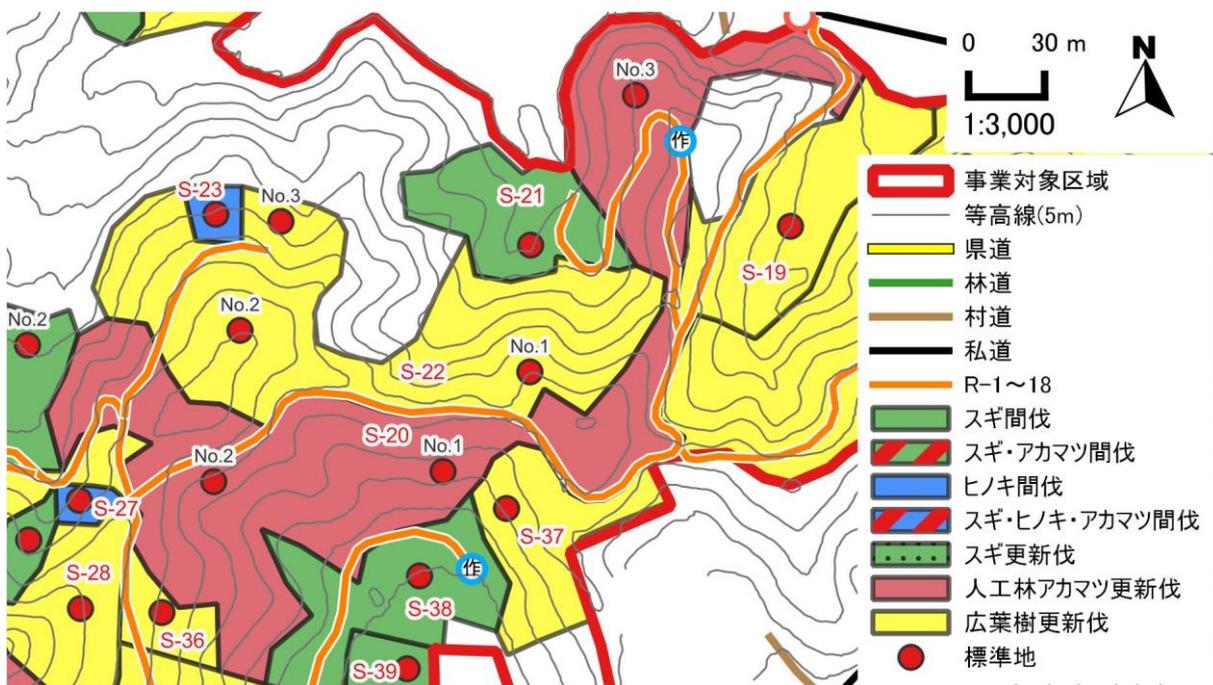
図表 219 S-19 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		89.55	m3	—	—	—
内 訳	AB材	60.45	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	12.45	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	16.57	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		28.66	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.22 詳細設計(S-20 地区)

図表 220 S-20 地区



標準地調査の結果をもとに、S-20 地区の現況について図表 221 にまとめる。

図表 221 S-20 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	アカマツ、11～14 齢級(53～67 年生)
実測面積	1.85ha
標準地 ^{※1}	3 箇所(300m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	1,295 本(700 本/ha)、854.15m ³ (461.7m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 28cm、平均樹高 20m、形状比 71
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。スギが混じる。コナラ、ウワミズザクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。部分的に下層にヒノキが植えられている。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-20 地区の No. 1 標準地



S-20 地区の No. 2 標準地



S-20 地区の No. 3 標準地

図表 222 S-20 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の広葉樹のうちコナラ、ミズナラ以外の樹種を優先的に残す。
伐採本数・材積 ^{※1}	555 本(300 本/ha)、252.90m ³ (136.7m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 23cm、平均樹高 19m
伐採率	42.9%(本数)、29.6%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 223 にまとめる。

図表 223 S-20 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	アカマツ	更新伐 ⇒	アカマツ
実測面積	1.85ha		1.85ha
本数	1,295 本(700 本/ha)		740 本(400 本/ha)
蓄積	854.15m ³ (461.7m ³ /ha)		601.25m ³ (325.0m ³ /ha)
直径、樹高	28cm、20m		32cm、22m
相対幹距比(Sr)	19%		23%
形状比(H/D)	形状比 71		形状比 69

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 224 S-20 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	11~14	更新伐 42.9%(整備後本数 400 本/ha)
...
令和 16 年	13~16	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

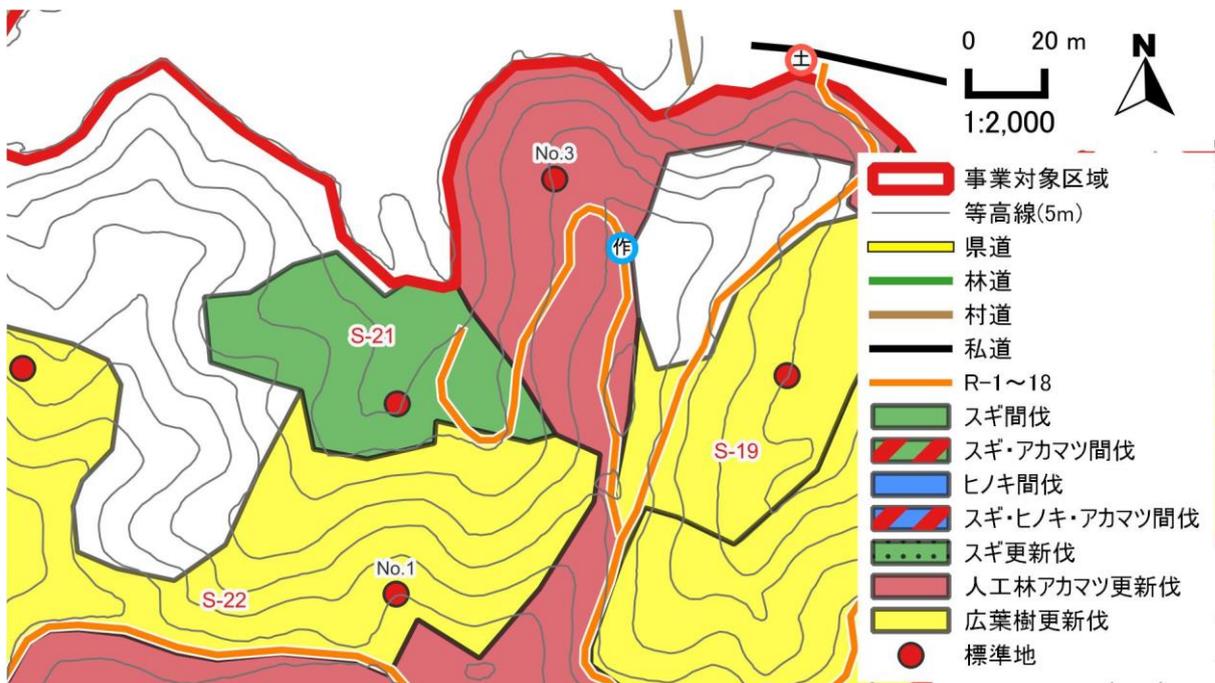
図表 225 S-20 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		252.90	m3	—	—	—
内 訳	AB材	170.71	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	35.15	m3	13.9%	残置	—
	その他	46.79	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		58.17	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は1.23、広葉樹は1.32。

1.23 詳細設計(S-21 地区)

図表 226 S-21 地区



標準地調査の結果をもとに、S-21 地区の現況について図表 227 にまとめる。

図表 227 S-21 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	スギ、12 齢級(58 年生)
実測面積	0.30ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	270 本(900 本/ha)、242.10m ³ (807.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 30cm、平均樹高 24m、形状比 80
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。カラマツ、モミが混じる。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-21 地区の標準地

図表 228 S-21 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	90 本(300 本/ha)、59.40m ³ (198.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 26cm、平均樹高 23m
伐採率	33.3%(本数)、24.5%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 229 にまとめる。

図表 229 S-21 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.30ha		0.30ha
本数	270 本(900 本/ha)		180 本(600 本/ha)
蓄積	242.10m ³ (807.0m ³ /ha)		182.70m ³ (609.0m ³ /ha)
直径、樹高	30cm、24m		32cm、25m
相対幹距比(Sr)	14%		16%
形状比(H/D)	形状比 80		形状比 78

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 230 S-21 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	12	間伐 33.3% (整備後本数 600 本/ha)
...
令和 16 年	14	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

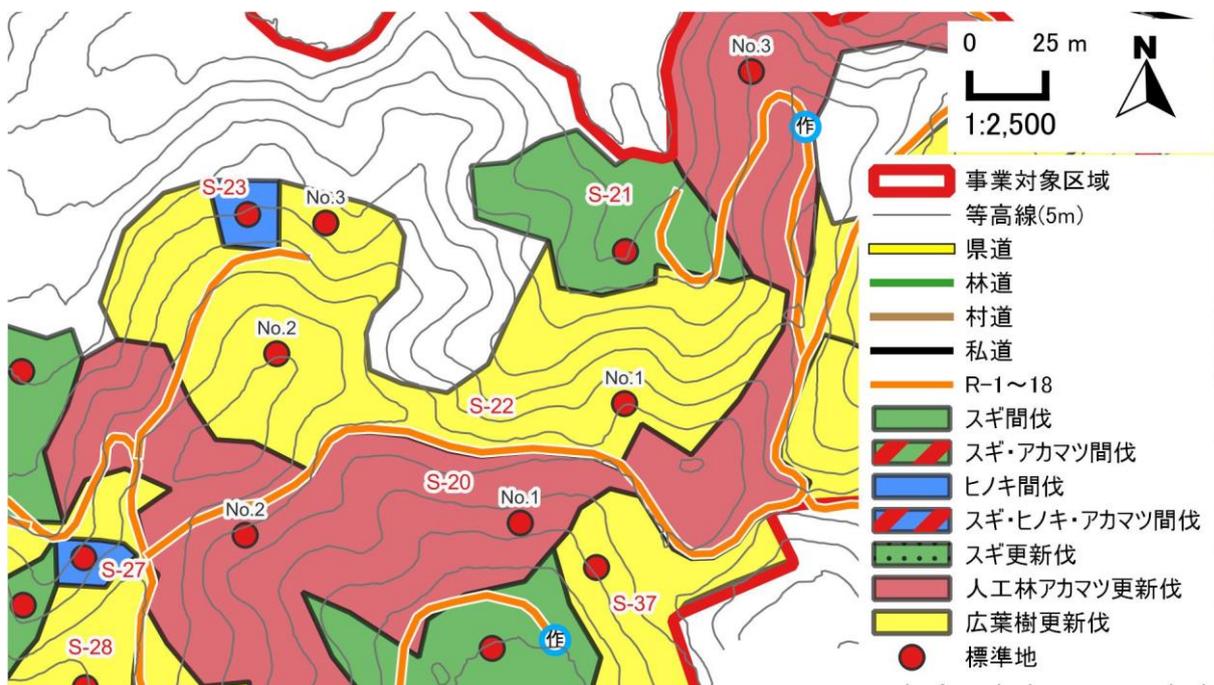
図表 231 S-21 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		59.40	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	40.10	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	8.26	m3	13.9%	残置	—
	その他	10.99	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		13.66	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.24 詳細設計(S-22 地区)

図表 232 S-22 地区



標準地調査の結果をもとに、S-22 地区の現況について図表 233 にまとめる。

図表 233 S-22 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、13～16 齢級(62～77 年生)
実測面積	1.16ha
標準地 ^{※1}	3 箇所(300m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	2,784 本(2,400 本/ha)、278.05m ³ (239.7m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 12cm、平均樹高 10m、形状比 83
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、クリ、ヤマザクラ、タカノツメ、モミ等の高木性の樹種が多い。アカマツが混じる。ナラ枯れ、マツ枯れが見られる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-22 地区の No. 1 標準地



S-22 地区の No. 2 標準地



S-22 地区の No. 3 標準地

図表 234 S-22 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	2,204本(1,900本/ha)、225.39m ³ (194.3m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径11cm、平均樹高10m
伐採率	79.2%(本数)、81.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 235 にまとめる。

図表 235 S-22 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	1.16ha		1.16ha
本数	2,784本(2,400本/ha)		580本(500本/ha)
蓄積	278.05m ³ (239.7m ³ /ha)		52.55m ³ (45.3m ³ /ha)
直径、樹高	12cm、10m		13cm、11m
相対幹距比(Sr)	20%		41%
形状比(H/D)	形状比83		形状比85

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 236 S-22 地区の将来計画

年	齢級	施業
令和6年	13~16	更新伐 79.2%(整備後本数500本/ha)
...
令和9年	1	萌芽整理
...
令和16年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

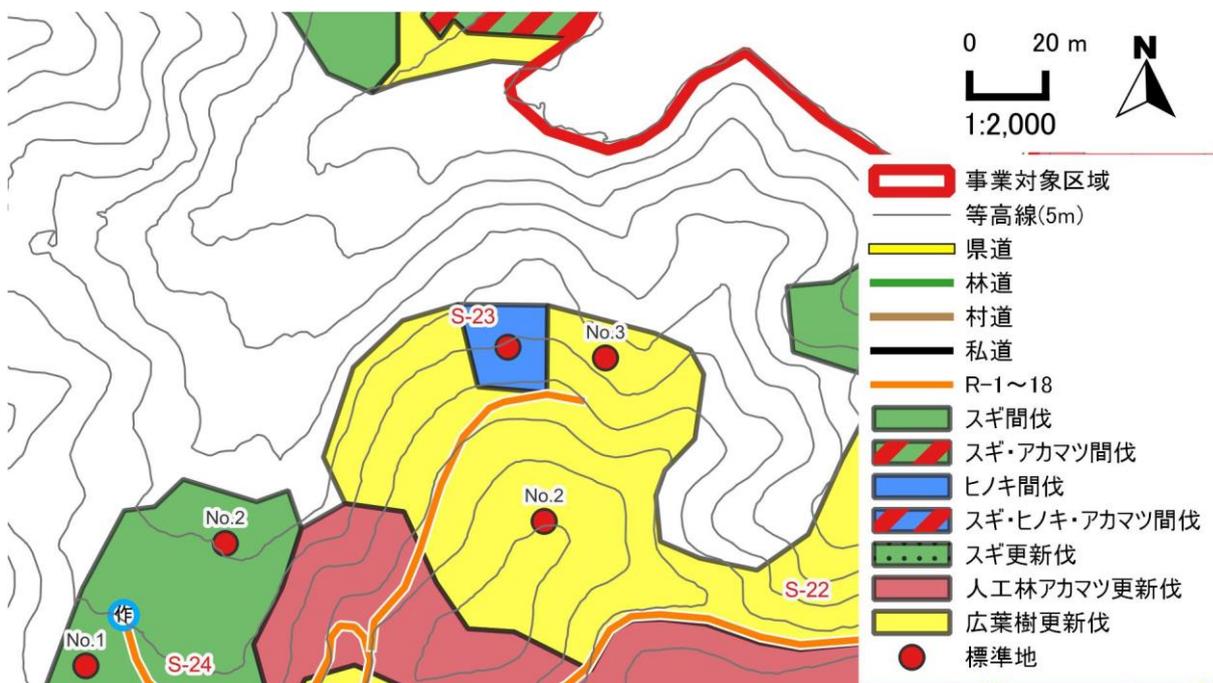
図表 237 S-22 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		225.39	m3	—	—	—
内 訳	AB材	152.14	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	31.33	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	41.70	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		72.12	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は1.23、広葉樹は1.32。

1.25 詳細設計(S-23 地区)

図表 238 S-23 地区



標準地調査の結果をもとに、S-23 地区の現況について図表 239 にまとめる。

図表 239 S-23 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	ヒノキ、10 齢級(50 年生)
実測面積	0.05ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	90 本(1,800 本/ha)、21.90m ³ (438.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 18cm、平均樹高 17m、形状比 94
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。広葉樹が混じる。
下層植生	下層植生は極めて乏しく、ほとんど見られない。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-23 地区の標準地

図表 240 S-23 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	30 本(600 本/ha)、5.30m ³ (106.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 16cm、平均樹高 16m
伐採率	33.3%(本数)、24.2%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 241 にまとめる。

図表 241 S-23 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	ヒノキ	間伐 ⇒	ヒノキ
実測面積	0.05ha		0.05ha
本数	90 本(1,800 本/ha)		60 本(1,200 本/ha)
蓄積	21.90m ³ (438.0m ³ /ha)		16.60m ³ (332.0m ³ /ha)
直径、樹高	18cm、17m		19cm、18m
相対幹距比(Sr)	14%		16%
形状比(H/D)	形状比 94		形状比 95

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 242 S-23 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	10	間伐 33.3% (整備後本数 1,200 本/ha)
...
令和 16 年	12	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

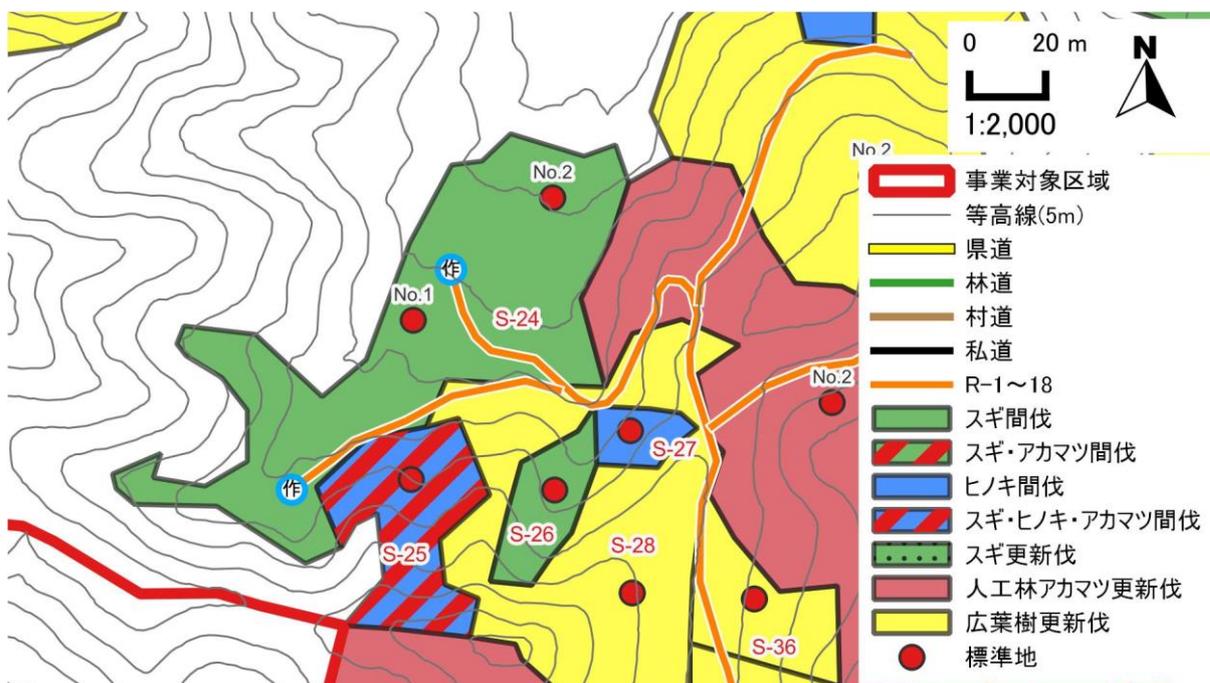
図表 243 S-23 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		5.30	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	3.58	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	0.74	m3	13.9%	残置	—
	その他	0.98	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		1.22	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.26 詳細設計(S-24 地区)

図表 244 S-24 地区



標準地調査の結果をもとに、S-24 地区の現況について図表 245 にまとめる。

図表 245 S-24 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	スギ、15 齢級(73 年生)
実測面積	0.52ha
標準地 ^{※1}	2 箇所(200m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	520 本(1,000 本/ha)、539.76m ³ (1,038.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 31cm、平均樹高 28m、形状比 90
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。モミ、広葉樹が混じる。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-24 地区の No. 1 標準地



S-24 地区の No. 2 標準地

図表 246 S-24 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	208 本(400 本/ha)、147.68m ³ (284.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 28cm、平均樹高 28m
伐採率	40.0%(本数)、27.4%(材積)
その他	なし

※1 上層木のための値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 247 にまとめる。

図表 247 S-24 地区の整備後の状況

区 分	整備前		整備後
樹種	スギ	間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.52ha		0.52ha
本数	520本(1,000本/ha)		312本(600本/ha)
蓄積	539.76m ³ (1,038.0m ³ /ha)		392.08m ³ (754.0m ³ /ha)
直径、樹高	31cm、28m		33cm、28m
相対幹距比(Sr)	11%		15%
形状比(H/D)	形状比 90		形状比 85

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 248 S-24 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和6年	15	間伐 40.0%(整備後本数600本/ha)
...
令和16年	17	主伐 100.0%(整備後本数0本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

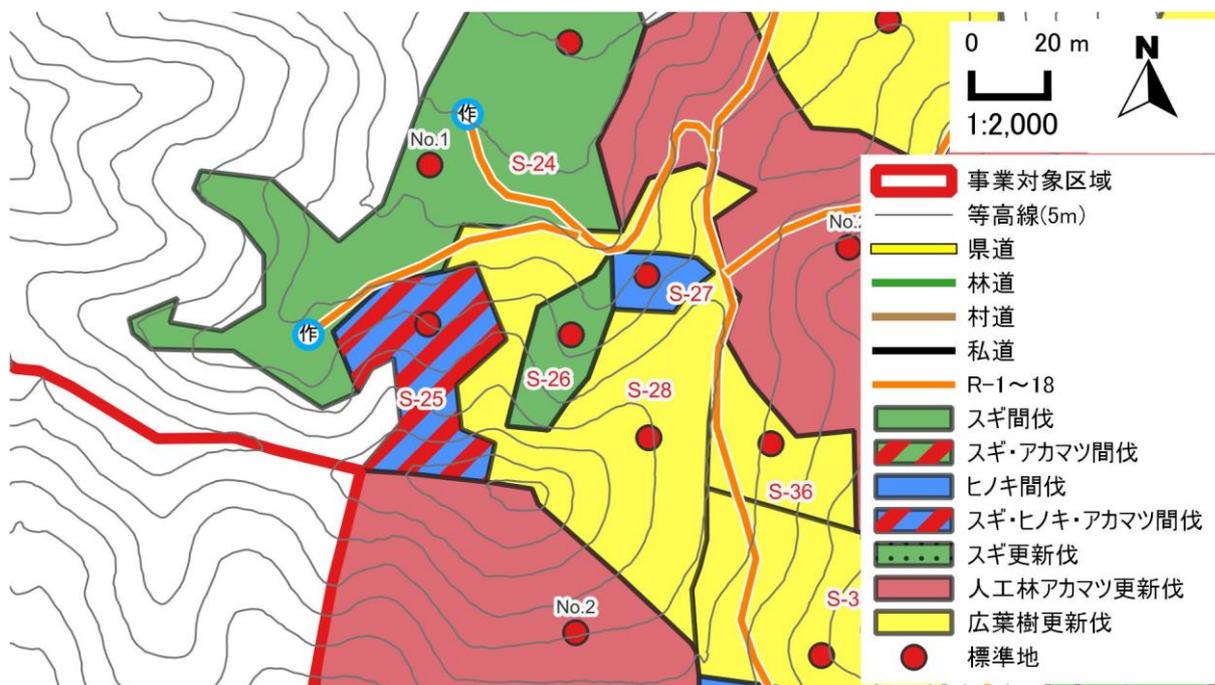
図表 249 S-24 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		147.68	m ³	—	—	—
内 訳	AB材	99.68	m ³	67.5%	搬出利用	並材
	C材等	20.53	m ³	13.9%	残置	—
	その他	27.32	m ³	18.5%	残置	—
枝 葉		33.97	m ³	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は1.23、広葉樹は1.32。

1.27 詳細設計(S-25 地区)

図表 250 S-25 地区



標準地調査の結果をもとに、S-25 地区の現況について図表 251 にまとめる。

図表 251 S-25 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	アカマツ・スギ・ヒノキ、11 齢級(53 年生)
実測面積	0.15ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	195 本(1,300 本/ha)、106.05m ³ (707.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 24cm、平均樹高 20m、形状比 83
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。モミが混じる。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-25 地区の標準地

図表 252 S-25 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	75 本(500 本/ha)、36.75m ³ (245.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 23cm、平均樹高 18m
伐採率	38.5%(本数)、34.7%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 253 にまとめる。

図表 253 S-25 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	アカマツ・スギ・ヒノキ	間伐 ⇒	アカマツ・スギ・ヒノキ
実測面積	0.15ha		0.15ha
本数	195 本(1,300 本/ha)		120 本(800 本/ha)
蓄積	106.05m ³ (707.0m ³ /ha)		69.30m ³ (462.0m ³ /ha)
直径、樹高	24cm、20m		25cm、22m
相対幹距比(Sr)	14%		16%
形状比(H/D)	形状比 83		形状比 88

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 254 S-25 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	11	間伐 38.5% (整備後本数 800 本/ha)
...
令和 16 年	13	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

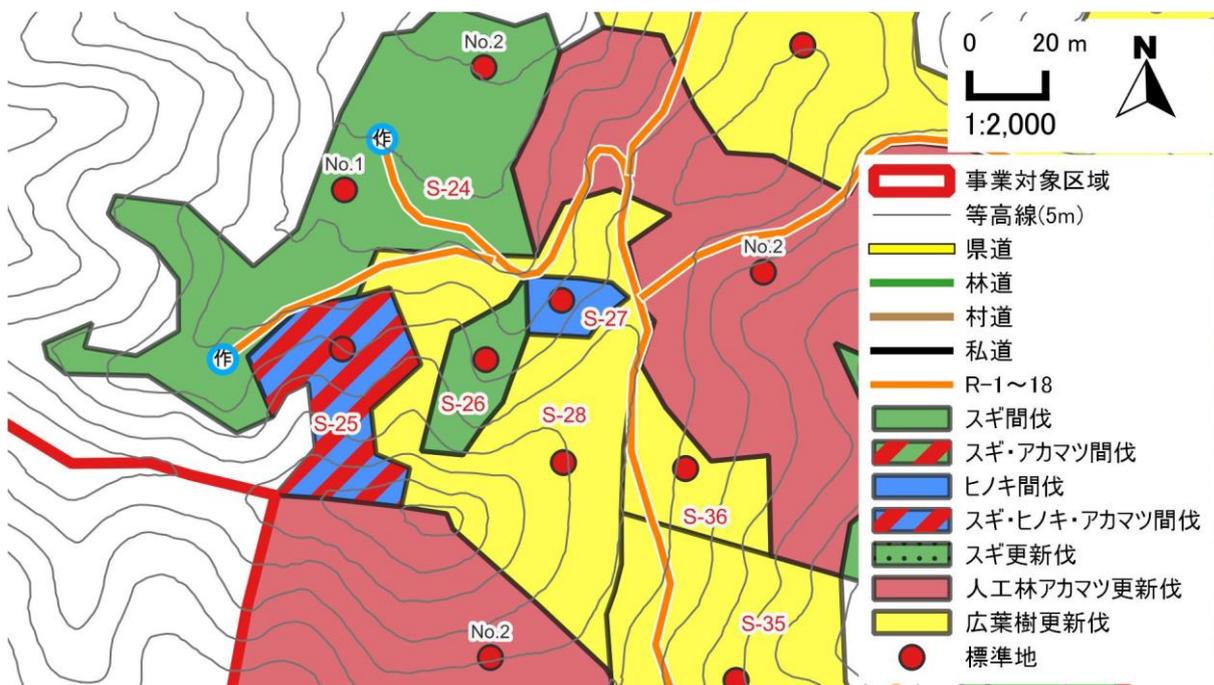
図表 255 S-25 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		36.75	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	24.81	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	5.11	m3	13.9%	残置	—
	その他	6.80	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		8.45	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.28 詳細設計(S-26 地区)

図表 256 S-26 地区



標準地調査の結果をもとに、S-26 地区の現況について図表 257 にまとめる。

図表 257 S-26 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	スギ、11 齢級(53 年生)
実測面積	0.07ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	105 本(1,500 本/ha)、45.85m ³ (655.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 22cm、平均樹高 18m、形状比 82
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。アカマツ、広葉樹混じる。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-26 地区の標準地

図表 258 S-26 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	35 本(500 本/ha)、10.36m ³ (148.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 19cm、平均樹高 16m
伐採率	33.3%(本数)、22.6%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 259 にまとめる。

図表 259 S-26 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.07ha		0.07ha
本数	105 本(1,500 本/ha)		70 本(1,000 本/ha)
蓄積	45.85m ³ (655.0m ³ /ha)		35.49m ³ (507.0m ³ /ha)
直径、樹高	22cm、18m		23cm、19m
相対幹距比(Sr)	14%		17%
形状比(H/D)	形状比 82		形状比 83

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 260 S-26 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	11	間伐 33.3% (整備後本数 1,000 本/ha)
...
令和 16 年	13	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

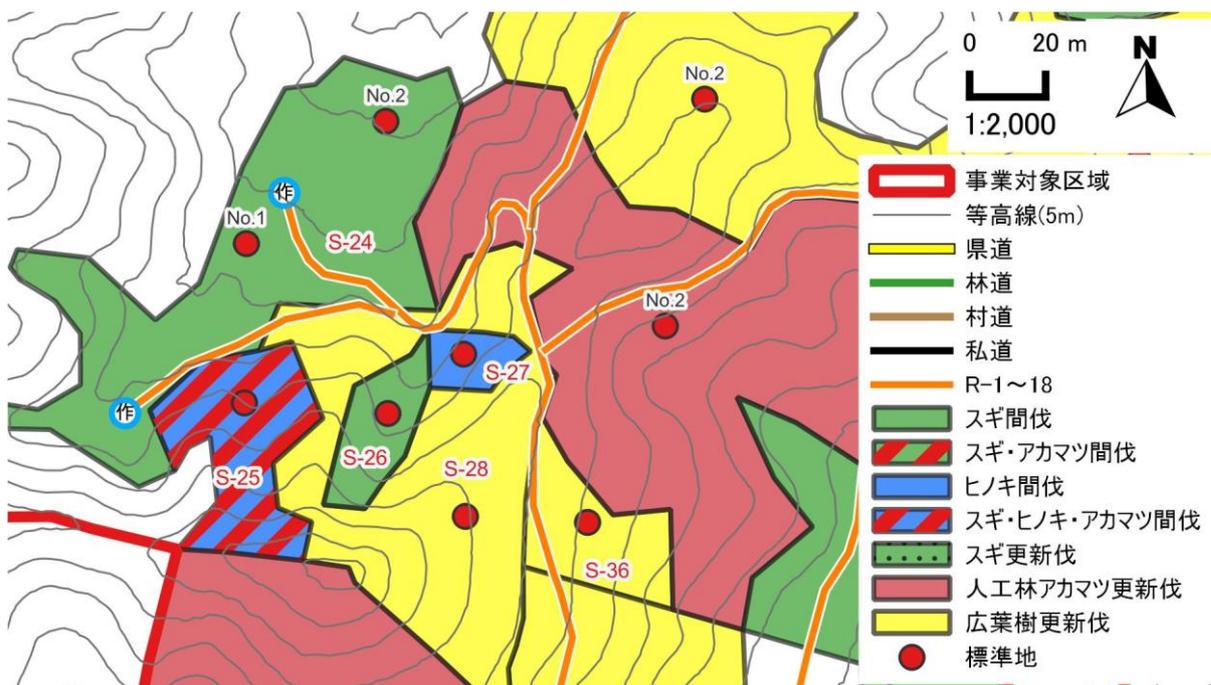
図表 261 S-26 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		10.36	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	6.99	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	1.44	m3	13.9%	残置	—
	その他	1.92	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		2.38	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.29 詳細設計(S-27 地区)

図表 262 S-27 地区



標準地調査の結果をもとに、S-27 地区の現況について図表 263 にまとめる。

図表 263 S-27 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	ヒノキ、11 齢級(53 年生)
実測面積	0.03ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	33 本(1,100 本/ha)、10.74m ³ (358.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 22cm、平均樹高 16m、形状比 73
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。モミが混じる。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-27 地区の標準地

図表 264 S-27 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	12 本(400 本/ha)、1.29m ³ (43.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 14cm、平均樹高 13m
伐採率	36.4%(本数)、12.0%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 265 にまとめる。

図表 265 S-27 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	ヒノキ	間伐 ⇒	ヒノキ
実測面積	0.03ha		0.03ha
本数	33 本(1,100 本/ha)		21 本(700 本/ha)
蓄積	10.74m ³ (358.0m ³ /ha)		9.45m ³ (315.0m ³ /ha)
直径、樹高	22cm、16m		26cm、17m
相対幹距比(Sr)	19%		22%
形状比(H/D)	形状比 73		形状比 65

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 266 S-27 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	11	間伐 36.4% (整備後本数 700 本/ha)
...
令和 16 年	13	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

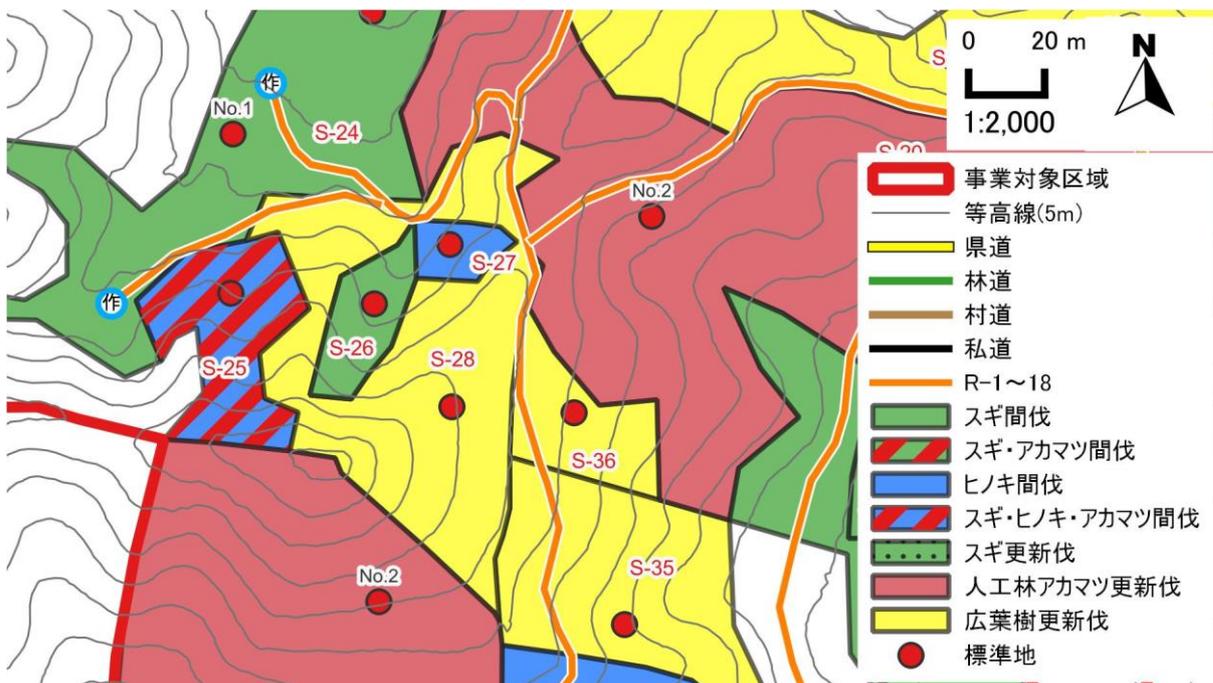
図表 267 S-27 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		1.29	m ³	—	—	—
内 訳	AB 材	0.87	m ³	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	0.18	m ³	13.9%	残置	—
	その他	0.24	m ³	18.5%	残置	—
枝 葉		0.30	m ³	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.30 詳細設計(S-28 地区)

図表 268 S-28 地区



標準地調査の結果をもとに、S-28 地区の現況について図表 269 にまとめる。

図表 269 S-28 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、9～11 齢級(45～53 年生)
実測面積	0.47ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	1,316 本(2,800 本/ha)、69.56m ³ (148.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 10cm、平均樹高 9m、形状比 90
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、ミズナラ、ホオノキ、等の高木性の樹種が多い。ナラ枯れが見られる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-28 地区の標準地

図表 270 S-28 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	1,034本(2,200本/ha)、56.87m ³ (121.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径10cm、平均樹高9m
伐採率	78.6%(本数)、81.8%(材積)
その他	なし

※1 上層木のための値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 271 にまとめる。

図表 271 S-28 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.47ha		0.47ha
本数	1,316本(2,800本/ha)		282本(600本/ha)
蓄積	69.56m ³ (148.0m ³ /ha)		12.69m ³ (27.0m ³ /ha)
直径、樹高	10cm、9m		10cm、10m
相対幹距比(Sr)	21%		41%
形状比(H/D)	形状比 90		形状比 100

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 272 S-28 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	9~11	更新伐 78.6% (整備後本数 600 本/ha)
...
令和 9 年	1	萌芽整理
...
令和 16 年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

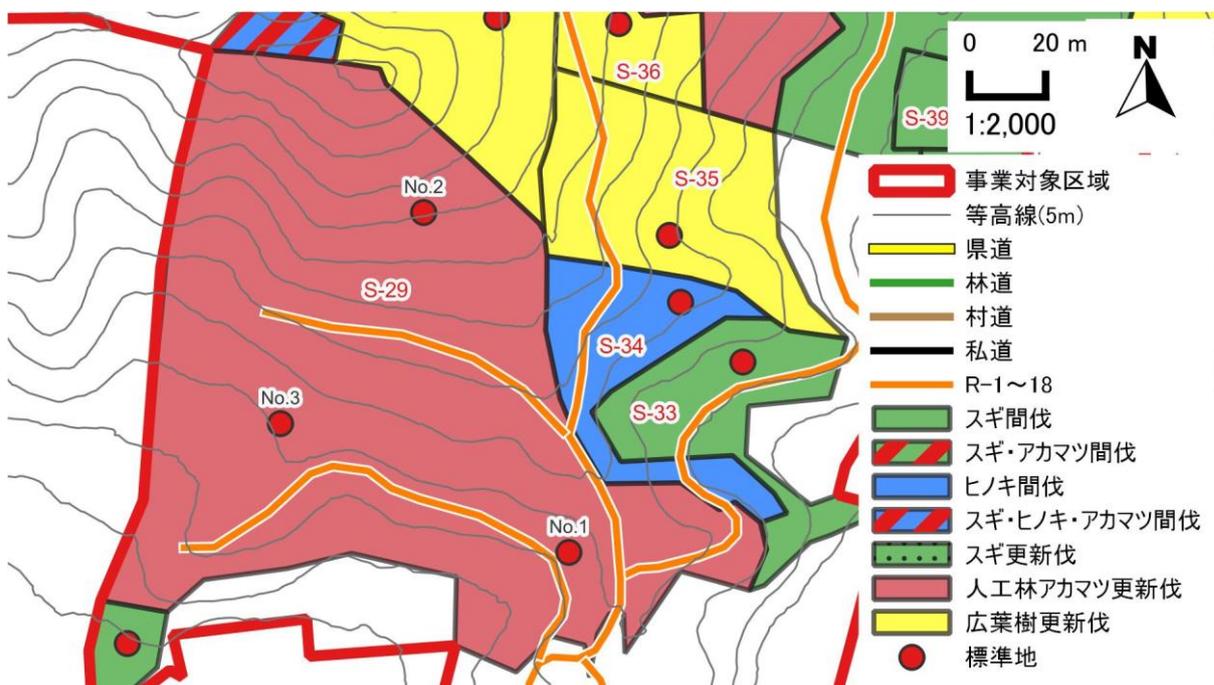
図表 273 S-28 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		56.87	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	38.39	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	7.90	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	10.52	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		18.20	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.31 詳細設計(S-29 地区)

図表 274 S-29 地区



標準地調査の結果をもとに、S-29 地区の現況について図表 275 にまとめる。

図表 275 S-29 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	アカマツ、12~14 齢級(60~67 年生)
実測面積	1.51ha
標準地 ^{※1}	3 箇所(300m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	755 本(500 本/ha)、715.74m ³ (474.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 36cm、平均樹高 20m、形状比 56
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。モミが混じる。コナラ、ヤマザクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-29 地区の No. 1 標準地



S-29 地区の No. 2 標準地



S-29 地区の No. 3 標準地

図表 276 S-29 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の広葉樹のうちコナラ、ミズナラ以外の樹種を優先的に残す。
伐採本数・材積 ^{※1}	302 本(200 本/ha)、204.91m ³ (135.7m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 33cm、平均樹高 19m
伐採率	40.0%(本数)、28.6%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 277 にまとめる。

図表 277 S-29 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	アカマツ	更新伐 ⇒	アカマツ
実測面積	1.51ha		1.51ha
本数	755 本(500 本/ha)		453 本(300 本/ha)
蓄積	715.74m ³ (474.0m ³ /ha)		510.83m ³ (338.3m ³ /ha)
直径、樹高	36cm、20m		40cm、21m
相対幹距比(Sr)	22%		27%
形状比(H/D)	形状比 56		形状比 53

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 278 S-29 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	12~14	更新伐 40.0%(整備後本数 300 本/ha)
...
令和 16 年	14~16	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

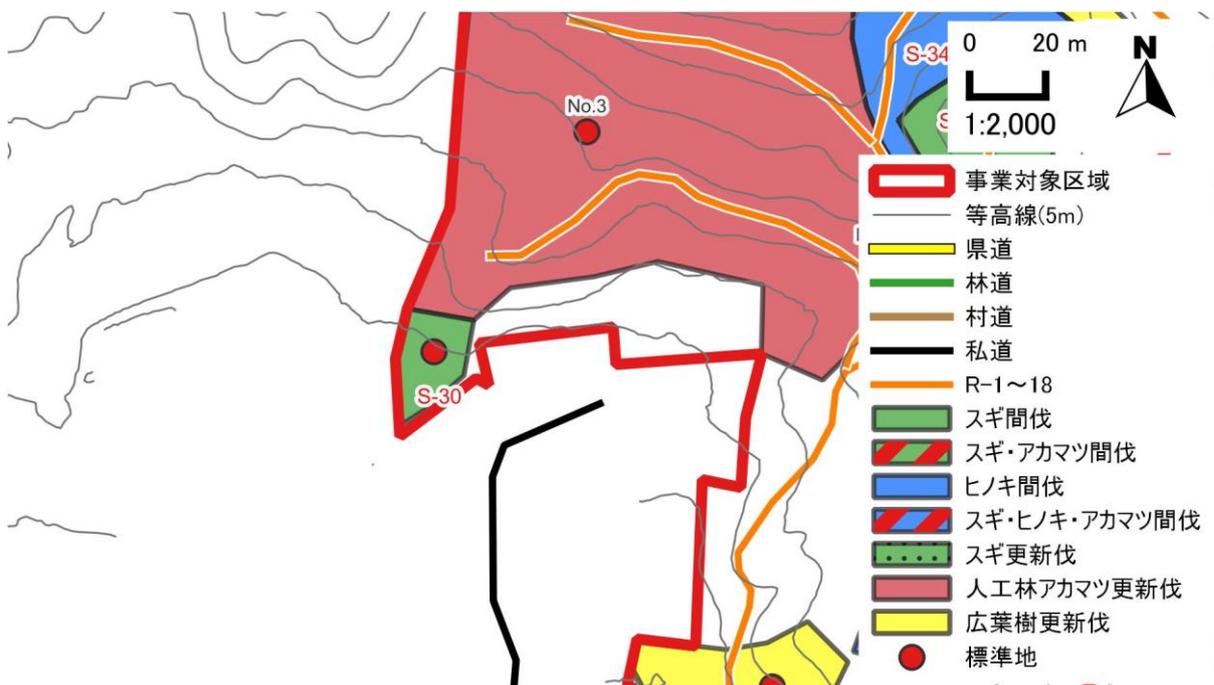
図表 279 S-29 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		204.91	m3	—	—	—
内 訳	AB材	138.31	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	28.48	m3	13.9%	残置	—
	その他	37.91	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		47.13	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は1.23、広葉樹は1.32。

1.32 詳細設計(S-30 地区)

図表 280 S-30 地区



標準地調査の結果をもとに、S-30 地区の現況について図表 281 にまとめる。

図表 281 S-30 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	スギ、14 齢級(67 年生)
実測面積	0.04ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	24 本(600 本/ha)、28.64m ³ (716.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 35cm、平均樹高 25m、形状比 71
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。ヒノキが混じる。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ不值。



S-30 地区の標準地

図表 282 S-30 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	8本(200本/ha)、5.24m ³ (131.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径27cm、平均樹高23m
伐採率	33.3%(本数)、18.3%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 283 にまとめる。

図表 283 S-30 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.04ha		0.04ha
本数	24本(600本/ha)		16本(400本/ha)
蓄積	28.64m ³ (716.0m ³ /ha)		23.40m ³ (585.0m ³ /ha)
直径、樹高	35cm、25m		40cm、26m
相対幹距比(Sr)	16%		19%
形状比(H/D)	形状比71		形状比65

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 284 S-30 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	14	間伐 33.3% (整備後本数 400 本/ha)
...
令和 16 年	16	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

図表 285 S-30 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		5.24	m ³	—	—	—
内 訳	AB 材	3.54	m ³	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	0.73	m ³	13.9%	残置	—
	その他	0.97	m ³	18.5%	残置	—
枝 葉		1.21	m ³	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.33 詳細設計(S-31 地区)

図表 286 S-31 地区



標準地調査の結果をもとに、S-31 地区の現況について図表 287 にまとめる。

図表 287 S-31 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、13 齢級(62 年生)
実測面積	0.21ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	399 本(1,900 本/ha)、67.83m ³ (323.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 13cm、平均樹高 10m、形状比 77
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、ヤマザクラ、ホオノキ等の高木性の樹種が多い。アカマツ、スギが混じる。ナラ枯れ、マツ枯れが見られる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-31 地区の標準地

図表 288 S-31 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	294 本(1,400 本/ha)、60.90m ³ (290.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 13cm、平均樹高 10m
伐採率	73.7%(本数)、89.8%(材積)
その他	なし

※1 上層木のための値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 289 にまとめる。

図表 289 S-31 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.21ha		0.21ha
本数	399 本(1,900 本/ha)		105 本(500 本/ha)
蓄積	67.83m ³ (323.0m ³ /ha)		6.93m ³ (33.0m ³ /ha)
直径、樹高	13cm、10m		12cm、10m
相対幹距比(Sr)	23%		45%
形状比(H/D)	形状比 77		形状比 83

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 290 S-31 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和6年	13	更新伐 73.7%(整備後本数500本/ha)
...
令和9年	1	萌芽整理
...
令和16年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

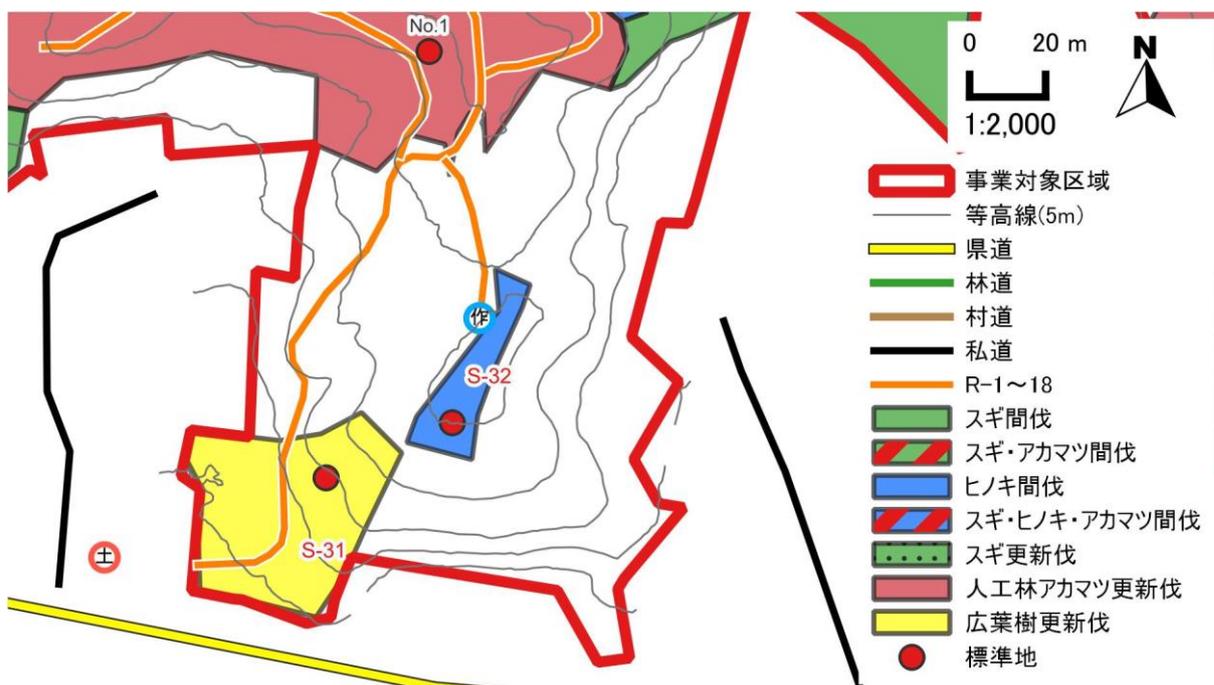
図表 291 S-31 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		60.90	m3	—	—	—
内 訳	AB材	41.11	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	8.47	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	11.27	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		19.49	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は1.23、広葉樹は1.32。

1.34 詳細設計(S-32 地区)

図表 292 S-32 地区



標準地調査の結果をもとに、S-32 地区の現況について図表 293 にまとめる。

図表 293 S-32 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	ヒノキ、11 齢級(54 年生)
実測面積	0.05ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	145 本(2,900 本/ha)、7.65m ³ (153.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 12cm、平均樹高 8m、形状比 67
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。スギ、広葉樹が混じる。アカマツが上層に点在する。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-32 地区の標準地

図表 294 S-32 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。上層のアカツは、下層の伐採作業等に支承がある場合は伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	50 本(1,000 本/ha)、1.55m ³ (31.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 10cm、平均樹高 7m
伐採率	34.5%(本数)、20.3%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 295 にまとめる。

図表 295 S-32 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	ヒノキ	間伐 ⇒	ヒノキ
実測面積	0.05ha		0.05ha
本数	145 本(2,900 本/ha)		95 本(1,900 本/ha)
蓄積	7.65m ³ (153.0m ³ /ha)		6.10m ³ (122.0m ³ /ha)
直径、樹高	12cm、8m		13cm、8m
相対幹距比(Sr)	23%		29%
形状比(H/D)	形状比 67		形状比 62

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 296 S-32 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	11	間伐 34.5% (整備後本数 1,900 本/ha)
...
令和 16 年	13	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

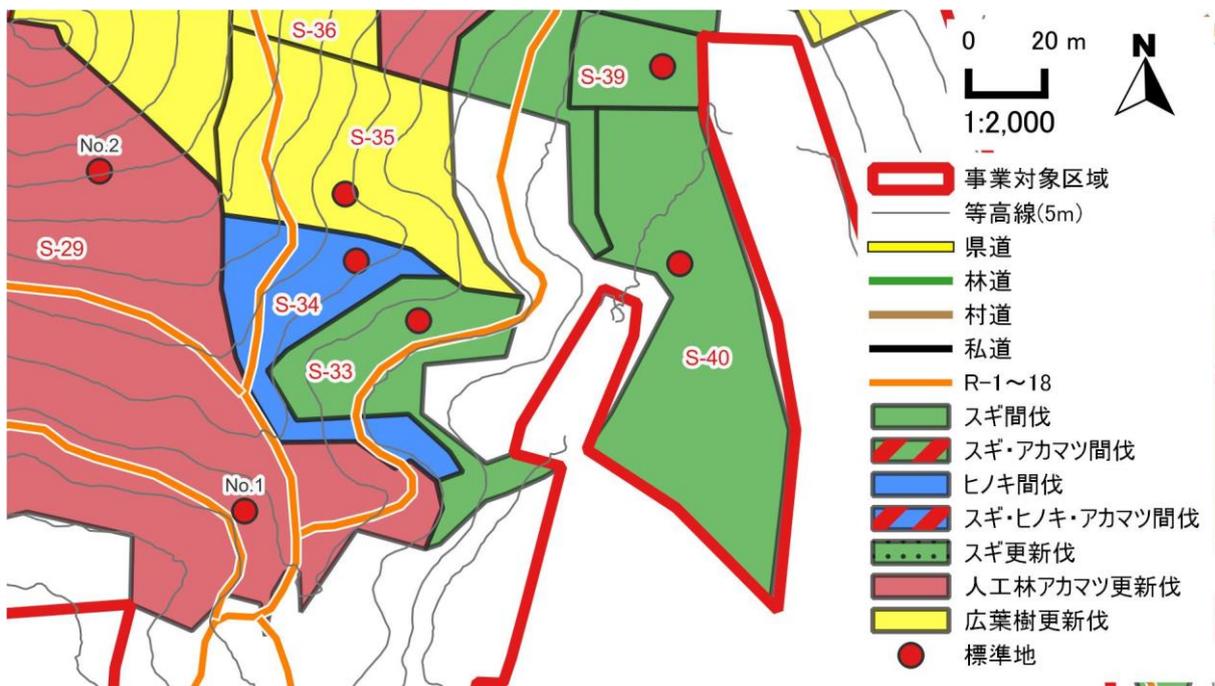
図表 297 S-32 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		1.55	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	1.05	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	0.22	m3	13.9%	残置	—
	その他	0.29	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		0.36	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.35 詳細設計 (S-33 地区)

図表 298 S-33 地区



標準地調査の結果をもとに、S-33 地区の現況について図表 299 にまとめる。

図表 299 S-33 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	スギ、6 齢級(30 年生)
実測面積	0.19ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	342 本(1,800 本/ha)、146.87m ³ (773.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 22cm、平均樹高 20m、形状比 91
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は極めて乏しく、ほとんど見られない。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-33 地区の標準地

図表 300 S-33 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	133 本(700 本/ha)、27.36m ³ (144.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 16cm、平均樹高 18m
伐採率	38.9%(本数)、18.6%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 301 にまとめる。

図表 301 S-33 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.19ha		0.19ha
本数	342 本(1,800 本/ha)		209 本(1,100 本/ha)
蓄積	146.87m ³ (773.0m ³ /ha)		119.51m ³ (629.0m ³ /ha)
直径、樹高	22cm、20m		26cm、21m
相対幹距比(Sr)	12%		14%
形状比(H/D)	形状比 91		形状比 81

○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 302 S-33 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	6	間伐 38.9% (整備後本数 1,100 本/ha)
...
令和 16 年	8	間伐 30.0% (整備後本数 770 本/ha)
...
令和 26 年	10	間伐 30.0% (整備後本数 539 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

図表 303 S-33 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		27.36	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	18.47	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	3.80	m3	13.9%	残置	—
	その他	5.06	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		6.29	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.36 詳細設計(S-34 地区)

図表 304 S-34 地区



標準地調査の結果をもとに、S-34 地区の現況について図表 305 にまとめる。

図表 305 S-34 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	ヒノキ、6 齢級(30 年生)
実測面積	0.18ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	378 本(2,100 本/ha)、79.38m ³ (441.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 18cm、平均樹高 16m、形状比 89
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は極めて乏しく、ほとんど見られない。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-34 地区の標準地

図表 306 S-34 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	126 本(700 本/ha)、20.88m ³ (116.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 16cm、平均樹高 15m
伐採率	33.3%(本数)、26.3%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 307 にまとめる。

図表 307 S-34 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	ヒノキ	間伐 ⇒	ヒノキ
実測面積	0.18ha		0.18ha
本数	378 本(2,100 本/ha)		252 本(1,400 本/ha)
蓄積	79.38m ³ (441.0m ³ /ha)		58.50m ³ (325.0m ³ /ha)
直径、樹高	18cm、16m		19cm、16m
相対幹距比(Sr)	14%		17%
形状比(H/D)	形状比 89		形状比 84

○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 308 S-34 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	6	間伐 33.3% (整備後本数 1,400 本/ha)
...
令和 16 年	8	間伐 30.0% (整備後本数 980 本/ha)
...
令和 26 年	10	間伐 30.0% (整備後本数 686 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

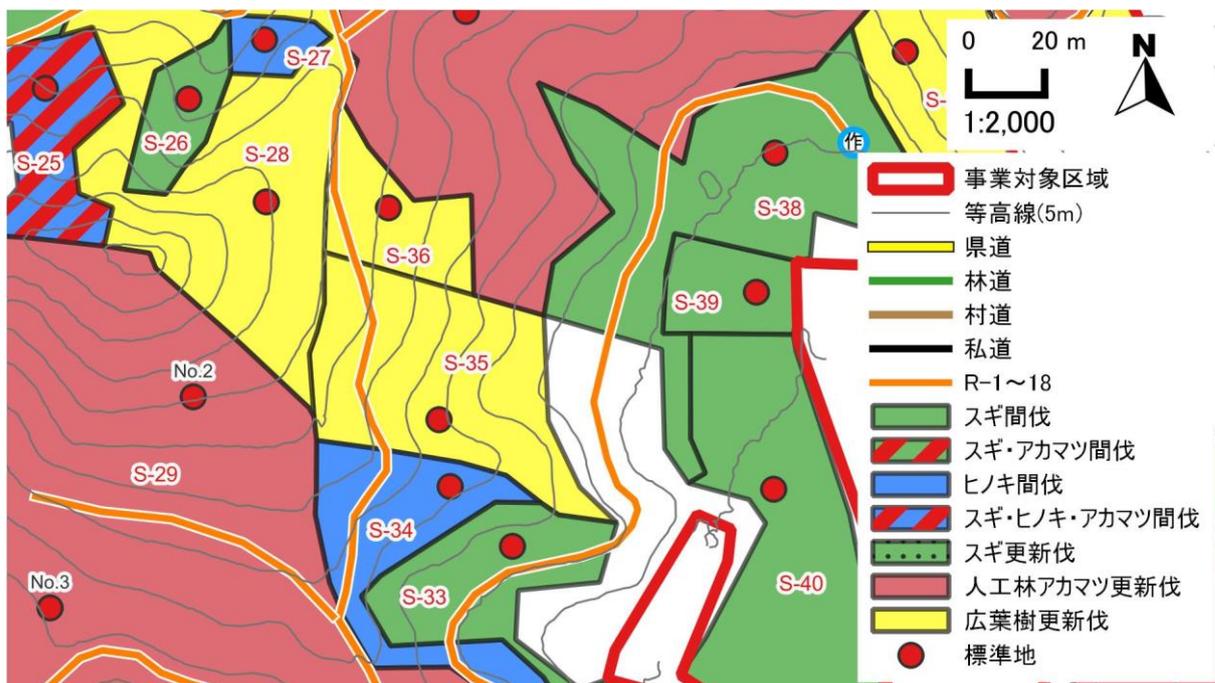
図表 309 S-34 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		20.88	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	14.09	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	2.90	m3	13.9%	残置	—
	その他	3.86	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		4.80	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.37 詳細設計(S-35 地区)

図表 310 S-35 地区



標準地調査の結果をもとに、S-35 地区の現況について図表 311 にまとめる。

図表 311 S-35 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、6 齢級(30 年生)
実測面積	0.30ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	510 本(1,700 本/ha)、32.70m ³ (109.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 10cm、平均樹高 11m、形状比 110
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、ミズナラ、クリ、ヤマザクラ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-35 地区の標準地

図表 312 S-35 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	420 本(1,400 本/ha)、22.80m ³ (76.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 10cm、平均樹高 11m
伐採率	82.4%(本数)、69.7%(材積)
その他	なし

※1 上層木のための値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 313 にまとめる。

図表 313 S-35 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.30ha		0.30ha
本数	510 本(1,700 本/ha)		90 本(300 本/ha)
蓄積	32.70m ³ (109.0m ³ /ha)		9.90m ³ (33.0m ³ /ha)
直径、樹高	10cm、11m		15cm、14m
相対幹距比(Sr)	22%		41%
形状比(H/D)	形状比 110		形状比 93

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 314 S-35 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	6	更新伐 82.4% (整備後本数 300 本/ha)
...
令和 9 年	1	萌芽整理
...
令和 16 年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

図表 315 S-35 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		22.80	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	15.39	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	3.17	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	4.22	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		7.30	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.38 詳細設計(S-36 地区)

図表 316 S-36 地区



標準地調査の結果をもとに、S-36 地区の現況について図表 317 にまとめる。

図表 317 S-36 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、12 齢級(60 年生)
実測面積	0.10ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	180 本(1,800 本/ha)、31.50m ³ (315.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 15cm、平均樹高 9m、形状比 60
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、コハウチワカエデ等の高木性の樹種が多い。ナラ枯れが見られる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-36 地区の標準地

図表 318 S-36 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	130 本(1,300 本/ha)、27.80m ³ (278.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 16cm、平均樹高 10m
伐採率	72.2%(本数)、88.3%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 319 にまとめる。

図表 319 S-36 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.10ha		0.10ha
本数	180 本(1,800 本/ha)		50 本(500 本/ha)
蓄積	31.50m ³ (315.0m ³ /ha)		3.70m ³ (37.0m ³ /ha)
直径、樹高	15cm、9m		11cm、8m
相対幹距比(Sr)	26%		56%
形状比(H/D)	形状比 60		形状比 73

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 320 S-36 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和6年	12	更新伐 72.2%(整備後本数500本/ha)
...
令和9年	1	萌芽整理
...
令和16年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

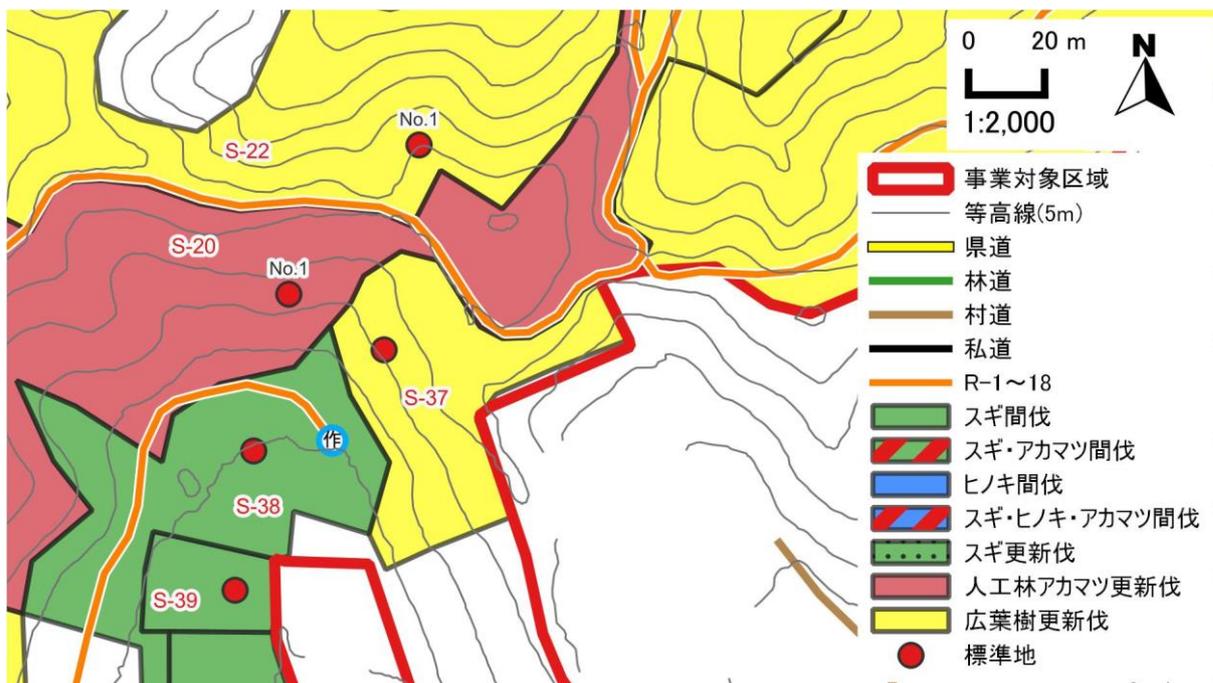
図表 321 S-36 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		27.80	m3	—	—	—
内 訳	AB材	18.77	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	3.86	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	5.14	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		8.90	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は1.23、広葉樹は1.32。

1.39 詳細設計(S-37 地区)

図表 322 S-37 地区



標準地調査の結果をもとに、S-37 地区の現況について図表 323 にまとめる。

図表 323 S-37 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、12 齢級(60 年生)
実測面積	0.29ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	464 本(1,600 本/ha)、46.40m ³ (160.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 12cm、平均樹高 9m、形状比 75
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	クリ、ヤマザクラ、コハウチワカエデ等の高木性の樹種が多い。アカマツが混じる。マツ枯れが見られる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-37 地区の標準地

図表 324 S-37 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	377 本(1,300 本/ha)、30.16m ³ (104.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 10cm、平均樹高 8m
伐採率	81.3%(本数)、65.0%(材積)
その他	なし

※1 上層木のための値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 325 にまとめる。

図表 325 S-37 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.29ha		0.29ha
本数	464 本(1,600 本/ha)		87 本(300 本/ha)
蓄積	46.40m ³ (160.0m ³ /ha)		16.24m ³ (56.0m ³ /ha)
直径、樹高	12cm、9m		19cm、14m
相対幹距比(Sr)	28%		41%
形状比(H/D)	形状比 75		形状比 74

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 326 S-37 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和6年	12	更新伐 81.3%(整備後本数300本/ha)
...
令和9年	1	萌芽整理
...
令和16年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

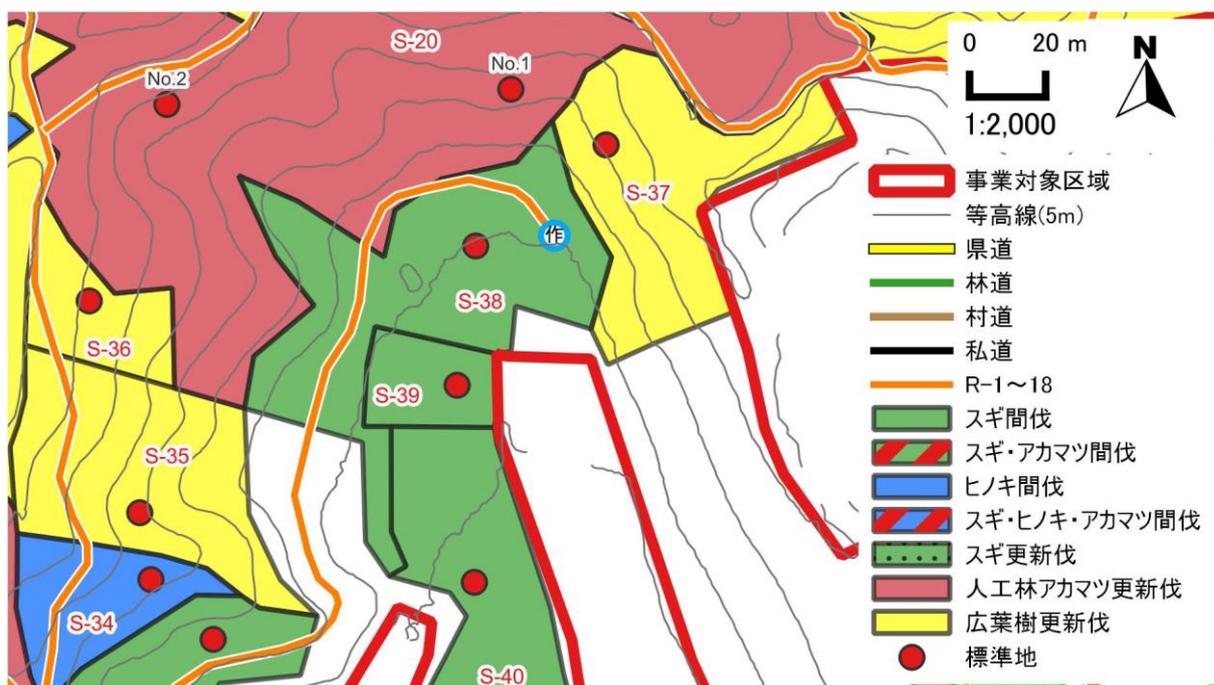
図表 327 S-37 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		30.16	m3	—	—	—
内 訳	AB材	20.36	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	4.19	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	5.58	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		9.65	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は1.23、広葉樹は1.32。

1.40 詳細設計(S-38 地区)

図表 328 S-38 地区



標準地調査の結果をもとに、S-38 地区の現況について図表 329 にまとめる。

図表 329 S-38 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	スギ、13～14 齢級(62～67 年生)
実測面積	0.42ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	378 本(900 本/ha)、494.34m ³ (1,177.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 36cm、平均樹高 27m、形状比 75
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。カラマツが混じる。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-38 地区の標準地

図表 330 S-38 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	126 本(300 本/ha)、118.86m ³ (283.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 31cm、平均樹高 26m
伐採率	33.3%(本数)、24.0%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ不值。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 331 にまとめる。

図表 331 S-38 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.42ha		0.42ha
本数	378 本(900 本/ha)		252 本(600 本/ha)
蓄積	494.34m ³ (1,177.0m ³ /ha)		375.48m ³ (894.0m ³ /ha)
直径、樹高	36cm、27m		39cm、27m
相対幹距比(Sr)	12%		15%
形状比(H/D)	形状比 75		形状比 69

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 332 S-38 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	13~14	間伐 33.3% (整備後本数 600 本/ha)
...
令和 16 年	15~16	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

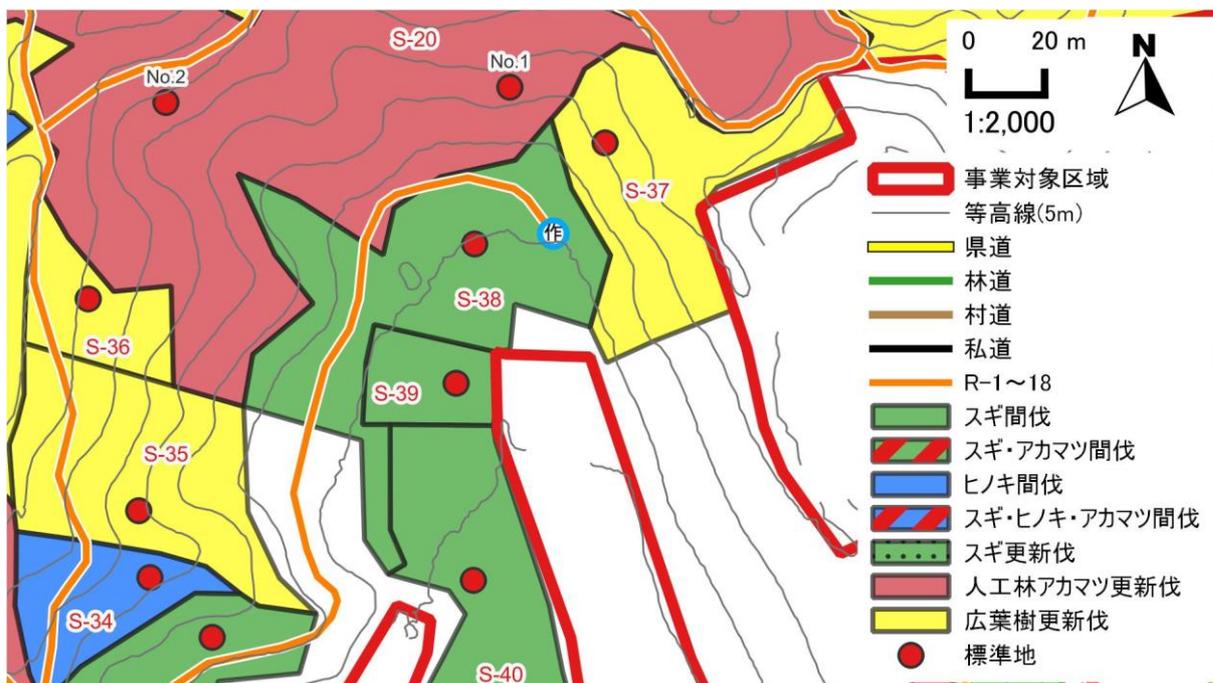
図表 333 S-38 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		118.86	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	80.23	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	16.52	m3	13.9%	残置	—
	その他	21.99	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		27.34	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.41 詳細設計(S-39 地区)

図表 334 S-39 地区



標準地調査の結果をもとに、S-39 地区の現況について図表 335 にまとめる。

図表 335 S-39 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	スギ、11 齢級(54 年生)
実測面積	0.08ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	104 本(1,300 本/ha)、51.92m ³ (649.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 23cm、平均樹高 22m、形状比 96
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-39 地区の標準地

図表 336 S-39 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	40 本(500 本/ha)、10.56m ³ (132.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 18cm、平均樹高 21m
伐採率	38.5%(本数)、20.3%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 337 にまとめる。

図表 337 S-39 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.08ha		0.08ha
本数	104 本(1,300 本/ha)		64 本(800 本/ha)
蓄積	51.92m ³ (649.0m ³ /ha)		41.36m ³ (517.0m ³ /ha)
直径、樹高	23cm、22m		27cm、23m
相対幹距比(Sr)	13%		15%
形状比(H/D)	形状比 96		形状比 85

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 338 S-39 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	11	間伐 38.5% (整備後本数 800 本/ha)
...
令和 16 年	13	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

図表 339 S-39 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		10.56	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	7.13	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	1.47	m3	13.9%	残置	—
	その他	1.95	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		2.43	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.42 詳細設計(S-40 地区)

図表 340 S-40 地区



標準地調査の結果をもとに、S-40 地区の現況について図表 341 にまとめる。

図表 341 S-40 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	スギ、6 齢級(30 年生)
実測面積	0.40ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	640 本(1,600 本/ha)、268.00m ³ (670.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 22cm、平均樹高 21m、形状比 95
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-40 地区の標準地

図表 342 S-40 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	240 本(600 本/ha)、62.80m ³ (157.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 18cm、平均樹高 20m
伐採率	37.5%(本数)、23.4%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 343 にまとめる。

図表 343 S-40 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.40ha		0.40ha
本数	640 本(1,600 本/ha)		400 本(1,000 本/ha)
蓄積	268.00m ³ (670.0m ³ /ha)		205.20m ³ (513.0m ³ /ha)
直径、樹高	22cm、21m		25cm、21m
相対幹距比(Sr)	12%		15%
形状比(H/D)	形状比 95		形状比 84

○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 344 S-40 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	6	間伐 37.5% (整備後本数 1,000 本/ha)
...
令和 16 年	8	間伐 30.0% (整備後本数 700 本/ha)
...
令和 26 年	10	間伐 30.0% (整備後本数 490 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

図表 345 S-40 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		62.80	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	42.39	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	8.73	m3	13.9%	残置	—
	その他	11.62	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		14.44	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.43 詳細設計(S-41 地区)

図表 346 S-41 地区



標準地調査の結果をもとに、S-41 地区の現況について図表 347 にまとめる。

図表 347 S-41 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	アカマツ、14 齢級(68 年生)
実測面積	0.17ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	153 本(900 本/ha)、81.26m ³ (478.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 27cm、平均樹高 19m、形状比 70
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。モミが混じる。コナラ、ヤマザクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ不值。



S-41 地区の標準地

図表 348 S-41 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	68 本(400 本/ha)、29.75m ³ (175.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 24cm、平均樹高 18m
伐採率	44.4%(本数)、36.6%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 349 にまとめる。

図表 349 S-41 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	アカマツ	更新伐 ⇒	アカマツ
実測面積	0.17ha		0.17ha
本数	153 本(900 本/ha)		85 本(500 本/ha)
蓄積	81.26m ³ (478.0m ³ /ha)		51.51m ³ (303.0m ³ /ha)
直径、樹高	27cm、19m		29cm、19m
相対幹距比(Sr)	18%		24%
形状比(H/D)	形状比 70		形状比 66

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 350 S-41 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	14	更新伐 44.4% (整備後本数 500 本/ha)
...
令和 16 年	16	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

図表 351 S-41 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		29.75	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	20.08	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	4.14	m3	13.9%	残置	—
	その他	5.50	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		6.84	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.44 詳細設計(S-42 地区)

図表 352 S-42 地区



標準地調査の結果をもとに、S-42 地区の現況について図表 353 にまとめる。

図表 353 S-42 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	スギ、14 齢級(68 年生)
実測面積	0.33ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	297 本(900 本/ha)、301.95m ³ (915.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 33cm、平均樹高 25m、形状比 76
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は極めて乏しく、ほとんど見られない。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-42 地区の標準地

図表 354 S-42 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	99 本(300 本/ha)、57.42m ³ (174.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 25cm、平均樹高 22m
伐採率	33.3%(本数)、19.0%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ不值。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 355 にまとめる。

図表 355 S-42 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.33ha		0.33ha
本数	297 本(900 本/ha)		198 本(600 本/ha)
蓄積	301.95m ³ (915.0m ³ /ha)		244.53m ³ (741.0m ³ /ha)
直径、樹高	33cm、25m		36cm、26m
相対幹距比(Sr)	13%		16%
形状比(H/D)	形状比 76		形状比 72

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 356 S-42 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	14	間伐 33.3% (整備後本数 600 本/ha)
...
令和 16 年	16	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

図表 357 S-42 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		57.42	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	38.76	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	7.98	m3	13.9%	残置	—
	その他	10.62	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		13.21	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.45 詳細設計(S-43 地区)

図表 358 S-43 地区



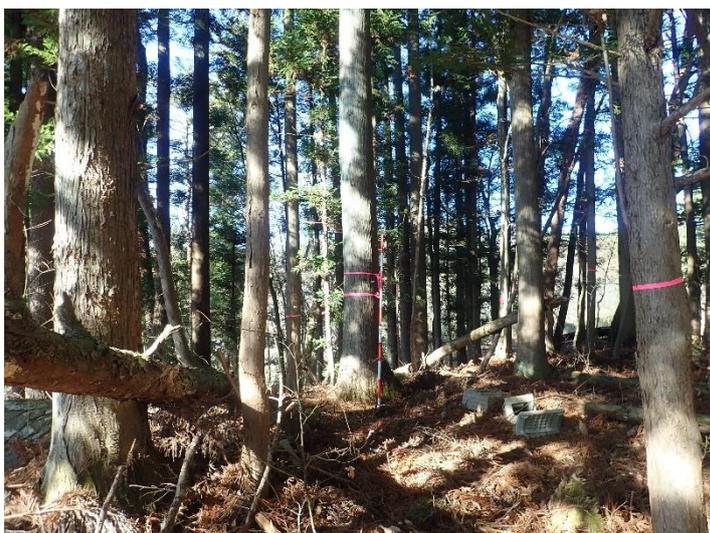
標準地調査の結果をもとに、S-43 地区の現況について図表 359 にまとめる。

図表 359 S-43 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	スギ、13 齢級(61 年生)
実測面積	0.04ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	52 本(1,300 本/ha)、38.44m ³ (961.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 30cm、平均樹高 21m、形状比 70
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。アカマツが混じる。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ不值。



S-43 地区の標準地

図表 360 S-43 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	20 本(500 本/ha)、10.20m ³ (255.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 25cm、平均樹高 20m
伐採率	38.5%(本数)、26.5%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 361 にまとめる。

図表 361 S-43 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.04ha		0.04ha
本数	52 本(1,300 本/ha)		32 本(800 本/ha)
蓄積	38.44m ³ (961.0m ³ /ha)		28.24m ³ (706.0m ³ /ha)
直径、樹高	30cm、21m		33cm、22m
相対幹距比(Sr)	13%		16%
形状比(H/D)	形状比 70		形状比 67

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 362 S-43 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	13	間伐 38.5% (整備後本数 800 本/ha)
...
令和 16 年	15	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

図表 363 S-43 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		10.20	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	6.89	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	1.42	m3	13.9%	残置	—
	その他	1.89	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		2.35	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.46 詳細設計(S-44 地区)

図表 364 S-44 地区



標準地調査の結果をもとに、S-44 地区の現況について図表 365 にまとめる。

図表 365 S-44 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、13 齢級(61 年生)
実測面積	0.12ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	144 本(1,200 本/ha)、54.72m ³ (456.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 19cm、平均樹高 13m、形状比 68
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、クリ、ケヤキ、ミズキ等の高木性の樹種が多い。アカマツが混じる。マツ枯れが見られる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ不值。



S-44 地区の標準地

図表 366 S-44 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	108 本(900 本/ha)、35.16m ³ (293.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 18cm、平均樹高 13m
伐採率	75.0%(本数)、64.3%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 367 にまとめる。

図表 367 S-44 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.12ha		0.12ha
本数	144 本(1,200 本/ha)		36 本(300 本/ha)
蓄積	54.72m ³ (456.0m ³ /ha)		19.56m ³ (163.0m ³ /ha)
直径、樹高	19cm、13m		23cm、14m
相対幹距比(Sr)	22%		41%
形状比(H/D)	形状比 68		形状比 61

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 368 S-44 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和6年	13	更新伐 75.0%(整備後本数300本/ha)
...
令和9年	1	萌芽整理
...
令和16年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

図表 369 S-44 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		35.16	m3	—	—	—
内 訳	AB材	23.73	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	4.89	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	6.50	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		11.25	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は1.23、広葉樹は1.32。

1.47 詳細設計(S-45 地区)

図表 370 S-45 地区



標準地調査の結果をもとに、S-45 地区の現況について図表 371 にまとめる。

図表 371 S-45 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	スギ、13 齢級(61 年生)
実測面積	0.03ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	30 本(1,000 本/ha)、37.08m ³ (1,236.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 36cm、平均樹高 25m、形状比 69
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-45 地区の標準地

図表 372 S-45 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	9本(300本/ha)、5.43m ³ (181.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径27cm、平均樹高22m
伐採率	30.0%(本数)、14.6%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 373 にまとめる。

図表 373 S-45 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.03ha		0.03ha
本数	30本(1,000本/ha)		21本(700本/ha)
蓄積	37.08m ³ (1,236.0m ³ /ha)		31.65m ³ (1,055.0m ³ /ha)
直径、樹高	36cm、25m		40cm、26m
相対幹距比(Sr)	13%		15%
形状比(H/D)	形状比69		形状比65

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 374 S-45 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	13	間伐 30.0% (整備後本数 700 本/ha)
...
令和 16 年	15	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

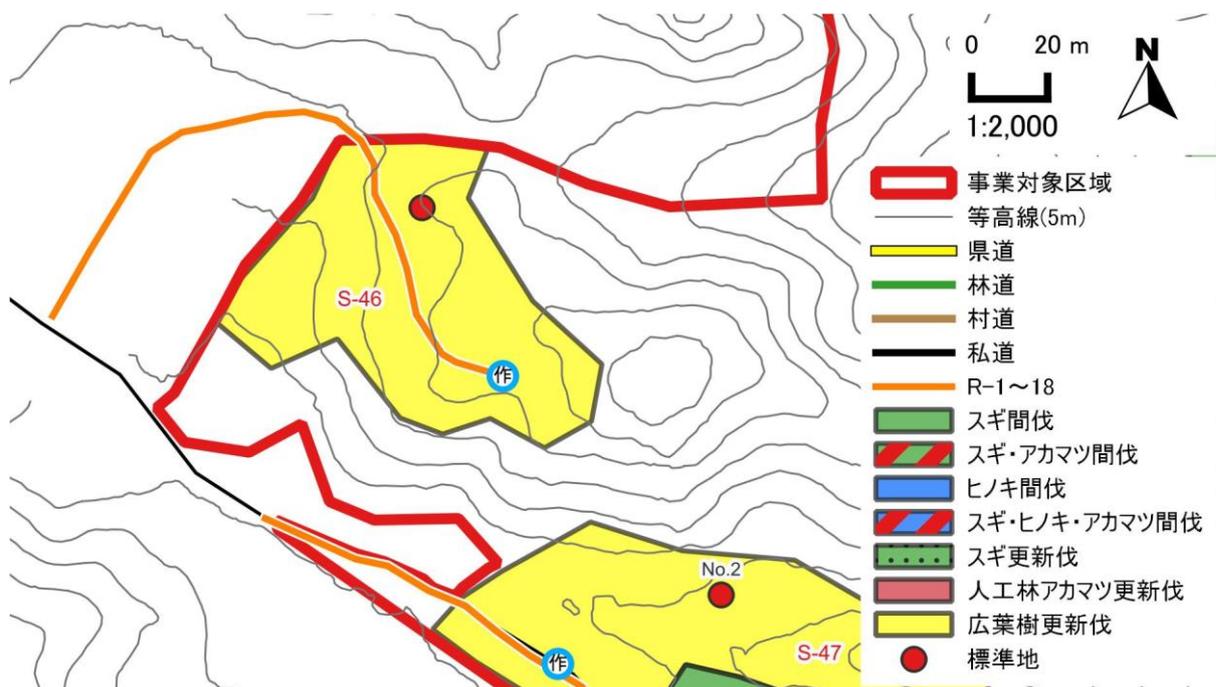
図表 375 S-45 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		5.43	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	3.67	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	0.75	m3	13.9%	残置	—
	その他	1.00	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		1.25	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.48 詳細設計(S-46 地区)

図表 376 S-46 地区



標準地調査の結果をもとに、S-46 地区の現況について図表 377 にまとめる。

図表 377 S-46 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、7 齢級(35 年生)
実測面積	0.47ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	1,222 本(2,600 本/ha)、125.49m ³ (267.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 11cm、平均樹高 9m、形状比 82
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、ヤマザクラ、モミ等の高木性の樹種が多い。アカマツが混じる。マツ枯れが見られる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-46 地区の標準地

図表 378 S-46 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	987 本(2,100 本/ha)、108.57m ³ (231.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 11cm、平均樹高 9m
伐採率	80.8%(本数)、86.5%(材積)
その他	なし

※1 上層木のための値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 379 にまとめる。

図表 379 S-46 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.47ha		0.47ha
本数	1,222 本(2,600 本/ha)		235 本(500 本/ha)
蓄積	125.49m ³ (267.0m ³ /ha)		16.92m ³ (36.0m ³ /ha)
直径、樹高	11cm、9m		12cm、11m
相対幹距比(Sr)	22%		41%
形状比(H/D)	形状比 82		形状比 92

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 380 S-46 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和6年	7	更新伐 80.8%(整備後本数500本/ha)
...
令和9年	1	萌芽整理
...
令和16年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

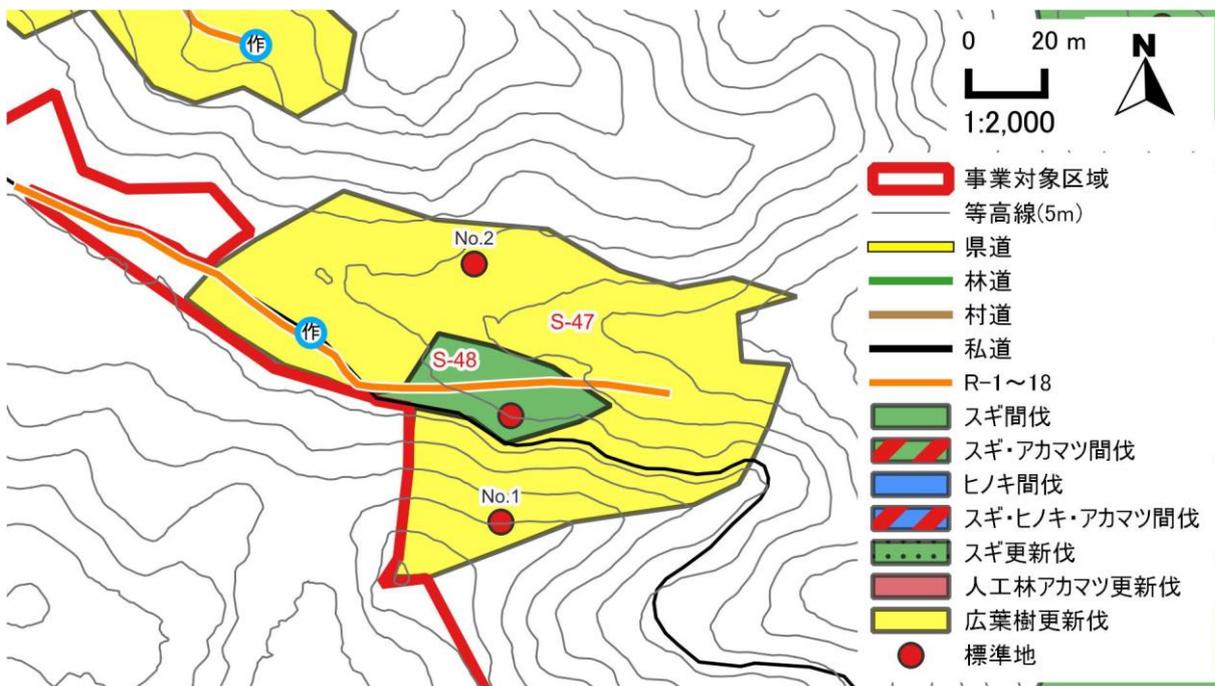
図表 381 S-46 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		108.57	m3	—	—	—
内 訳	AB材	73.28	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	15.09	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	20.09	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		34.74	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は1.23、広葉樹は1.32。

1.49 詳細設計(S-47 地区)

図表 382 S-47 地区



標準地調査の結果をもとに、S-47 地区の現況について図表 383 にまとめる。

図表 383 S-47 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、7 齢級(35 年生)
実測面積	0.80ha
標準地 ^{※1}	2 箇所(200m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	2,480 本(3,100 本/ha)、145.60m ³ (182.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 11cm、平均樹高 10m、形状比 91
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、ミズナラ、ヤマザクラ、タカノツメ、ミズキ等の高木性の樹種が多い。アカマツが混じる。マツ枯れが見られる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-47 地区の No. 1 標準地



S-47 地区の No. 2 標準地

図表 384 S-47 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	2,080本(2,600本/ha)、110.80m ³ (138.5m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径10cm、平均樹高9m
伐採率	83.9%(本数)、76.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のための値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 385 にまとめる。

図表 385 S-47 地区の整備後の状況

区 分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.80ha		0.80ha
本数	2,480本(3,100本/ha)		400本(500本/ha)
蓄積	145.60m ³ (182.0m ³ /ha)		34.80m ³ (43.5m ³ /ha)
直径、樹高	11cm、10m		14cm、12m
相対幹距比(Sr)	18%		37%
形状比(H/D)	形状比 91		形状比 86

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 386 S-47 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和6年	7	更新伐 83.9%(整備後本数500本/ha)
...
令和9年	1	萌芽整理
...
令和16年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

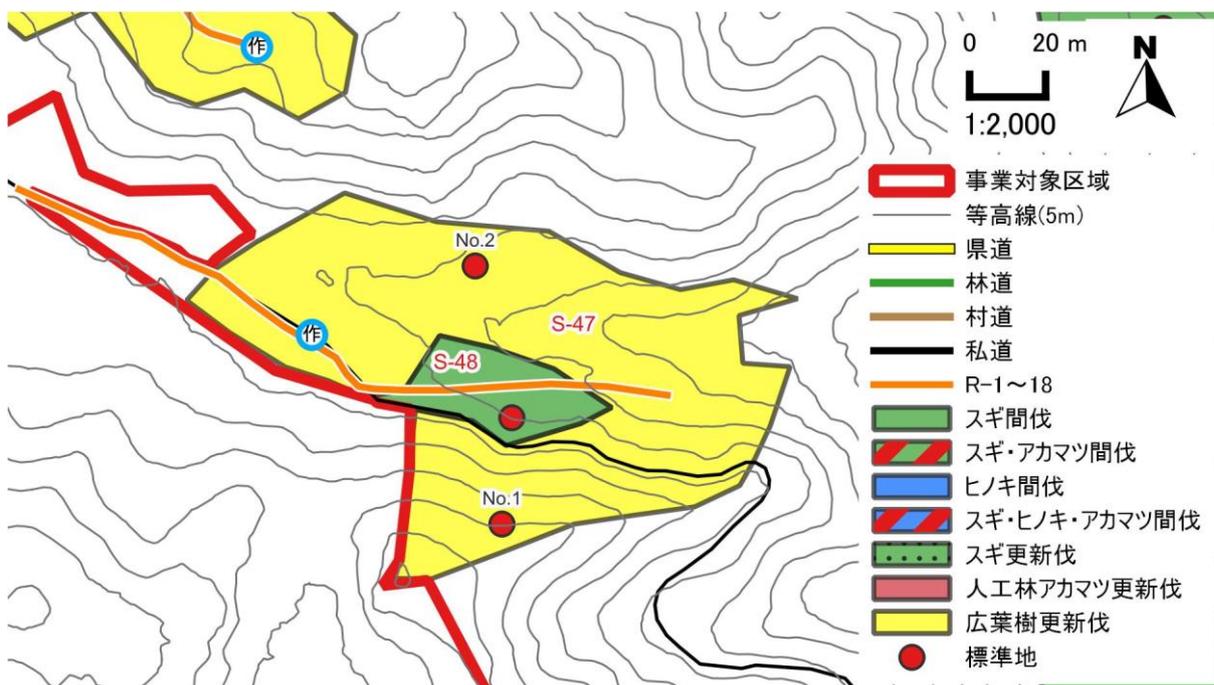
図表 387 S-47 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		110.80	m ³	—	—	—
内 訳	AB材	74.79	m ³	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	15.40	m ³	13.9%	棚積み	—
	その他	20.50	m ³	18.5%	棚積み	—
枝 葉		35.46	m ³	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は1.23、広葉樹は1.32。

1.50 詳細設計(S-48 地区)

図表 388 S-48 地区



標準地調査の結果をもとに、S-48 地区の現況について図表 389 にまとめる。

図表 389 S-48 地区の現況

施業種	間伐
樹種・齢級	スギ、12 齢級(60 年生)
実測面積	0.09ha
標準地 ^{※1}	1 箇所(100m ²)
本数・蓄積 ^{※2}	99 本(1,100 本/ha)、55.17m ³ (613.0m ³ /ha)
直径・樹高 ^{※2}	平均直径 25cm、平均樹高 19m、形状比 76
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。モミ、アカマツが混じる。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-48 地区の標準地

図表 390 S-48 地区の施業内容

施業種	間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。アカマツは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 ^{※1}	36 本(400 本/ha)、8.19m ³ (91.0m ³ /ha)
伐採木直径・樹高 ^{※1}	平均直径 17cm、平均樹高 17m
伐採率	36.4%(本数)、14.8%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ の値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 391 にまとめる。

図表 391 S-48 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.09ha		0.09ha
本数	99 本(1,100 本/ha)		63 本(700 本/ha)
蓄積	55.17m ³ (613.0m ³ /ha)		46.98m ³ (522.0m ³ /ha)
直径、樹高	25cm、19m		31cm、20m
相対幹距比(Sr)	16%		19%
形状比(H/D)	形状比 76		形状比 65

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 392 S-48 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 6 年	12	間伐 36.4% (整備後本数 700 本/ha)
...
令和 16 年	14	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

図表 393 S-48 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		8.19	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	5.53	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	1.14	m3	13.9%	残置	—
	その他	1.52	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		1.88	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

2. 路網整備

2.1 中心線測量の結果

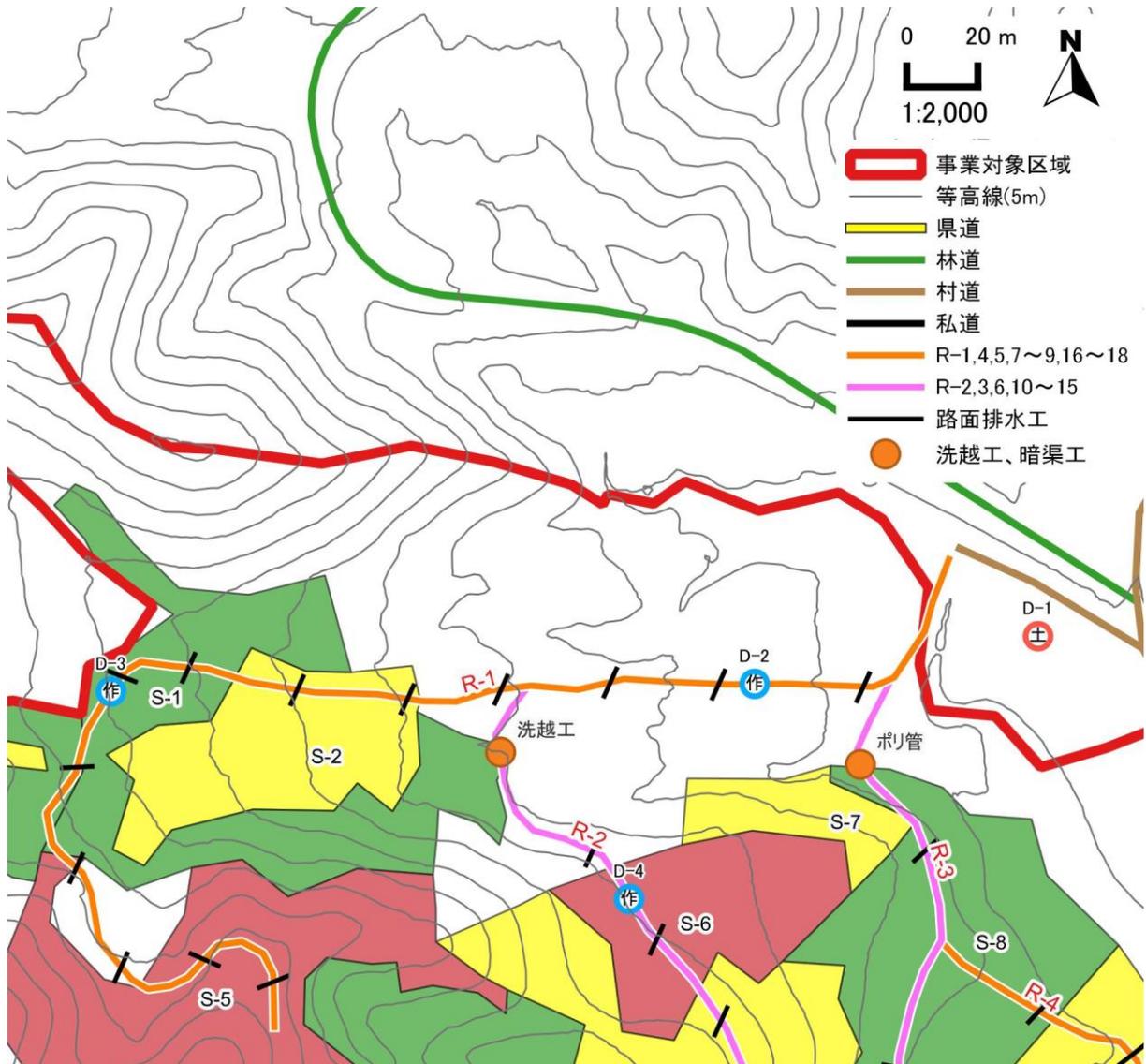
森林作業道の平面線形について中心線測量を行った。中心線測量の結果を図表にまとめる。

図表 394 中心線測量の結果一覧

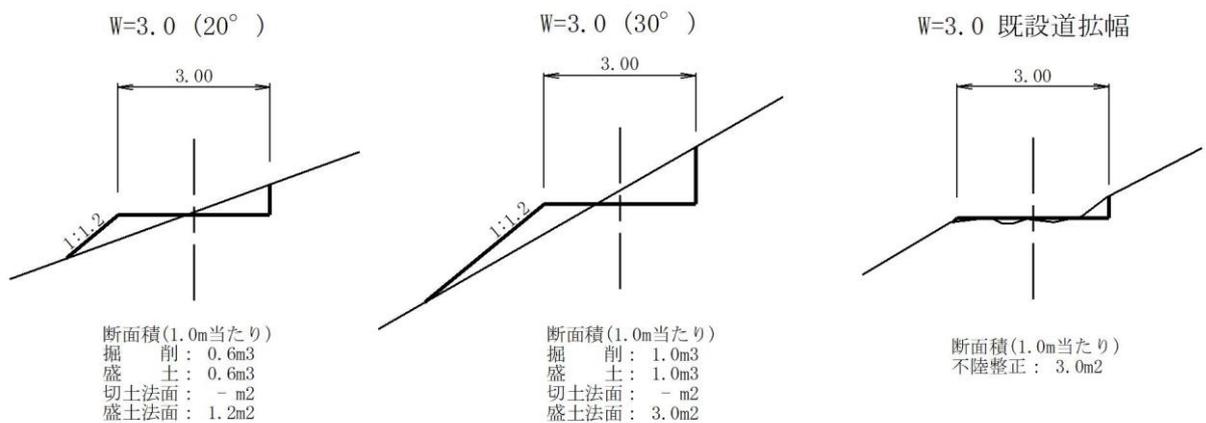
No.	実測延長(m)	通過区域
R-1	421.0	S-1, 2, 3, 5
R-2	316.0	S-1, 6, 11, 12, 13
R-3	465.0	S-8, 10, 11, 12, 14
R-4	103.0	S-8, 9, 11
R-5	85.0	S-11, 15
R-6	458.0	S-19, 20, 22
R-7	199.0	S-19, 20, 21, 22
R-8	348.0	S-16, 18
R-9	518.0	S-20, 24, 28, 29, 31, 34, 35, 36
R-10	45.0	S-29
R-11	138.0	S-20, 29, 33, 34, 38
R-12	292.0	S-20, 33, 38
R-13	86.0	S-29
R-14	96.0	S-20, 22
R-15	78.0	S-24, 28
R-16	118.0	S-41, 42
R-17	190.0	S-46
R-18	186.0	S-47, 48
合計	4,142.0	

2.2 詳細設計(R-1)

図表 395 R-1の平面図



図表 396 R-1の標準横断面図





R-1 起点



R-1 終点

図表 397 R-1 の構造・数量

延長	421.0m			
全幅員	2.0m	2.5m	3.0m	3.5m
			○	
傾斜(横断)	25° 以下		26° ~34°	
	○		○	
想定林業機械	3t 以下 (0.1m ³ 以下)	3~4t (0.2m ³ 以下)	6~8t (0.2~0.25m ³)	9~13t (0.45m ³)
			○	

注：想定林業機械の()書きはバケット容量

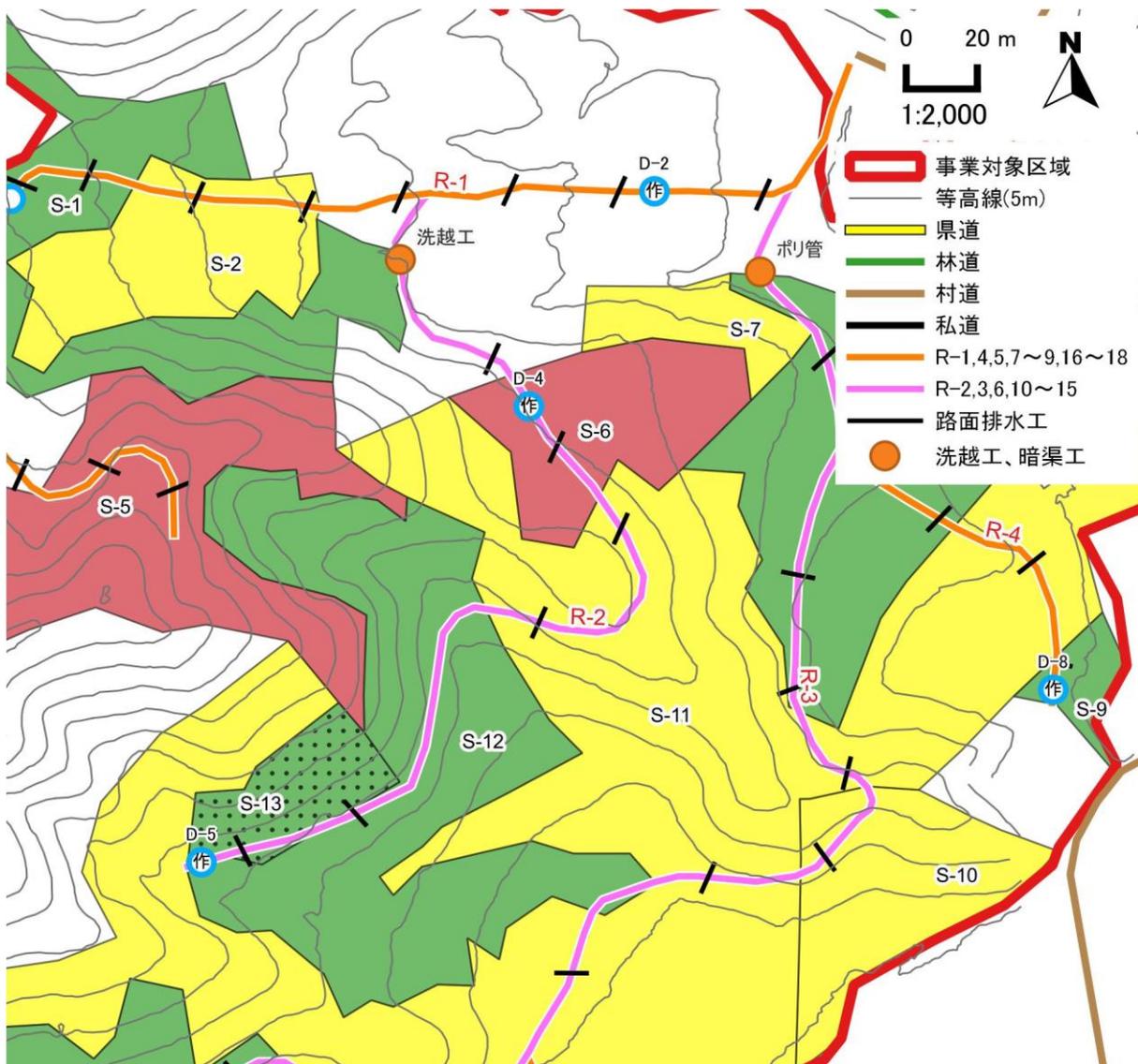
図表 398 R-1 の設計説明

項目	内 容			
起点	既設道			
終点	S-5 内の斜面			
縦断勾配 ^{※1}	区間	勾配	(比高)	(水平距離)
	0.0~421.0	+13%	+55m	421.0m
ヘアピンカーブ	なし			
排水施設	木製路面排水工 13 箇所			
構造物	なし			
切土	1 : 0.0			
盛土	1 : 1.2			

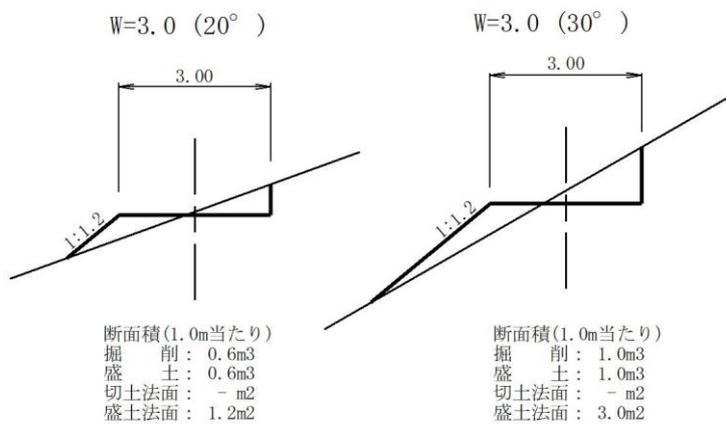
※1：地形図の等高線読み取りによって算出。

2.3 詳細設計(R-2)

図表 399 R-2 の平面図



図表 400 R-2 の標準横断面図





R-2 起点



R-2 洗越工計画地



R-2 終点

図表 401 R-2 の構造・数量

延長	316.0m			
全幅員	2.0m	2.5m	3.0m	3.5m
			○	
傾斜(横断)	25° 以下		26° ~34°	
	○		○	
想定林業機械	3t 以下 (0.1m ³ 以下)	3~4t (0.2m ³ 以下)	6~8t (0.2~0.25m ³)	9~13t (0.45m ³)
			○	

注：想定林業機械の()書きはバケット容量

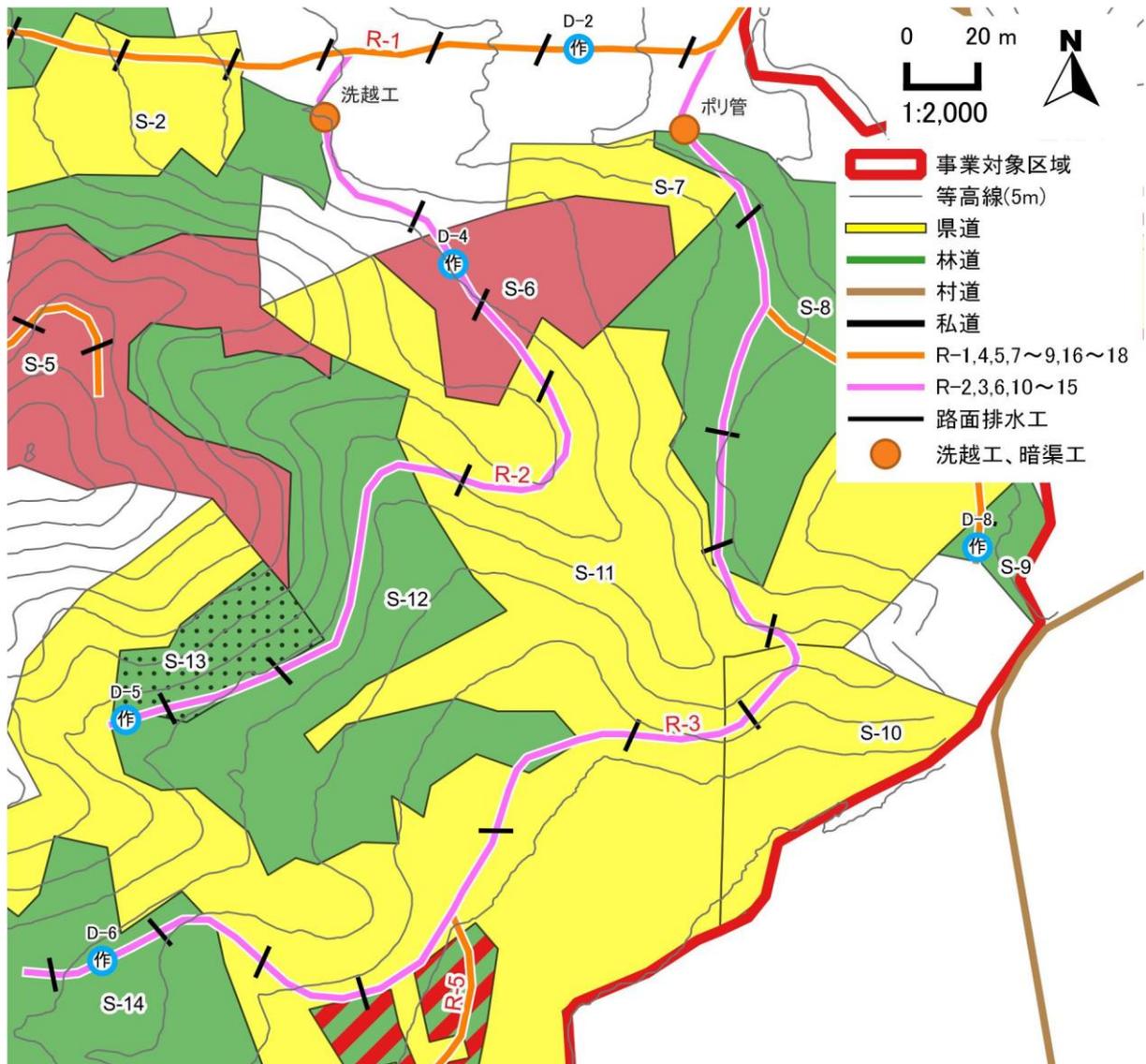
図表 402 R-2 の設計説明

項目	内 容			
起点	R-1 から分岐			
終点	S-13 内の斜面			
縦断勾配 ^{※1}	区間	勾配	(比高)	(水平距離)
	0.0~154.7	+3%	+5m	154.7m
	154.7~206.5	-14%	-7m	51.8m
	206.5~316.0	+5%	+5m	109.5m
ヘアピンカーブ	なし			
排水施設	木製路面排水工 6 箇所、洗越工 1 箇所			
構造物	なし			
切土	1 : 0.0			
盛土	1 : 1.2			

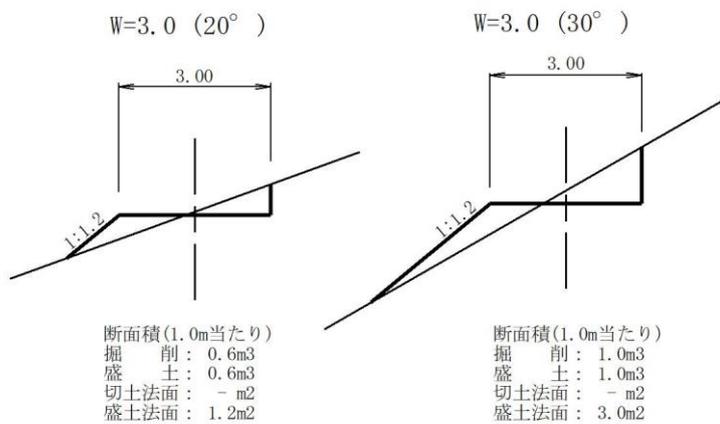
※1：地形図の等高線読み取りによって算出。

2.4 詳細設計 (R-3)

図表 403 R-3 の平面図



図表 404 R-3 の標準横断図





R-3 起点



R-3 暗渠工計画地



R-3 終点

図表 405 R-3 の構造・数量

延長	465.0m			
全幅員	2.0m	2.5m	3.0m	3.5m
			○	
傾斜(横断)	25° 以下		26° ~34°	
	○		○	
想定林業機械	3t 以下 (0.1m ³ 以下)	3~4t (0.2m ³ 以下)	6~8t (0.2~0.25m ³)	9~13t (0.45m ³)
			○	

注：想定林業機械の()書きはバケット容量

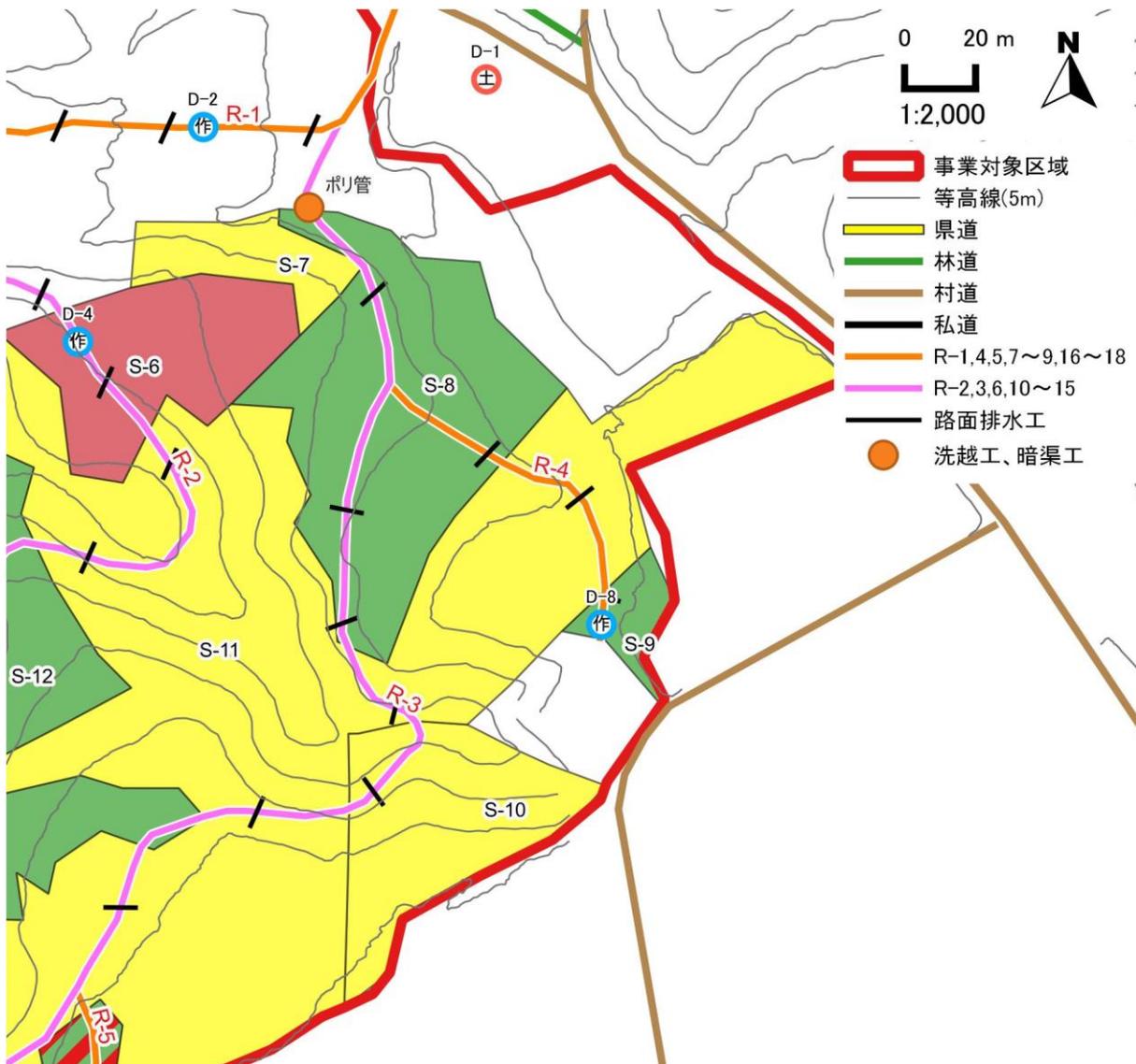
図表 406 R-3 の設計説明

項目	内 容			
起点	R-1 から分岐			
終点	S-14 内の斜面			
縦断勾配※1	区間	勾配	(比高)	(水平距離)
	0.0~81.1	+6%	+5m	81.1m
	81.1~129.0	-4%	-2m	47.9m
	129.0~188.2	+8%	+5m	59.2m
	188.2~255.3	-13%	-9m	67.1m
	255.3~303.3	+2%	+1m	48.0m
	303.3~324.8	-5%	-1m	21.5m
	324.8~465.0	+12%	+17m	140.2m
ヘアピンカーブ	なし			
排水施設	木製路面排水工 11 箇所、高密度ポリエチレン管 1 箇所			
構造物	なし			
切土	1 : 0.0			
盛土	1 : 1.2			

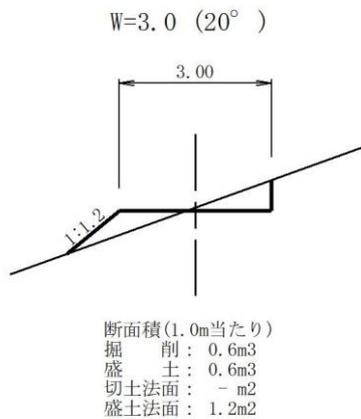
※1：地形図の等高線読み取りによって算出。

2.5 詳細設計(R-4)

図表 407 R-4 の平面図



図表 408 R-4 の標準横断図





R-4 起点



R-4 終点

図表 409 R-4 の構造・数量

延長	103.0m			
全幅員	2.0m	2.5m	3.0m	3.5m
			○	
傾斜(横断)	25° 以下		26° ~34°	
	○			
想定林業機械	3t 以下 (0.1m ³ 以下)	3~4t (0.2m ³ 以下)	6~8t (0.2~0.25m ³)	9~13t (0.45m ³)
			○	

注：想定林業機械の()書きはバケット容量

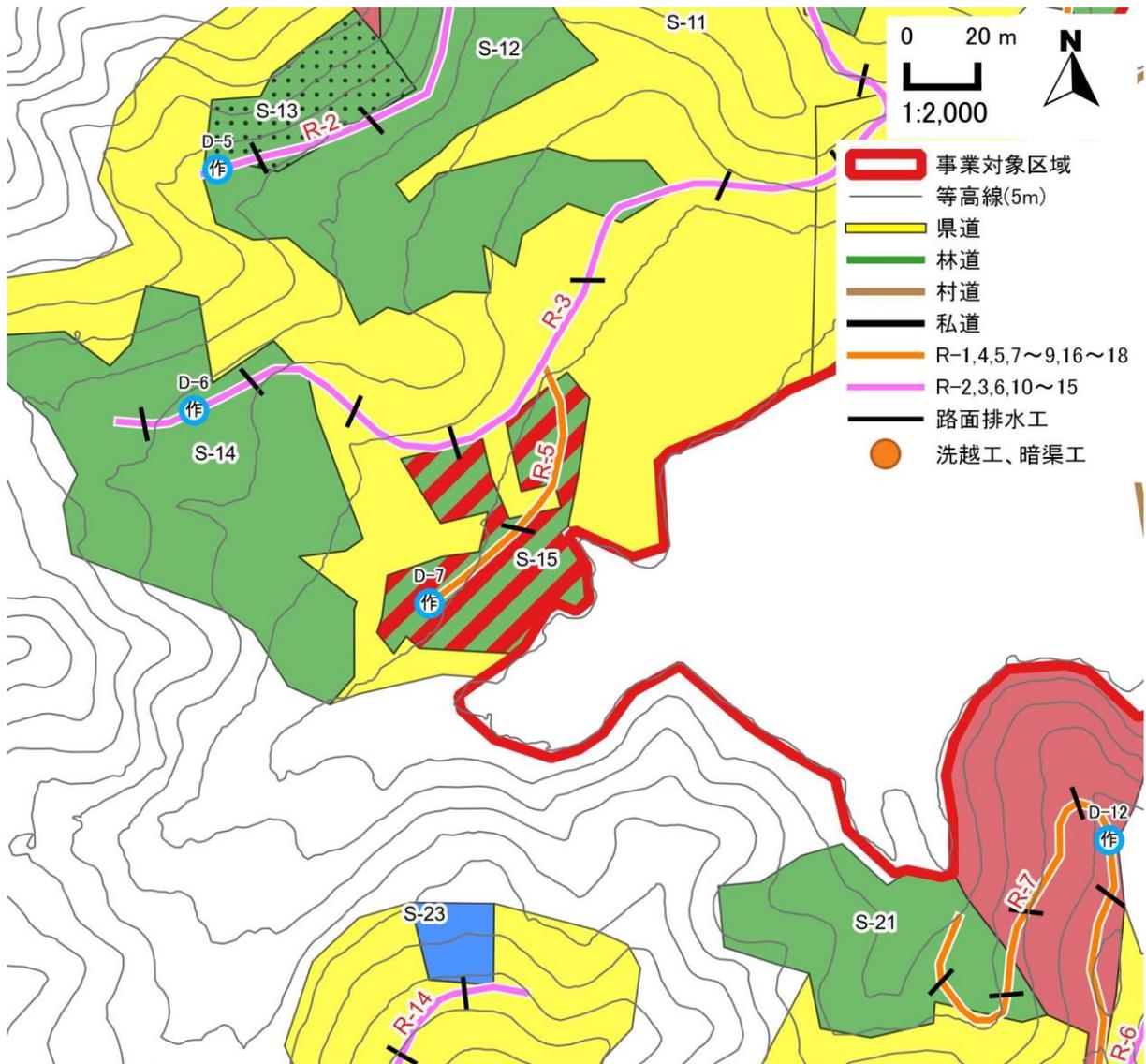
図表 410 R-4 の設計説明

項目	内 容			
起点	R-3 から分岐			
終点	S-11 内の斜面			
縦断勾配※1	区間	勾配	(比高)	(水平距離)
	0.0~103.0	-10%	-10m	103.0m
ヘアピンカーブ	なし			
排水施設	木製路面排水工 3 箇所			
構造物	なし			
切土	1 : 0.0			
盛土	1 : 1.2			

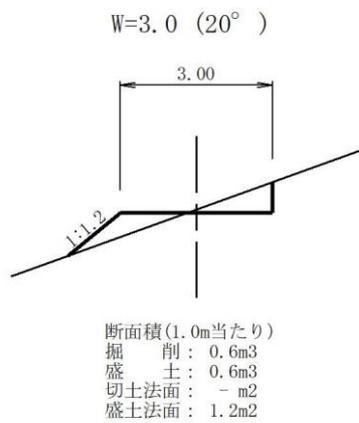
※1：地形図の等高線読み取りによって算出。

2.6 詳細設計 (R-5)

図表 411 R-5 の平面図



図表 412 R-5 の標準横断面図





R-5 起点



R-5 終点

図表 413 R-5 の構造・数量

延長	85.0m			
全幅員	2.0m	2.5m	3.0m	3.5m
			○	
傾斜(横断)	25° 以下		26° ~34°	
	○			
想定林業機械	3t 以下 (0.1m ³ 以下)	3~4t (0.2m ³ 以下)	6~8t (0.2~0.25m ³)	9~13t (0.45m ³)
			○	

注：想定林業機械の()書きはバケット容量

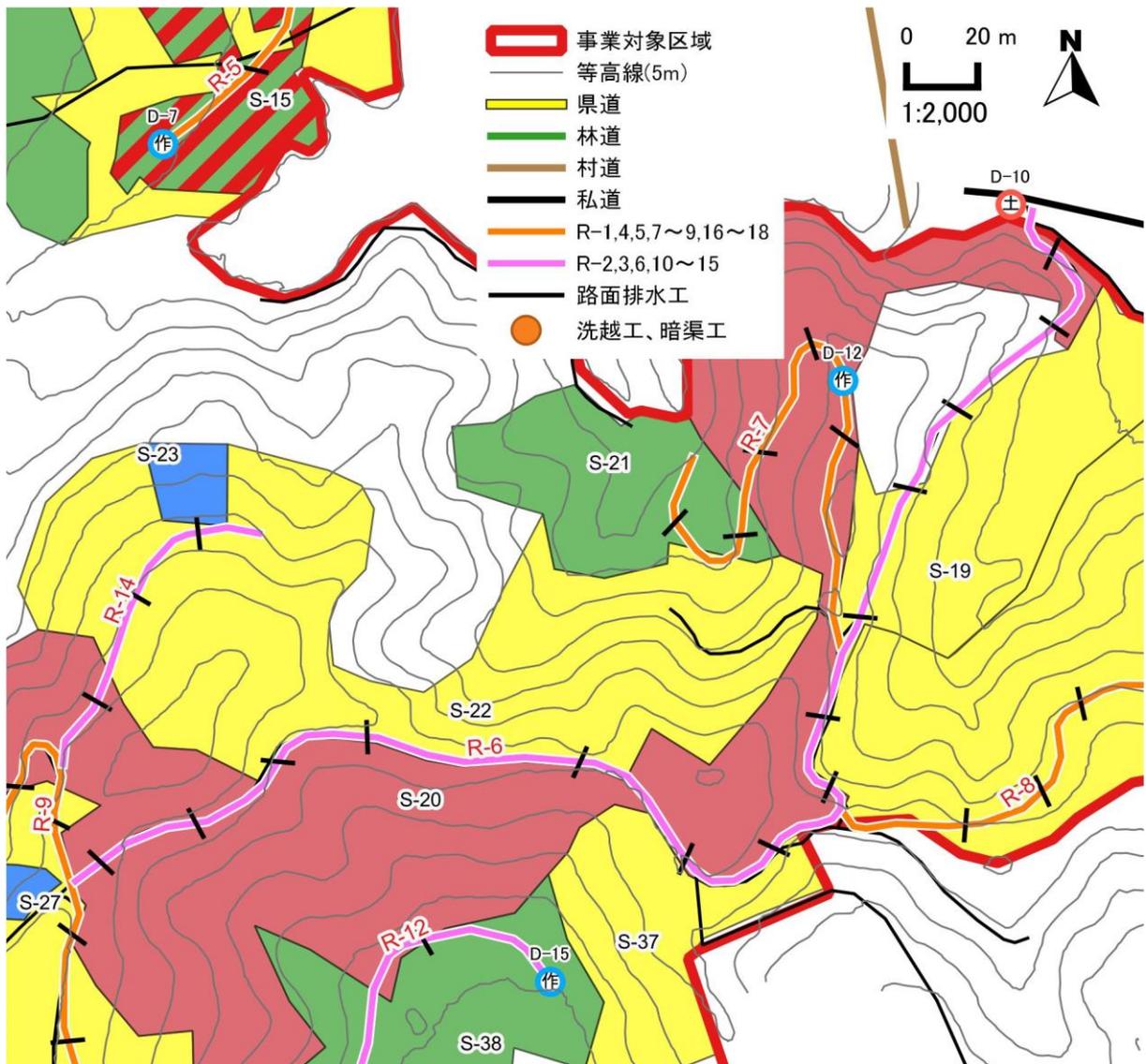
図表 414 R-5 の設計説明

項目	内 容			
起点	R-3 から分岐			
終点	S-15 内の斜面			
縦断勾配 ^{※1}	区間	勾配	(比高)	(水平距離)
	0.0~20.7	-10%	-2m	20.7m
	20.7~85.0	+5%	+3m	64.3m
ヘアピンカーブ	なし			
排水施設	木製路面排水工 1 箇所			
構造物	なし			
切土	1 : 0.0			
盛土	1 : 1.2			

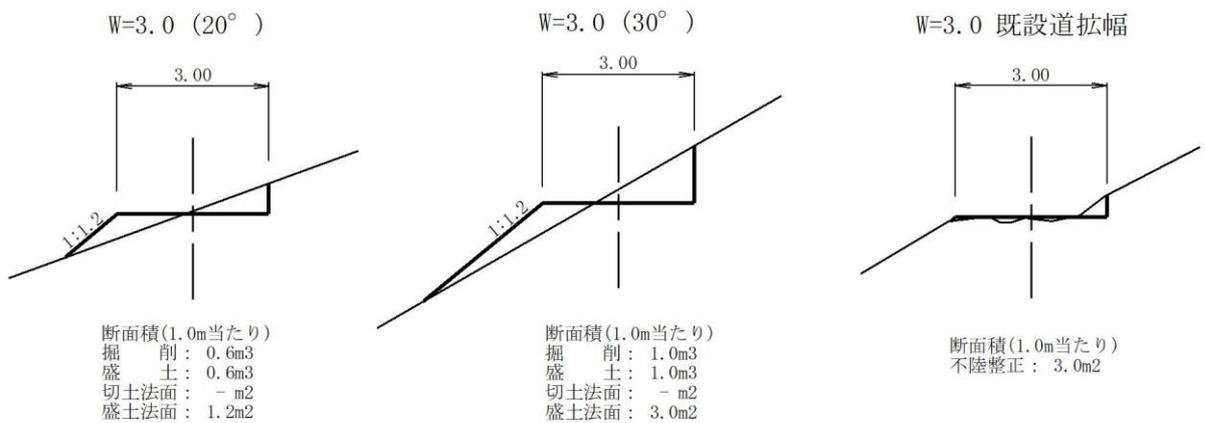
※1：地形図の等高線読み取りによって算出。

2.7 詳細設計 (R-6)

図表 415 R-6 の平面図



図表 416 R-6 の標準横断面図





R-6 起点



R-6 終点

図表 417 R-6 の構造・数量

延長	458.0m			
全幅員	2.0m	2.5m	3.0m	3.5m
			○	
傾斜(横断)	25° 以下		26° ~34°	
	○		○	
想定林業機械	3t 以下 (0.1m ³ 以下)	3~4t (0.2m ³ 以下)	6~8t (0.2~0.25m ³)	9~13t (0.45m ³)
			○	

注：想定林業機械の()書きはバケット容量

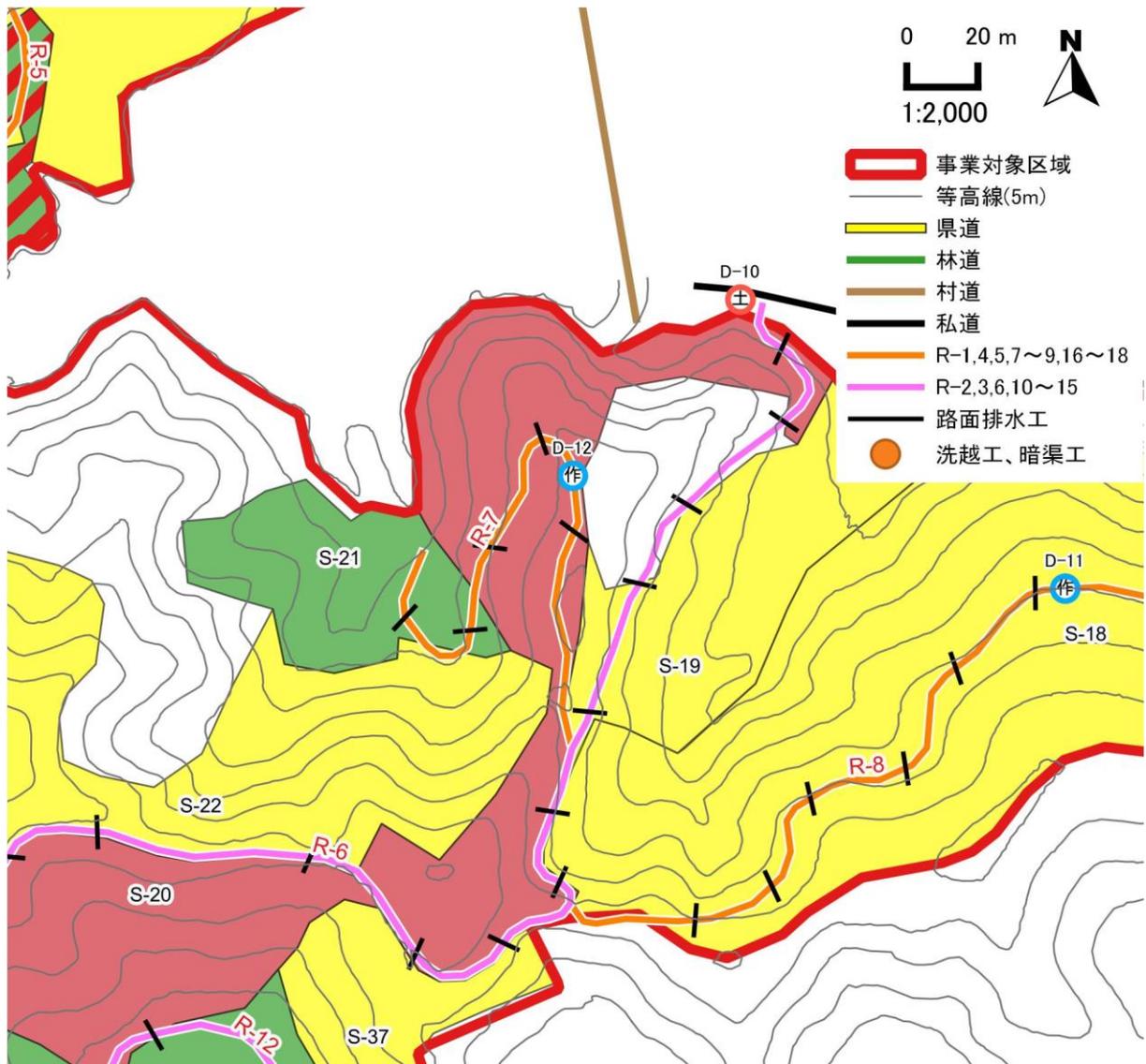
図表 418 R-6 の設計説明

項目	内 容			
起点	既設道			
終点	S-20 内の斜面			
縦断勾配 ^{※1}	区間	勾配	(比高)	(水平距離)
	0.0~154.9	+16%	+25m	154.9m
	154.9~303.1	+8%	+25m	303.1m
ヘアピンカーブ	なし			
排水施設	木製路面排水工 14 箇所			
構造物	なし			
切土	1 : 0.0			
盛土	1 : 1.2			

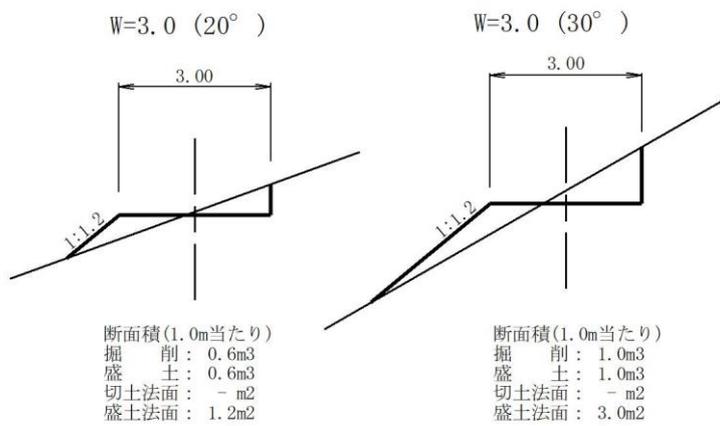
※1：地形図の等高線読み取りによって算出。

2.8 詳細設計 (R-7)

図表 419 R-7 の平面図



図表 420 R-7 の標準横断面図





R-7 起点



R-7 終点

図表 421 R-7 の構造・数量

延長	199.0m			
全幅員	2.0m	2.5m	3.0m	3.5m
			○	
傾斜(横断)	25° 以下		26° ~34°	
	○		○	
想定林業機械	3t 以下 (0.1m ³ 以下)	3~4t (0.2m ³ 以下)	6~8t (0.2~0.25m ³)	9~13t (0.45m ³)
			○	

注：想定林業機械の()書きはバケット容量

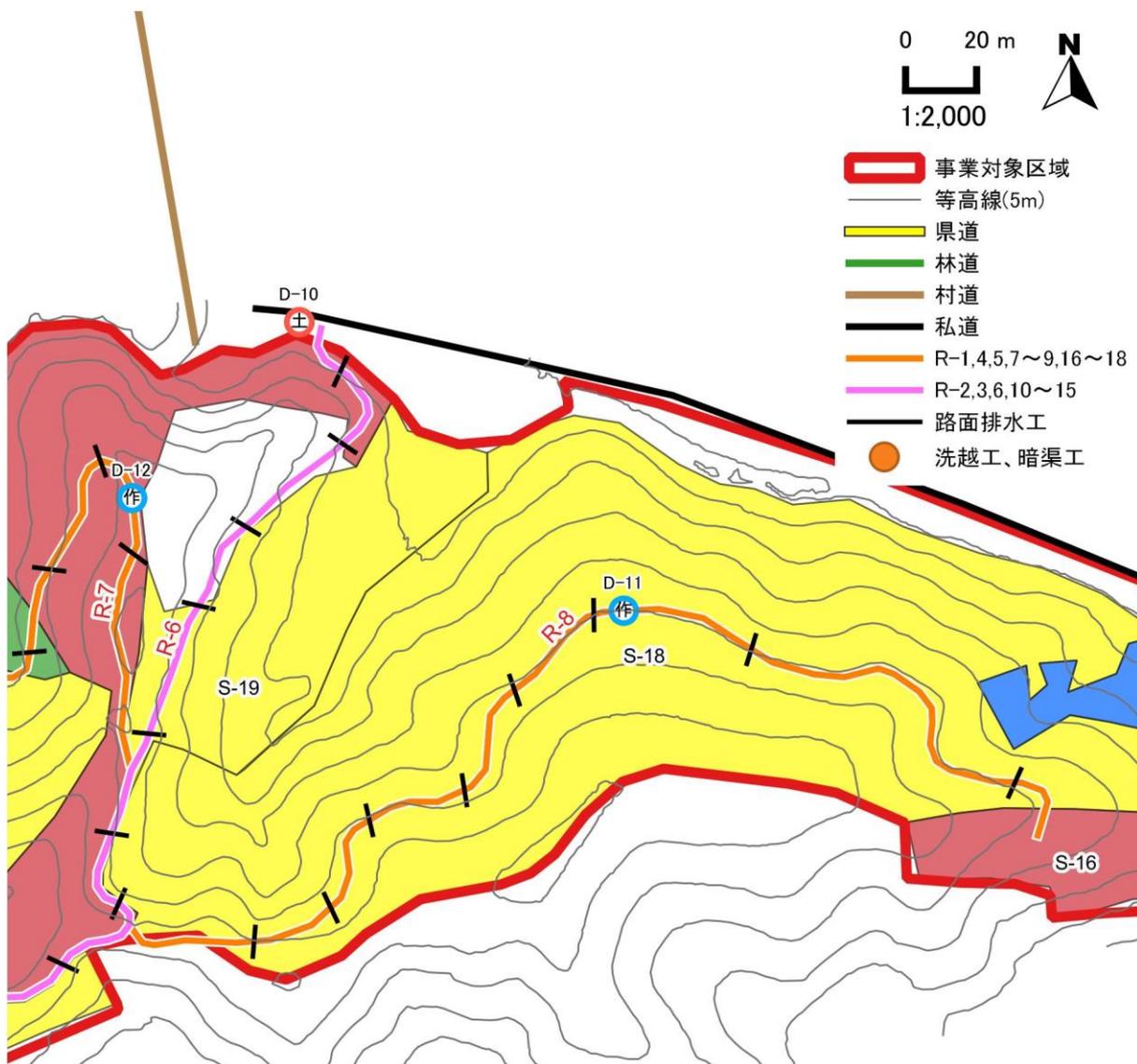
図表 422 R-7 の設計説明

項目	内 容			
起点	R-6 から分岐			
終点	S-21 内の斜面			
縦断勾配 ^{※1}	区間	勾配	(比高)	(水平距離)
	0.0~199.0	-9%	-17m	199.0m
ヘアピンカーブ	1 箇所			
排水施設	木製路面排水工 5 箇所			
構造物	なし			
切土	1 : 0.0			
盛土	1 : 1.2			

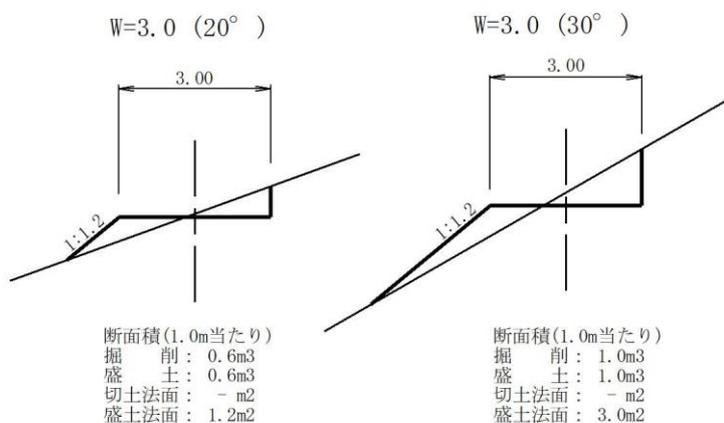
※1：地形図の等高線読み取りによって算出。

2.9 詳細設計 (R-8)

図表 423 R-8 の平面図

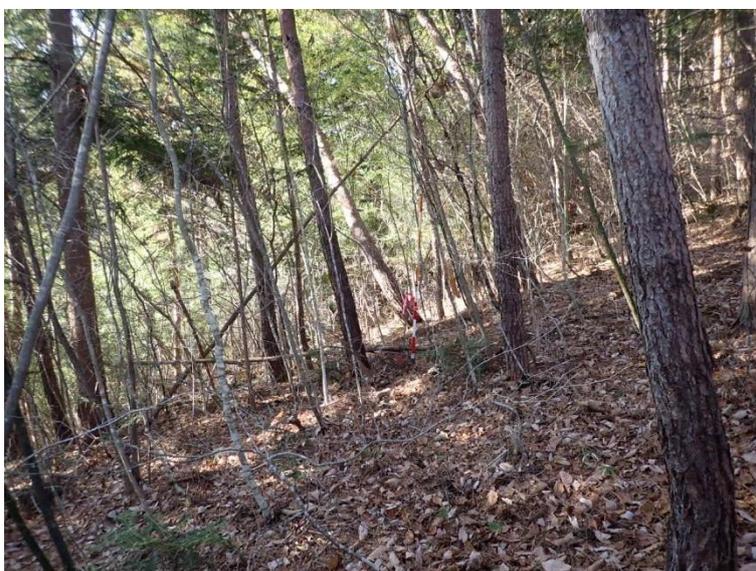


図表 424 R-8 の標準横断図





R-8 起点



R-8 終点

図表 425 R-8 の構造・数量

延長	348.0m			
全幅員	2.0m	2.5m	3.0m	3.5m
			○	
傾斜(横断)	25° 以下		26° ~34°	
	○		○	
想定林業機械	3t 以下 (0.1m ³ 以下)	3~4t (0.2m ³ 以下)	6~8t (0.2~0.25m ³)	9~13t (0.45m ³)
			○	

注：想定林業機械の()書きはバケツ容量

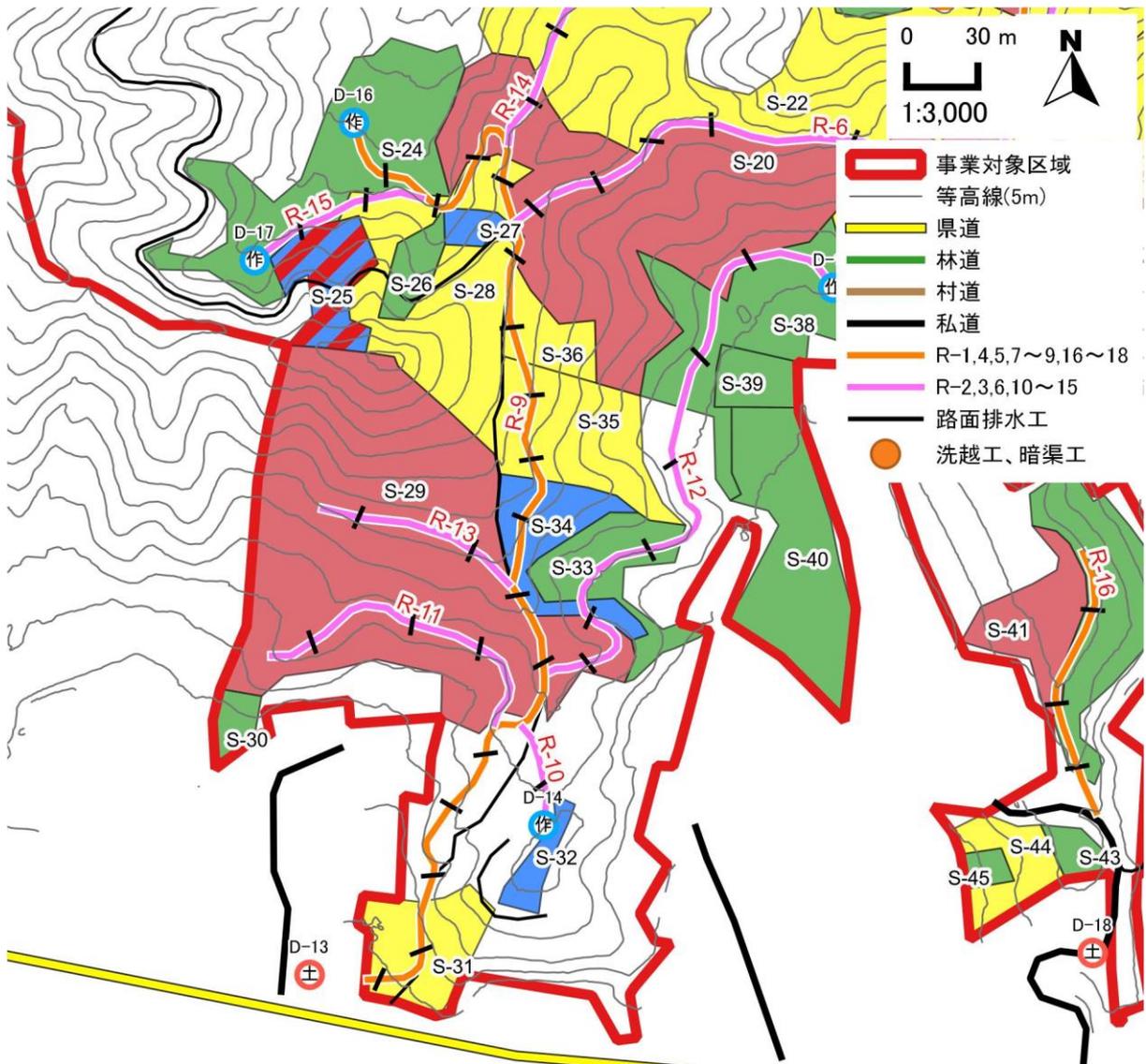
図表 426 R-8 の設計説明

項目	内 容			
起点	R-6 から分岐			
終点	S-16 内の斜面			
縦断勾配※1	区間	勾配	(比高)	(水平距離)
	0.0~173.7	-6%	-10m	173.7m
	173.7~307.9	+1%	+2m	134.2m
	307.9~348.0	-5%	-2m	40.1m
ヘアピンカーブ	なし			
排水施設	木製路面排水工 8 箇所			
構造物	なし			
切土	1 : 0.0			
盛土	1 : 1.2			

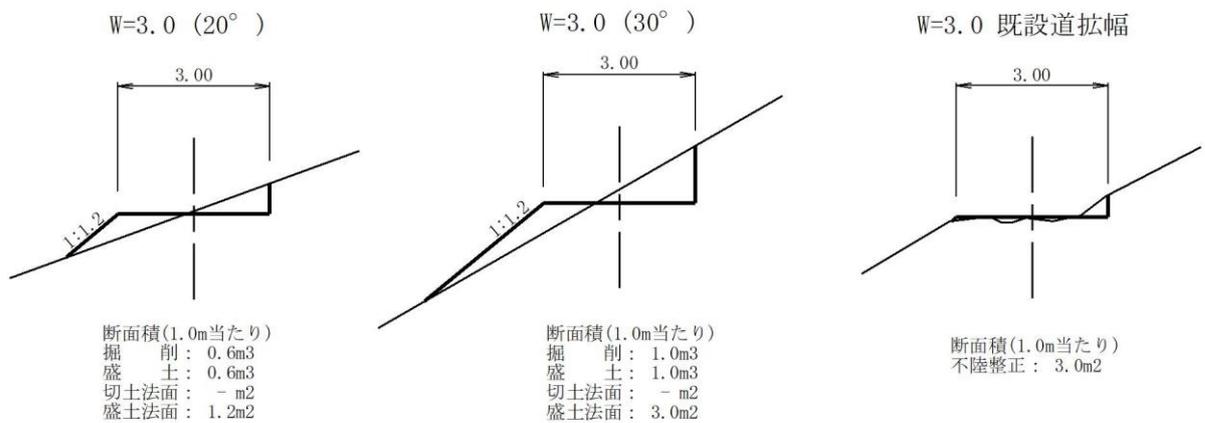
※1：地形図の等高線読み取りによって算出。

2.10 詳細設計(R-9)

図表 427 R-9の平面図



図表 428 R-9の標準横断面図





R-9 起点



R-9 終点

図表 429 R-9 の構造・数量

延長	518.0m			
全幅員	2.0m	2.5m	3.0m	3.5m
			○	
傾斜(横断)	25° 以下		26° ~34°	
	○		○	
想定林業機械	3t 以下 (0.1m ³ 以下)	3~4t (0.2m ³ 以下)	6~8t (0.2~0.25m ³)	9~13t (0.45m ³)
			○	

注：想定林業機械の()書きはバケット容量

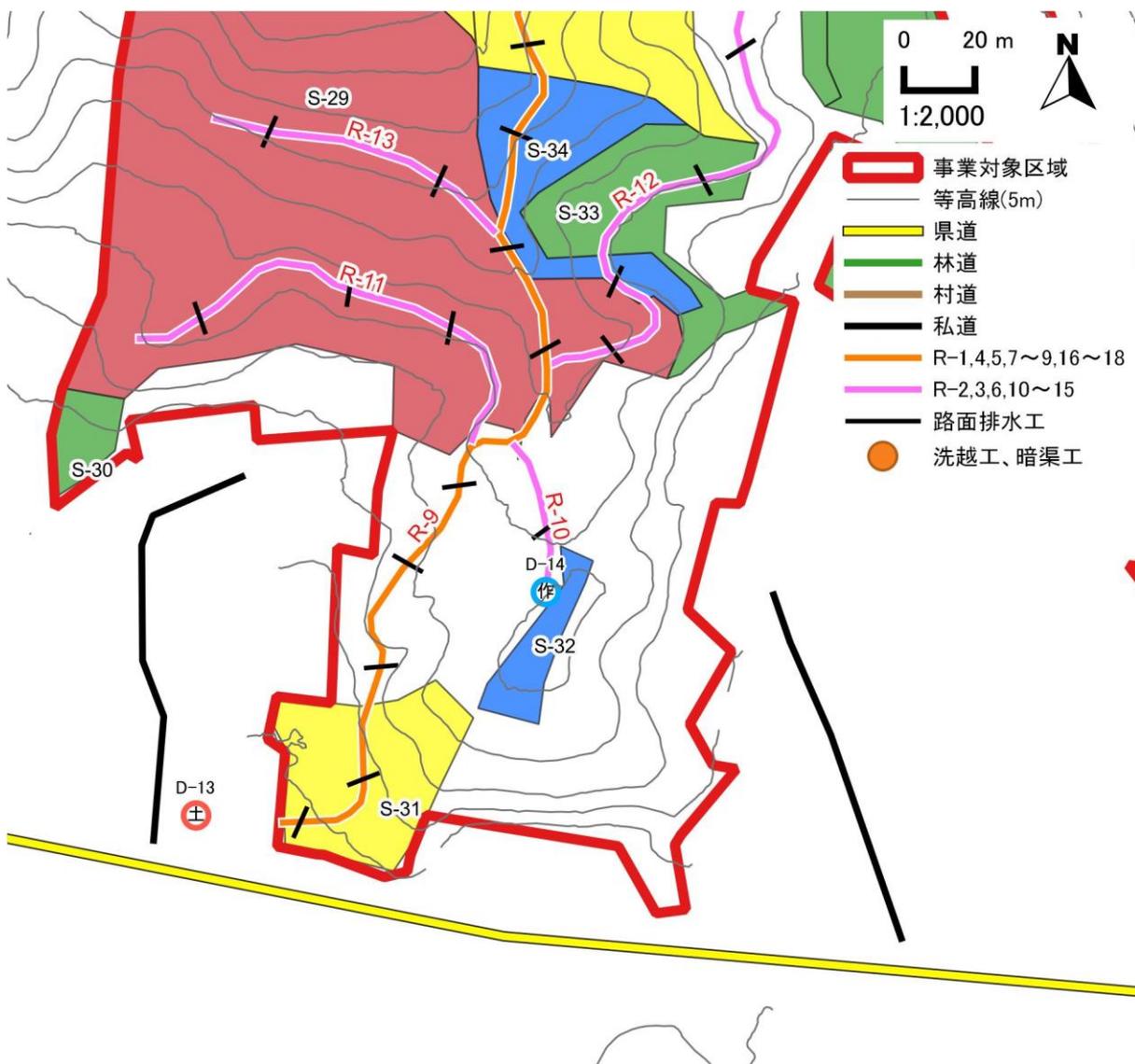
図表 430 R-9 の設計説明

項目	内 容			
起点	農地			
終点	S-24 内の斜面			
縦断勾配※1	区間	勾配	(比高)	(水平距離)
	0.0～332.5	+15%	+50m	332.5m
	332.5～353.2	+5%	+1m	20.7m
	353.2～518.0	-12%	-20m	164.8m
ヘアピンカーブ	1 箇所			
排水施設	木製路面排水工 17 箇所			
構造物	なし			
切土	1 : 0.0			
盛土	1 : 1.2			

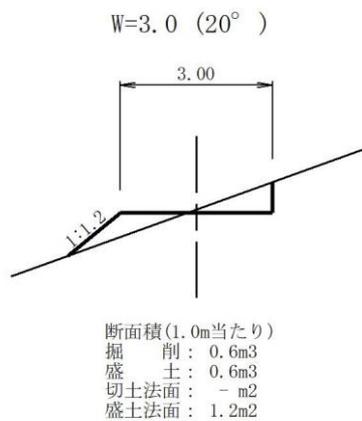
※1：地形図の等高線読み取りによって算出。

2.11 詳細設計 (R-10)

図表 431 R-10 の平面図



図表 432 R-10 の標準横断面図





R-10 起点



R-10 終点

図表 433 R-10 の構造・数量

延長	45.0m			
全幅員	2.0m	2.5m	3.0m	3.5m
			○	
傾斜(横断)	25° 以下		26° ~34°	
	○			
想定林業機械	3t 以下 (0.1m ³ 以下)	3~4t (0.2m ³ 以下)	6~8t (0.2~0.25m ³)	9~13t (0.45m ³)
			○	

注：想定林業機械の()書きはバケツ容量

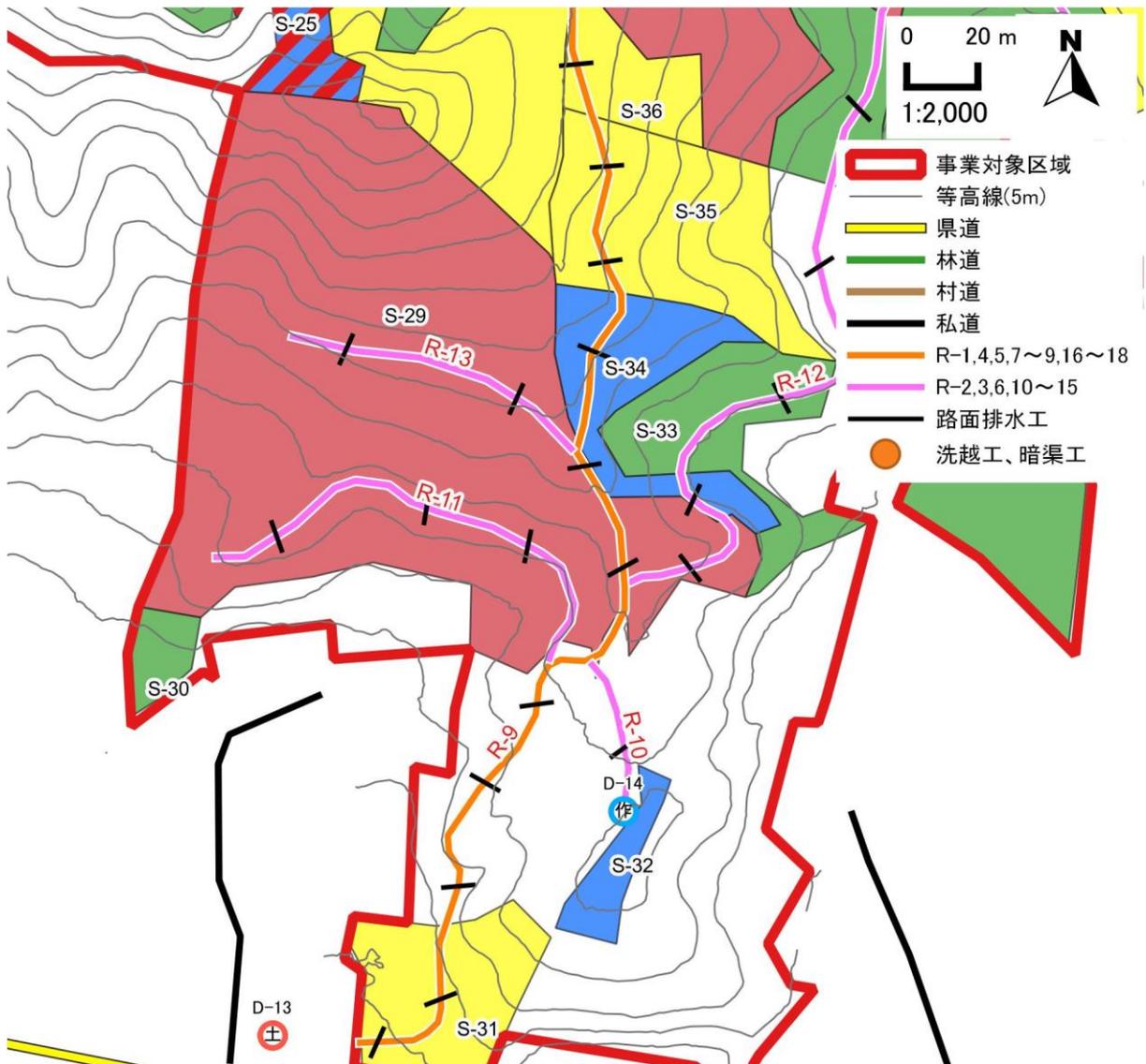
図表 434 R-10 の設計説明

項目	内 容			
起点	R-9 から分岐			
終点	S-32 付近の尾根			
縦断勾配 ^{※1}	区間	勾配	(比高)	(水平距離)
	0.0~31.0	-6%	-2m	31.0m
	31.0~45.0	+7%	+1m	14.0m
ヘアピンカーブ	なし			
排水施設	木製路面排水工 1 箇所			
構造物	なし			
切土	1 : 0.0			
盛土	1 : 1.2			

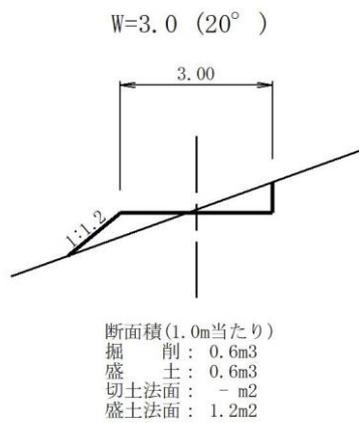
※1：地形図の等高線読み取りによって算出。

2.12 詳細設計(R-11)

図表 435 R-11 の平面図



図表 436 R-11 の標準横断図





R-11 起点



R-11 終点

図表 437 R-11 の構造・数量

延長	138.0m			
全幅員	2.0m	2.5m	3.0m	3.5m
			○	
傾斜(横断)	25° 以下		26° ~34°	
	○			
想定林業機械	3t 以下 (0.1m ³ 以下)	3~4t (0.2m ³ 以下)	6~8t (0.2~0.25m ³)	9~13t (0.45m ³)
			○	

注：想定林業機械の()書きはバケツ容量

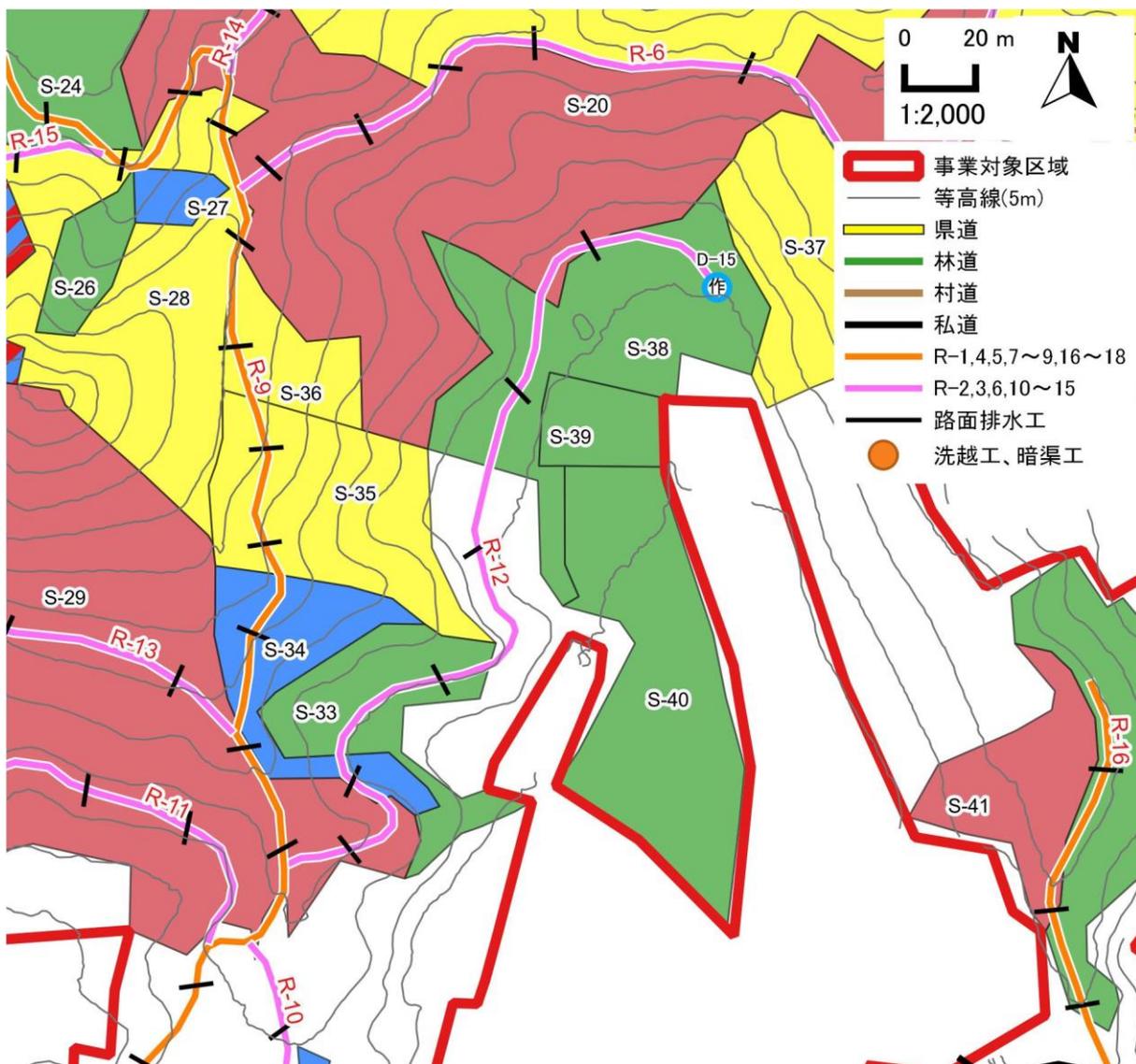
図表 438 R-11 の設計説明

項目	内 容			
起点	R-9 から分岐			
終点	S-29 内の斜面			
縦断勾配※1	区間	勾配	(比高)	(水平距離)
	0.0～28.1	-4%	-1m	28.1m
	28.1～66.8	+8%	+3m	38.7m
	66.8～98.0	+3%	+1m	31.2m
	98.0～138.0	-10%	-4m	40.0m
ヘアピンカーブ	なし			
排水施設	木製路面排水工 3 箇所			
構造物	なし			
切土	1 : 0.0			
盛土	1 : 1.2			

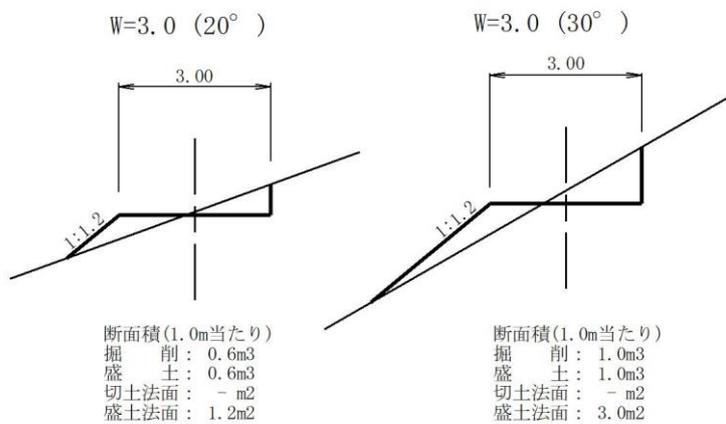
※1：地形図の等高線読み取りによって算出。

2.13 詳細設計 (R-12)

図表 439 R-12 の平面図



図表 440 R-12 の標準横断図





R-12 起点



R-12 終点

図表 441 R-12 の構造・数量

延長	292.0m			
全幅員	2.0m	2.5m	3.0m	3.5m
			○	
傾斜(横断)	25° 以下		26° ~34°	
	○		○	
想定林業機械	3t 以下 (0.1m ³ 以下)	3~4t (0.2m ³ 以下)	6~8t (0.2~0.25m ³)	9~13t (0.45m ³)
			○	

注：想定林業機械の()書きはバケツ容量

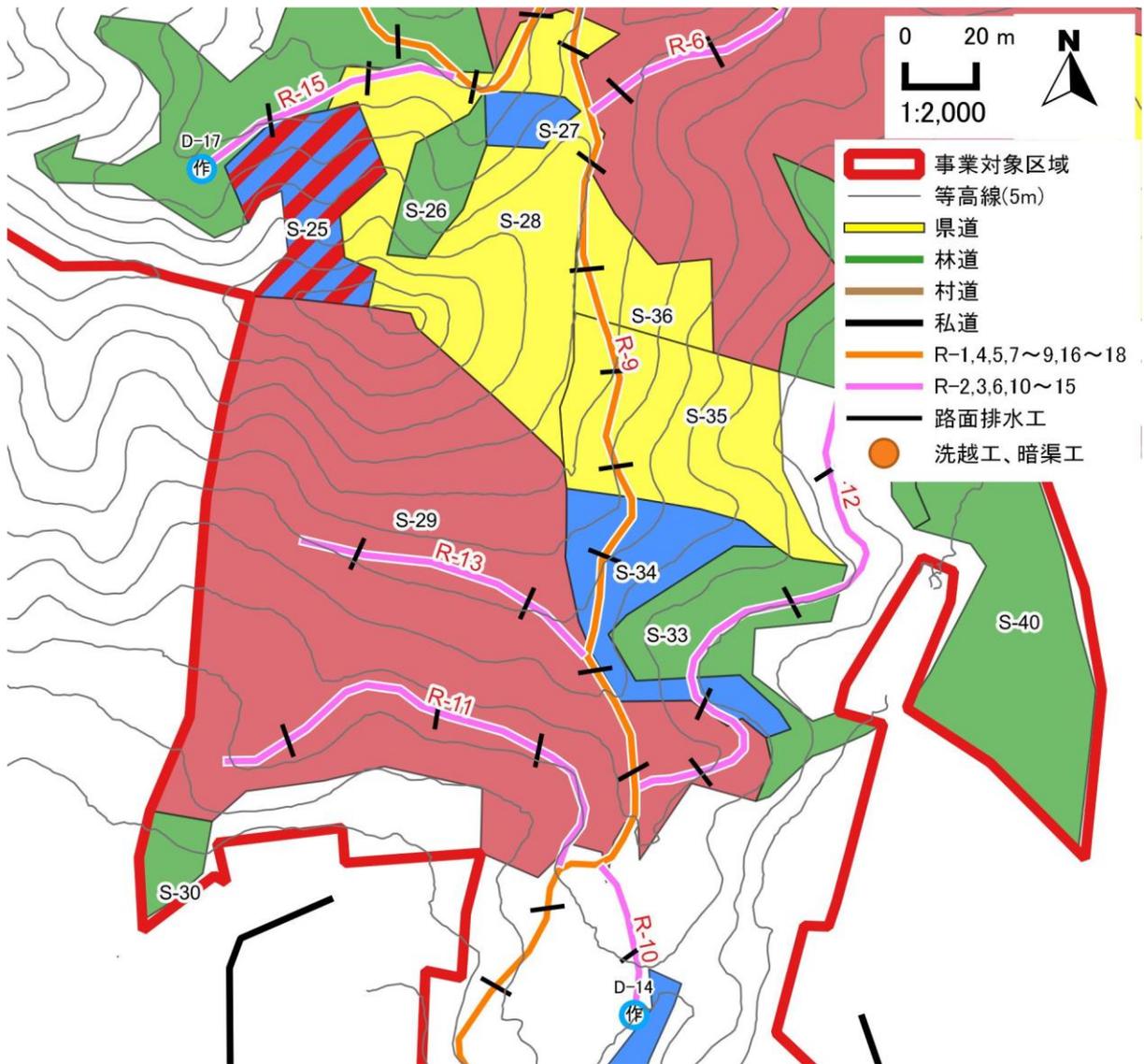
図表 442 R-12 の設計説明

項目	内 容			
起点	R-9 から分岐			
終点	S-38 内の斜面			
縦断勾配※1	区間	勾配	(比高)	(水平距離)
	0.0～64.3	-9%	-6m	64.3m
	64.3～113.7	-2%	-1m	49.4m
	113.7～141.0	-11%	-3m	27.3m
	141.0～226.1	+1%	+1m	85.1m
	226.1～292.0	-5%	-3m	65.9m
ヘアピンカーブ	なし			
排水施設	木製路面排水工 6 箇所			
構造物	なし			
切土	1 : 0.0			
盛土	1 : 1.2			

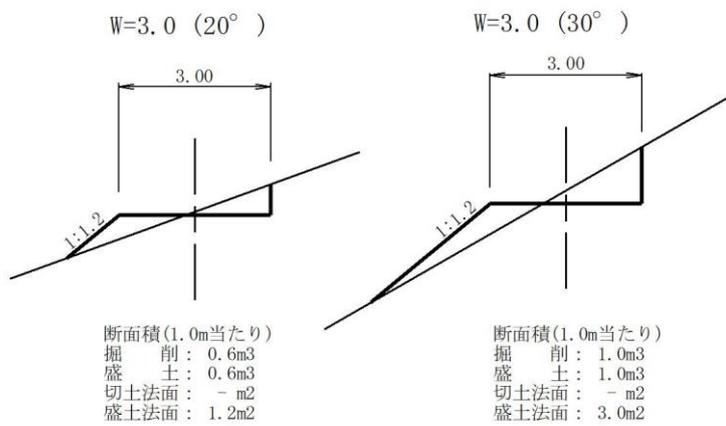
※1：地形図の等高線読み取りによって算出。

2.14 詳細設計 (R-13)

図表 443 R-13 の平面図



図表 444 R-13 の標準横断図





R-13 起点



R-13 終点

図表 445 R-13 の構造・数量

延長	86.0m			
全幅員	2.0m	2.5m	3.0m	3.5m
			○	
傾斜(横断)	25° 以下		26° ~34°	
	○		○	
想定林業機械	3t 以下 (0.1m ³ 以下)	3~4t (0.2m ³ 以下)	6~8t (0.2~0.25m ³)	9~13t (0.45m ³)
			○	

注：想定林業機械の()書きはバケット容量

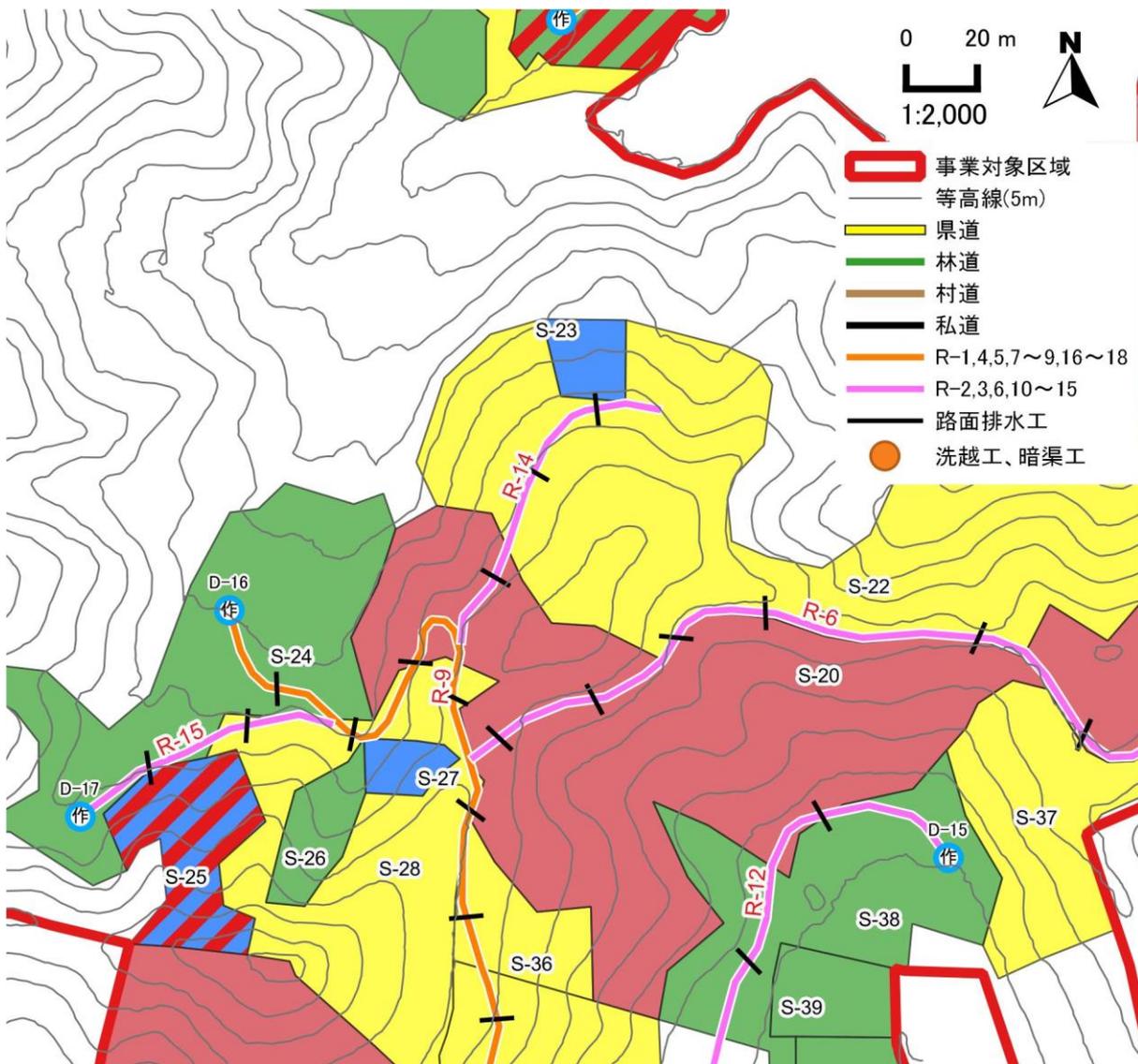
図表 446 R-13 の設計説明

項目	内 容			
起点	R-9 から分岐			
終点	S-29 内の斜面			
縦断勾配※1	区間	勾配	(比高)	(水平距離)
	0.0～50.1	+10%	+5m	50.1m
	50.1～86.0	-8%	-3m	35.9m
ヘアピンカーブ	なし			
排水施設	木製路面排水工 2 箇所			
構造物	なし			
切土	1 : 0.0			
盛土	1 : 1.2			

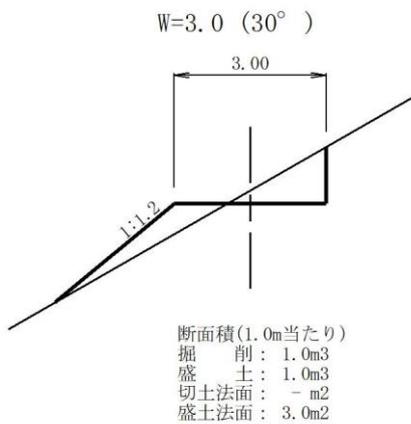
※1：地形図の等高線読み取りによって算出。

2.15 詳細設計 (R-14)

図表 447 R-14 の平面図



図表 448 R-14 の標準横断面図





R-14 起点



R-14 終点

図表 449 R-14 の構造・数量

延長	96.0m			
全幅員	2.0m	2.5m	3.0m	3.5m
			○	
傾斜(横断)	25° 以下		26° ~34°	
			○	
想定林業機械	3t 以下 (0.1m ³ 以下)	3~4t (0.2m ³ 以下)	6~8t (0.2~0.25m ³)	9~13t (0.45m ³)
			○	

注：想定林業機械の()書きはバケット容量

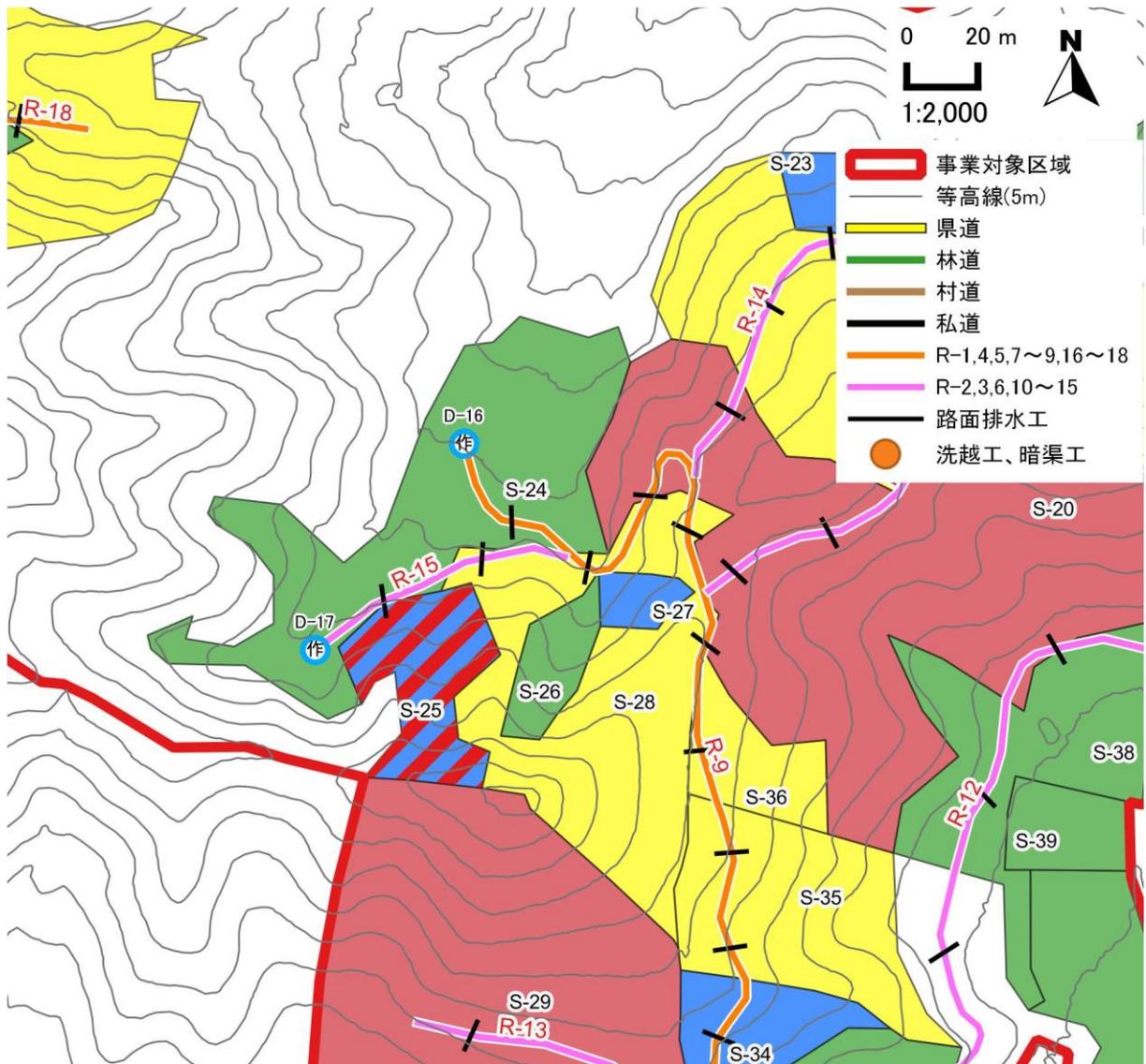
図表 450 R-14 の設計説明

項目	内 容			
起点	R-9 から分岐			
終点	S-22 内の斜面			
縦断勾配※1	区間	勾配	(比高)	(水平距離)
	0.0~96.0	-10%	-10m	96.0m
ヘアピンカーブ	なし			
排水施設	木製路面排水工 3 箇所			
構造物	なし			
切土	1 : 0.0			
盛土	1 : 1.2			

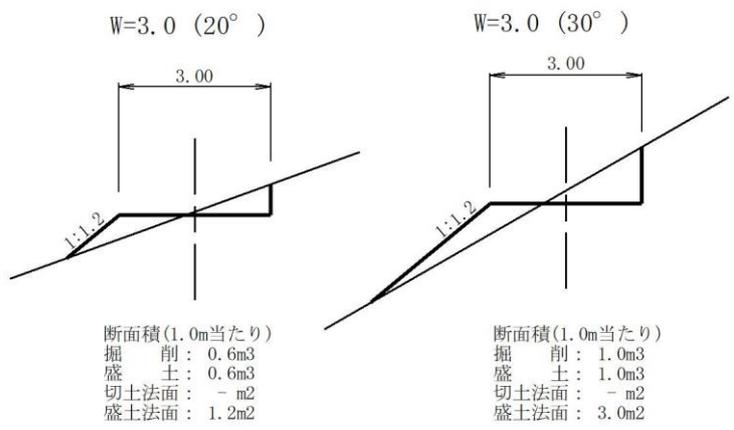
※1：地形図の等高線読み取りによって算出。

2.16 詳細設計 (R-15)

図表 451 R-15 の平面図



図表 452 R-15 の標準横断図





R-15 起点



R-15 終点

図表 453 R-15 の構造・数量

延長	78.0m			
全幅員	2.0m	2.5m	3.0m	3.5m
傾斜(横断)	25° 以下		26° ~34°	
	○		○	
想定林業機械	3t 以下 (0.1m ³ 以下)	3~4t (0.2m ³ 以下)	6~8t (0.2~0.25m ³)	9~13t (0.45m ³)
			○	

注：想定林業機械の()書きはバケット容量

図表 454 R-15 の設計説明

項目	内 容			
起点	R-9 から分岐			
終点	S-24 内の斜面			
縦断勾配※1	区間	勾配	(比高)	(水平距離)
	0.0~78.0	+9%	+7m	78.0m
ヘアピンカーブ	なし			
排水施設	木製路面排水工 2 箇所			
構造物	なし			
切土	1 : 0.0			
盛土	1 : 1.2			

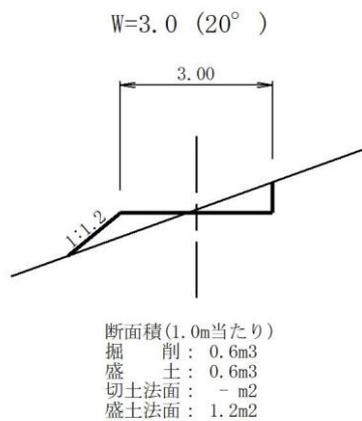
※1：地形図の等高線読み取りによって算出。

2.17 詳細設計 (R-16)

図表 455 R-16 の平面図



図表 456 R-16 の標準横断面図





R-16 起点



R-16 終点

図表 457 R-16 の構造・数量

延長	118.0m			
全幅員	2.0m	2.5m	3.0m	3.5m
			○	
傾斜(横断)	25° 以下		26° ~34°	
	○			
想定林業機械	3t 以下 (0.1m ³ 以下)	3~4t (0.2m ³ 以下)	6~8t (0.2~0.25m ³)	9~13t (0.45m ³)
			○	

注：想定林業機械の()書きはバケット容量

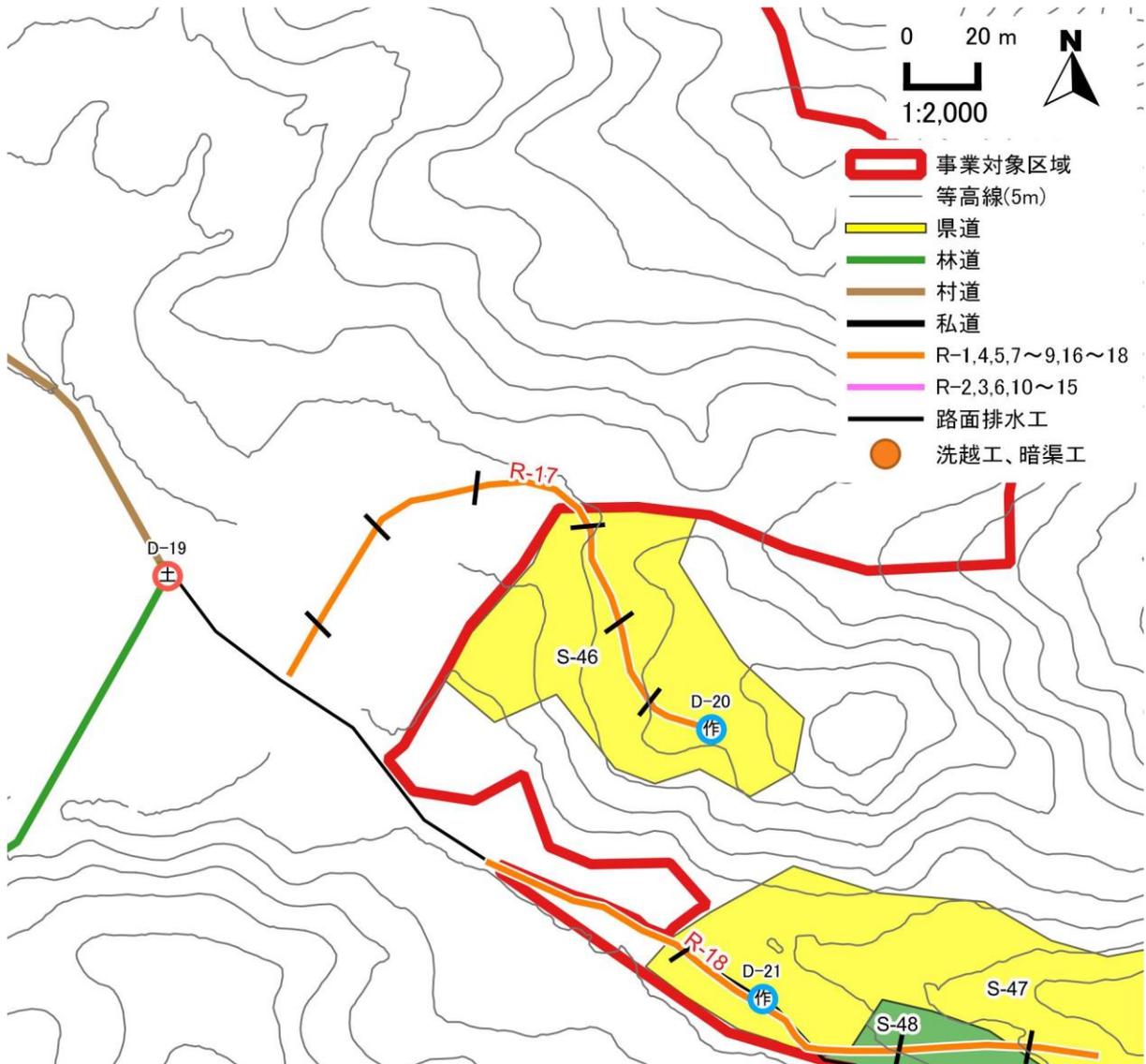
図表 458 R-16 の設計説明

項目	内 容			
起点	既設道			
終点	S-42 内の斜面			
縦断勾配 ^{※1}	区間	勾配	(比高)	(水平距離)
	0.0～56.9	+16%	+9m	56.9m
	56.9～118.0	+2%	+1m	61.1m
ヘアピンカーブ	なし			
排水施設	木製路面排水工 3 箇所			
構造物	なし			
切土	1 : 0.0			
盛土	1 : 1.2			

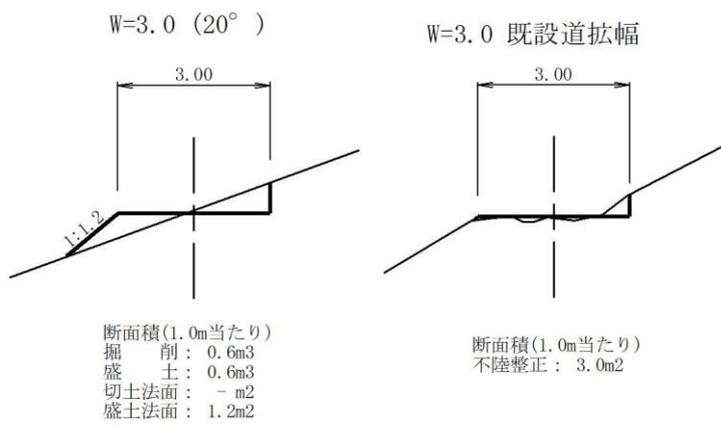
※1：地形図の等高線読み取りによって算出。

2.18 詳細設計 (R-17)

図表 459 R-17 の平面図



図表 460 R-17 の標準横断面図





R-17 起点



R-17 終点

図表 461 R-17 の構造・数量

延長	190.0m			
全幅員	2.0m	2.5m	3.0m	3.5m
傾斜(横断)	25° 以下		26° ~34°	
	○			
想定林業機械	3t 以下 (0.1m ³ 以下)	3~4t (0.2m ³ 以下)	6~8t (0.2~0.25m ³)	9~13t (0.45m ³)
			○	

注：想定林業機械の()書きはバケット容量

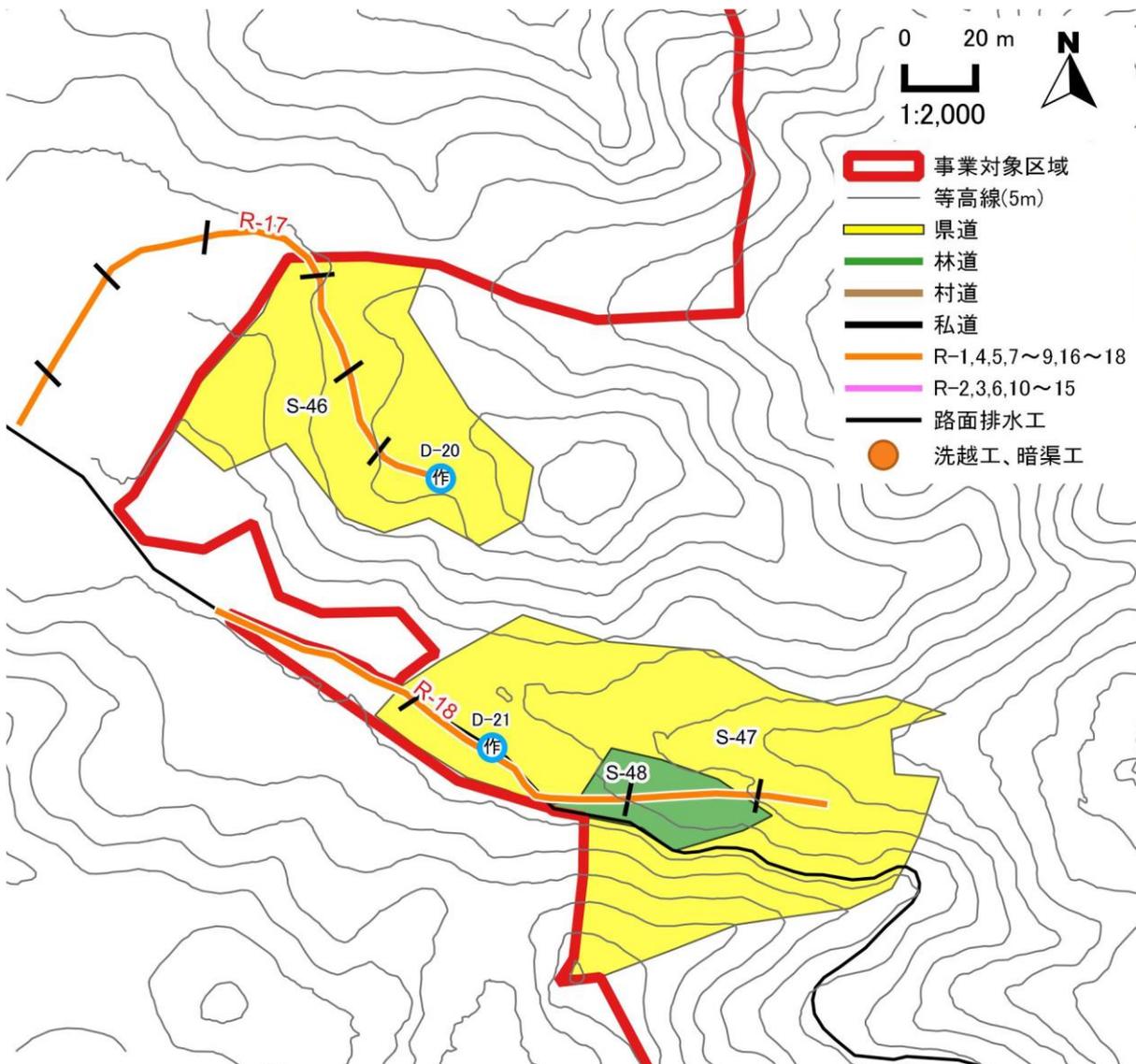
図表 462 R-17 の設計説明

項目	内 容			
起点	既設道			
終点	S-46 内の斜面			
縦断勾配※1	区間	勾配	(比高)	(水平距離)
	0.0～93.1	+10%	+9m	93.1m
	93.1～117.5	+4%	+1m	24.4m
	117.5～190.0	+10%	+7m	72.5m
ヘアピンカーブ	なし			
排水施設	木製路面排水工 6 箇所			
構造物	なし			
切土	1 : 0.0			
盛土	1 : 1.2			

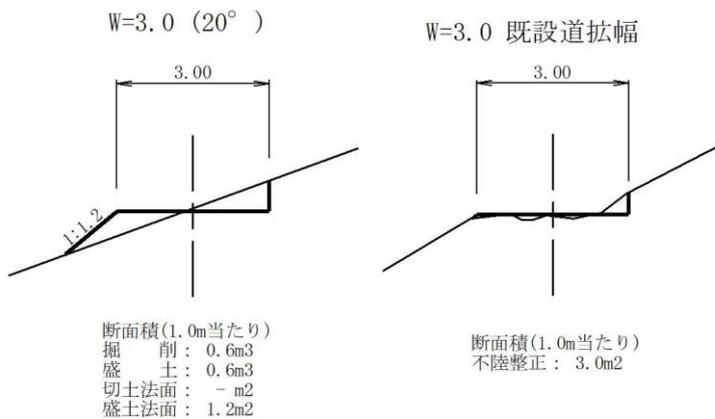
※1：地形図の等高線読み取りによって算出。

2.19 詳細設計 (R-18)

図表 463 R-18 の平面図



図表 464 R-18 の標準横断図





R-18 起点



R-18 終点

図表 465 R-18 の構造・数量

延長	186.0m			
全幅員	2.0m	2.5m	3.0m	3.5m
			○	
傾斜(横断)	25° 以下		26° ~34°	
	○			
想定林業機械	3t 以下 (0.1m ³ 以下)	3~4t (0.2m ³ 以下)	6~8t (0.2~0.25m ³)	9~13t (0.45m ³)
			○	

注：想定林業機械の()書きはバケツ容量

図表 466 R-18 の設計説明

項目	内 容			
起点	既設道			
終点	S-47 内の斜面			
縦断勾配 ^{※1}	区間	勾配	(比高)	(水平距離)
	0.0~108.2	-1%	-1m	108.2m
	108.2~186.0	-15%	-12m	77.8m
ヘアピンカーブ	なし			
排水施設	木製路面排水工 3 箇所			
構造物	なし			
切土	1 : 0.0			
盛土	1 : 1.2			

※1：地形図の等高線読み取りによって算出。

3. 林業用作業施設の整備方針

3.1 詳細設計(D-1)

図表 467 D-1 平面図



林業用作業施設の種別、面積等を図表 468 にまとめる。

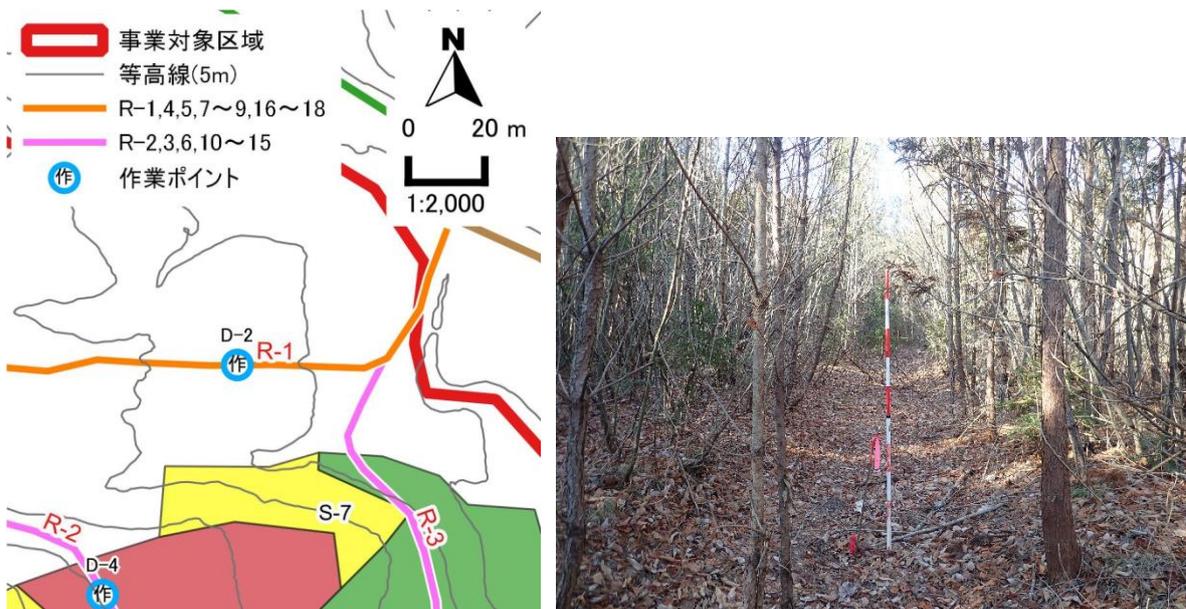
図表 468 D-1 の構造等

項目	内容
種別	山土場
接続道	村道、R-1
面積※	252.0m ²
路面	敷鉄板
のり面	なし
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

3.2 詳細設計(D-2)

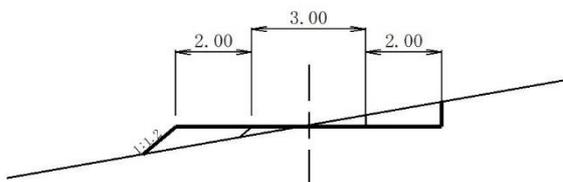
図表 469 D-2 平面図



図表 470 D-2 の標準図

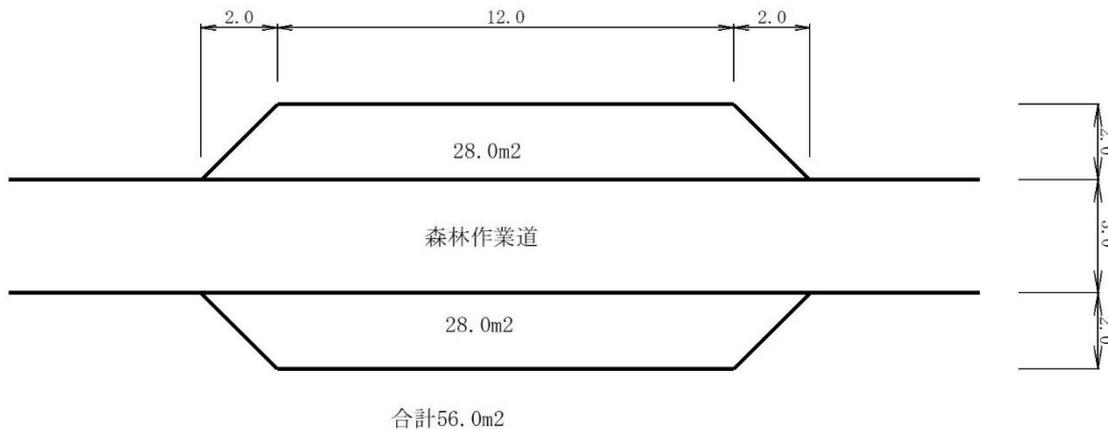
横断面図

W=3.0 (10°)



断面積(1.0m当たり)
 掘削: 1.2m³
 盛土: 1.2m³
 切土法面: - m²
 盛土法面: 1.1m²

平面図(中間タイプ)



林業用作業施設の種別、面積等を図表 471 まとめる。

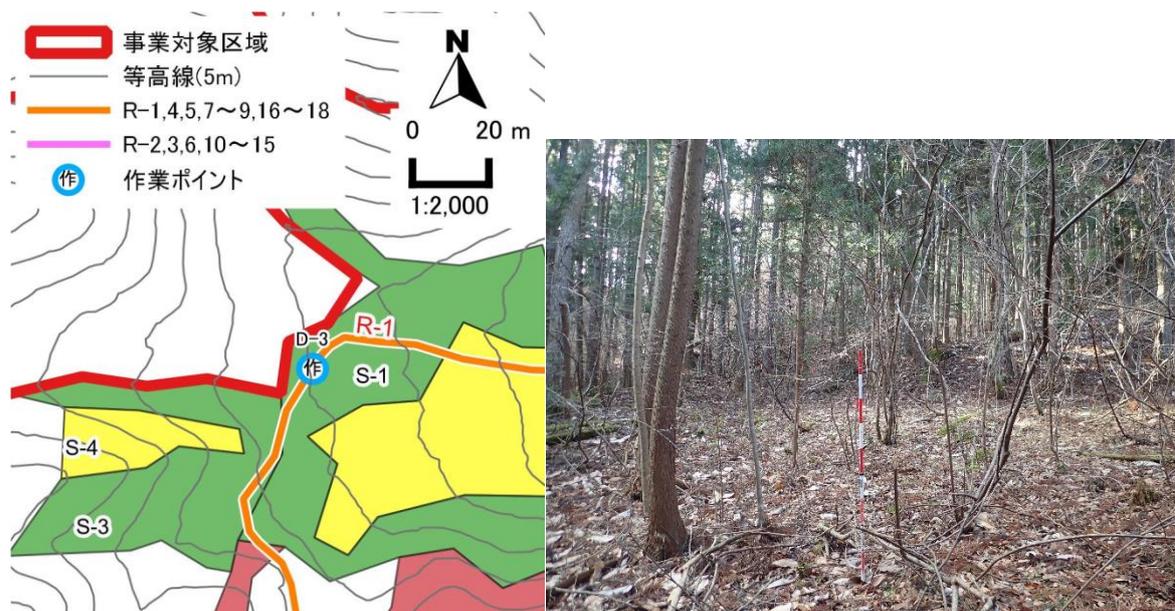
図表 471 D-2 の構造等

項目	内 容
種別	作業ポイント
接続道	R-1
面積※	56.0m ²
路面	土
のり面	切土 1:0.0 盛土 1:1.2
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

3.3 詳細設計(D-3)

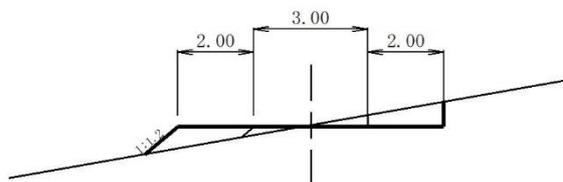
図表 472 D-3 平面図



図表 473 D-3 の標準図

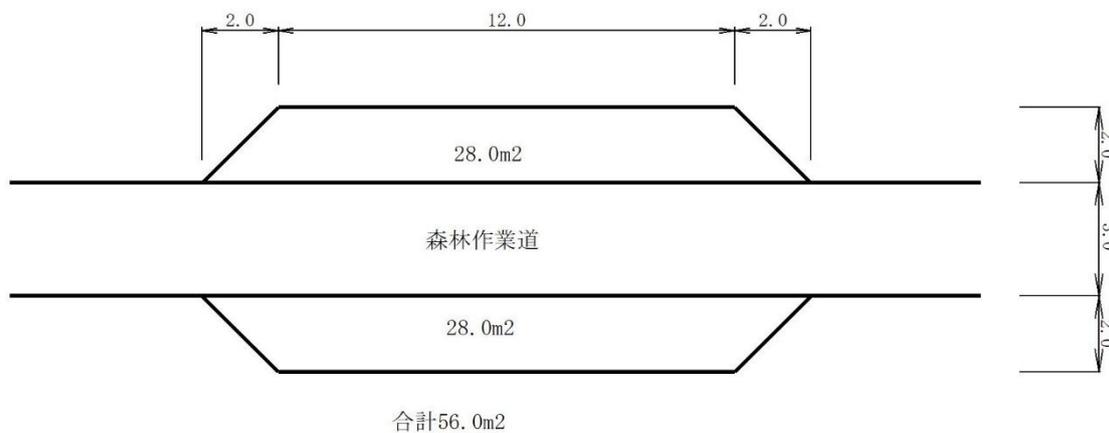
横断面図

W=3.0 (10°)



断面積(1.0m当たり)
 掘削: 1.2m³
 盛土: 1.2m³
 切土法面: - m²
 盛土法面: 1.1m²

平面図(中間タイプ)



林業用作業施設の種別、面積等を図表 474 にまとめる。

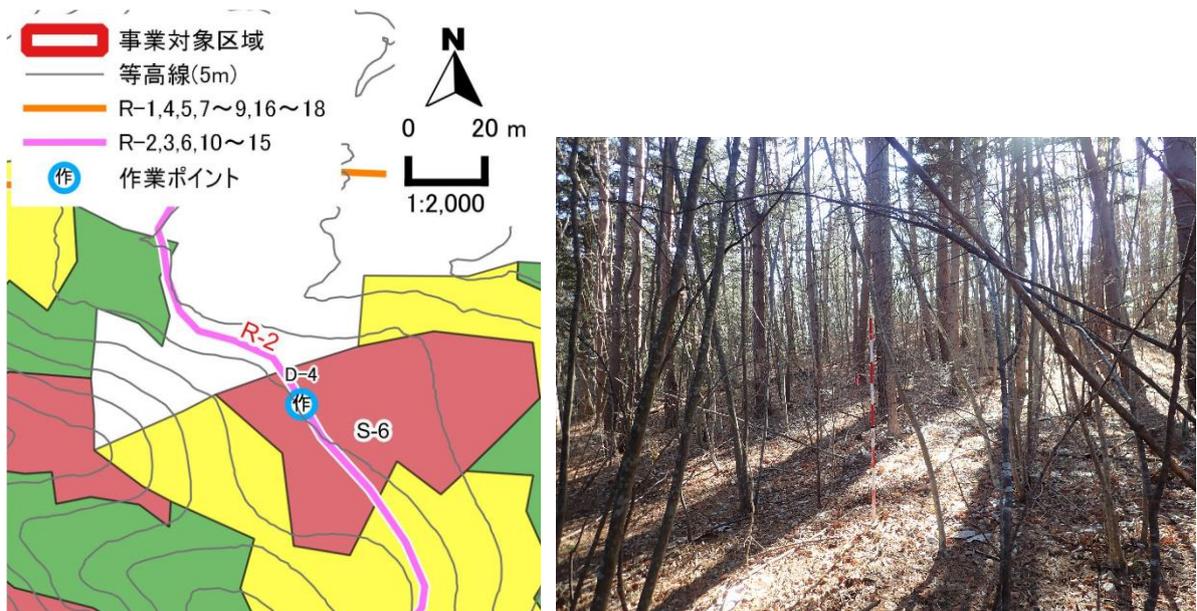
図表 474 D-3 の構造等

項目	内 容
種別	作業ポイント
接続道	R-1
面積※	56.0m ²
路面	土
のり面	切土 1:0.0 盛土 1:1.2
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

3.4 詳細設計(D-4)

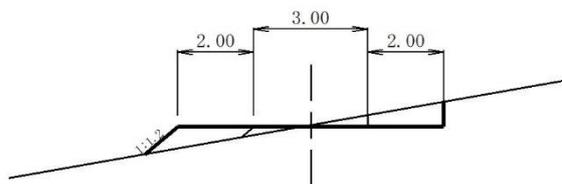
図表 475 D-4 平面図



図表 476 D-4 の標準図

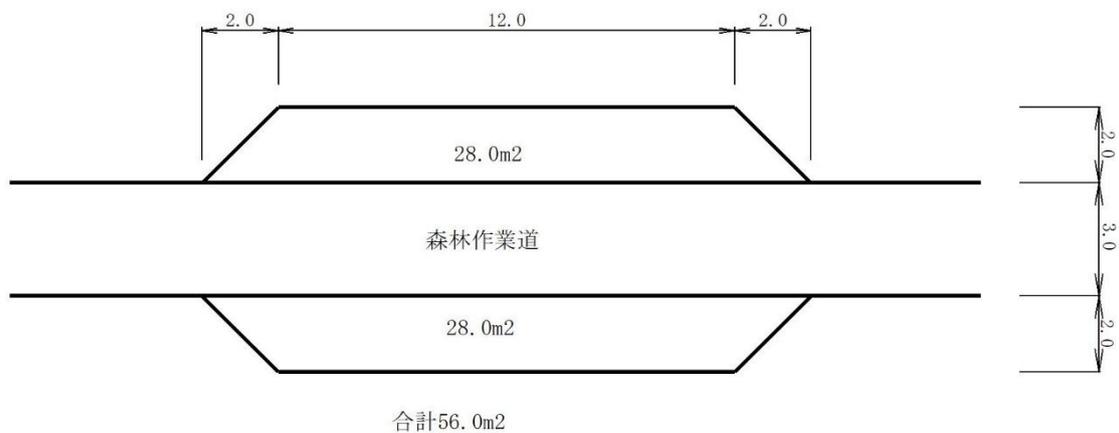
横断面図

W=3.0 (10°)



断面積(1.0m当たり)
 掘削: 1.2m³
 盛土: 1.2m³
 切土法面: - m²
 盛土法面: 1.1m²

平面図(中間タイプ)



林業用作業施設の種別、面積等を図表 477 にまとめる。

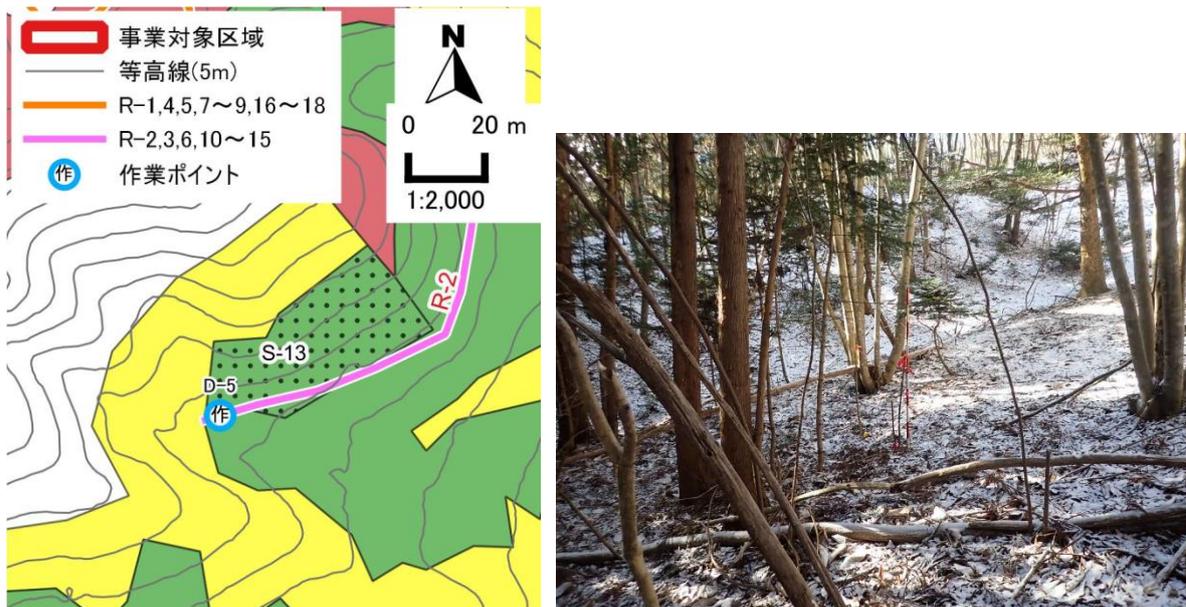
図表 477 D-4 の構造等

項目	内 容
種別	作業ポイント
接続道	R-2
面積※	56.0m ²
路面	土
のり面	切土 1 : 0.0 盛土 1 : 1.2
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

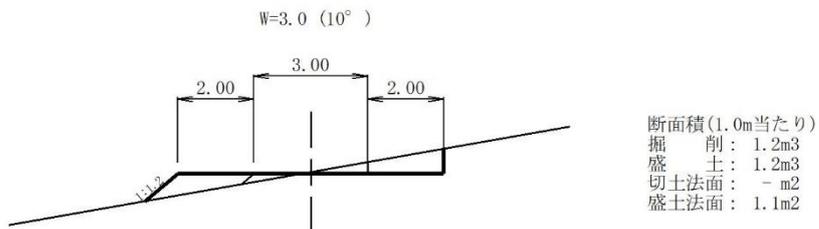
3.5 詳細設計(D-5)

図表 478 D-5 平面図

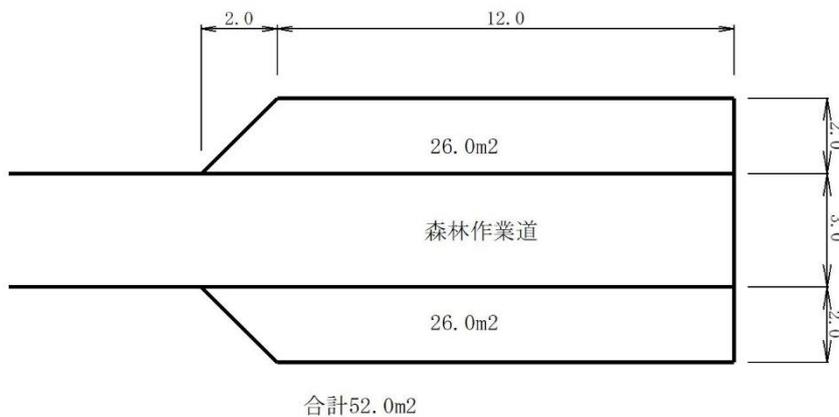


図表 479 D-5 の標準図

横断面図



平面図(終点タイプ)



林業用作業施設の種別、面積等を図表 480 にまとめる。

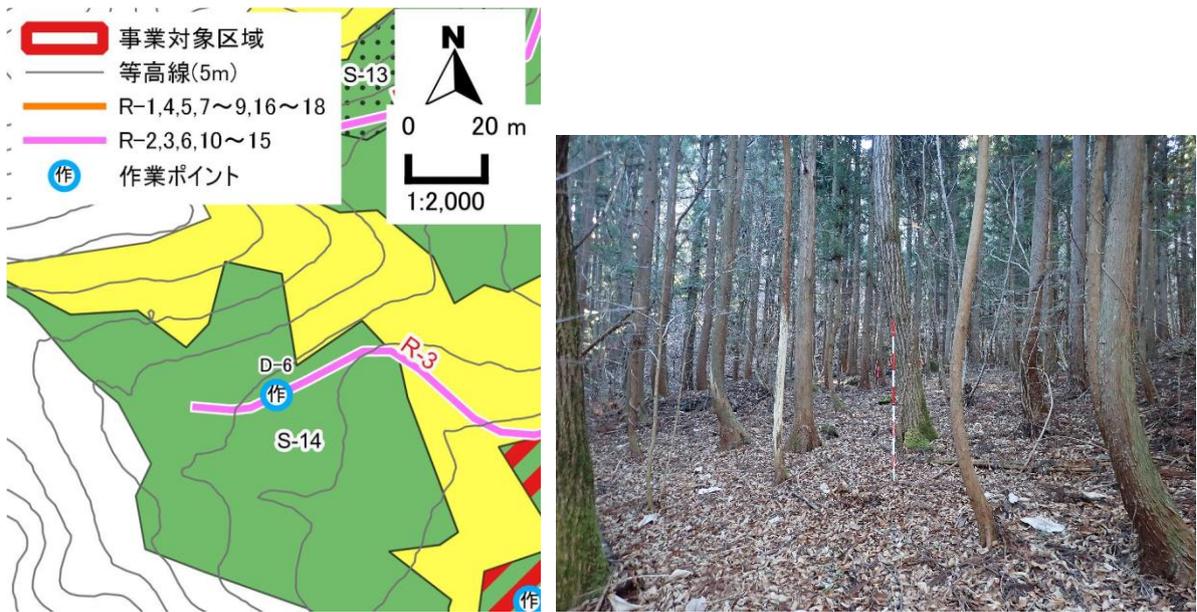
図表 480 D-5 の構造等

項目	内 容
種別	作業ポイント
接続道	R-2
面積※	52.0m ²
路面	土
のり面	切土 1 : 0.0 盛土 1 : 1.2
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

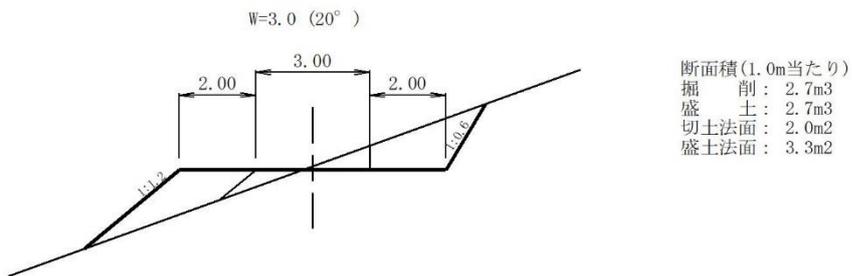
3.6 詳細設計(D-6)

図表 481 D-6 平面図

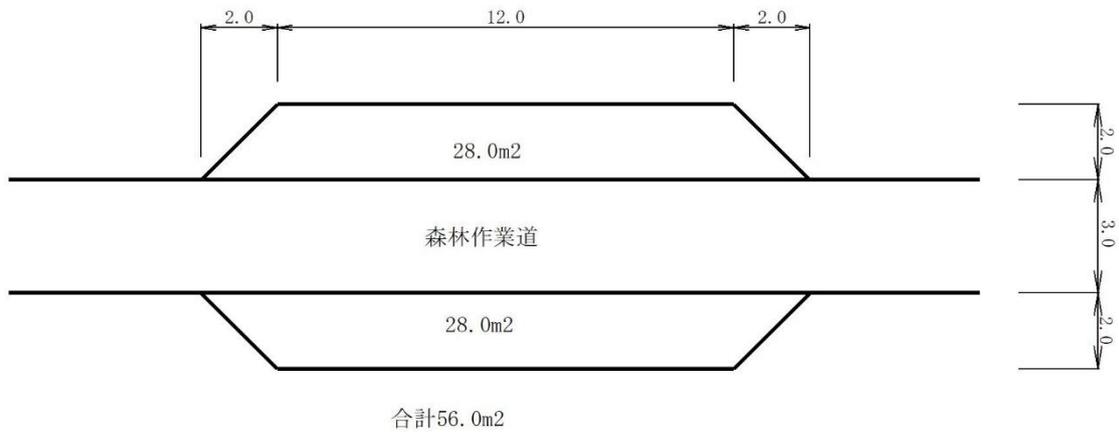


図表 482 D-6 の標準図

横断面図



平面図(中間タイプ)



林業用作業施設の種別、面積等を図表 483 にまとめる。

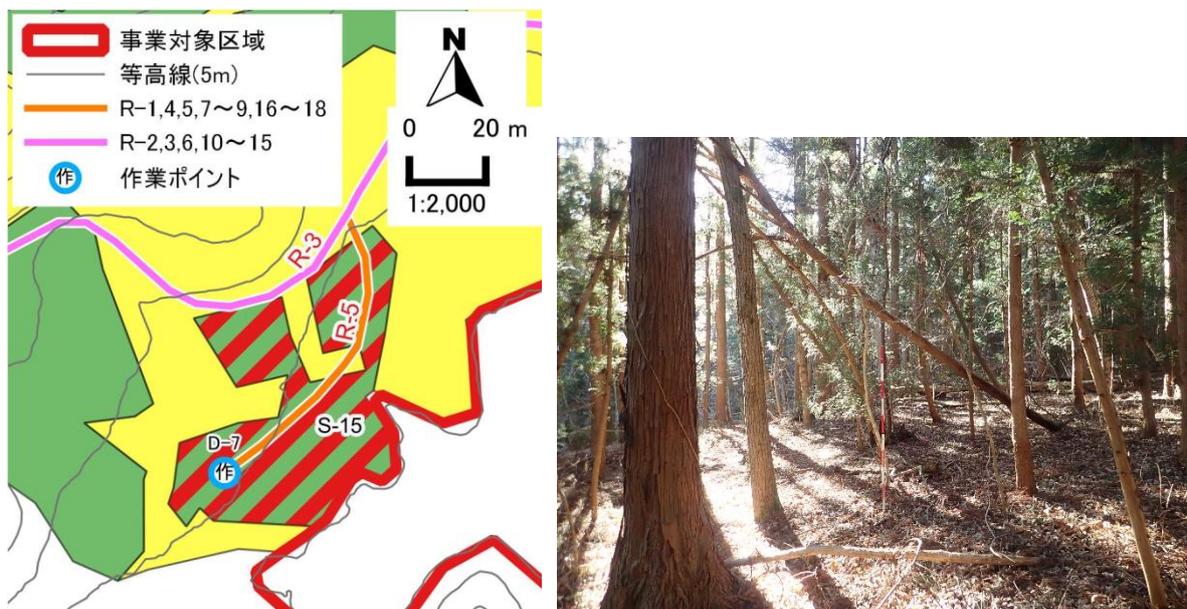
図表 483 D-6 の構造等

項目	内 容
種別	作業ポイント
接続道	R-3
面積*	56.0m ²
路面	土
のり面	切土 1 : 0.6 盛土 1 : 1.2
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

3.7 詳細設計(D-7)

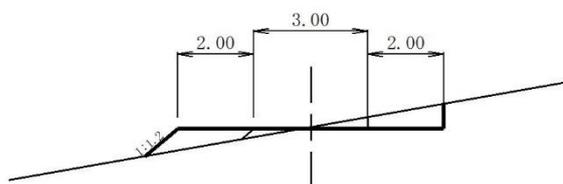
図表 484 D-7 平面図



図表 485 D-7 の標準図

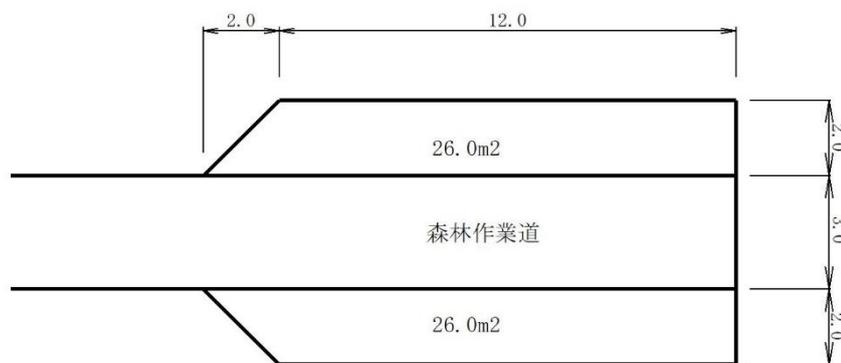
横断面図

W=3.0 (10°)



断面積(1.0m当たり)
 掘削: 1.2m³
 盛土: 1.2m³
 切土法面: - m²
 盛土法面: 1.1m²

平面図(終点タイプ)



合計52.0m²

林業用作業施設の種別、面積等を図表 486 にまとめる。

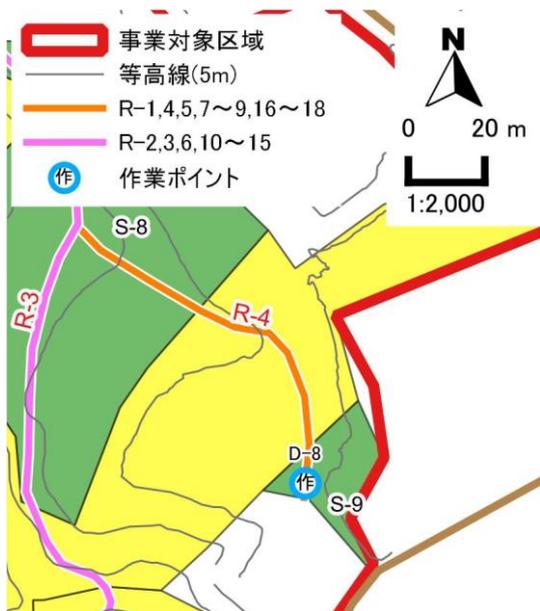
図表 486 D-7 の構造等

項目	内 容
種別	作業ポイント
接続道	R-5
面積※	52.0m ²
路面	土
のり面	切土 1 : 0.0 盛土 1 : 1.2
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

3.8 詳細設計 (D-8)

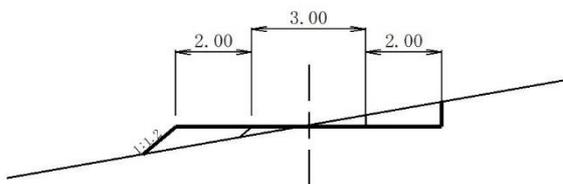
図表 487 D-8 平面図



図表 488 D-8 の標準図

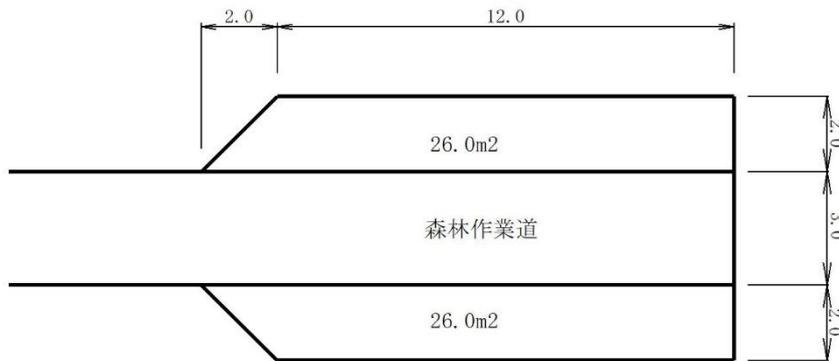
横断面図

W=3.0 (10°)



断面積(1.0m当たり)
 掘削: 1.2m³
 盛土: 1.2m³
 切土法面: - m²
 盛土法面: 1.1m²

平面図(終点タイプ)



合計52.0m²

林業用作業施設の種別、面積等を図表 489 にまとめる。

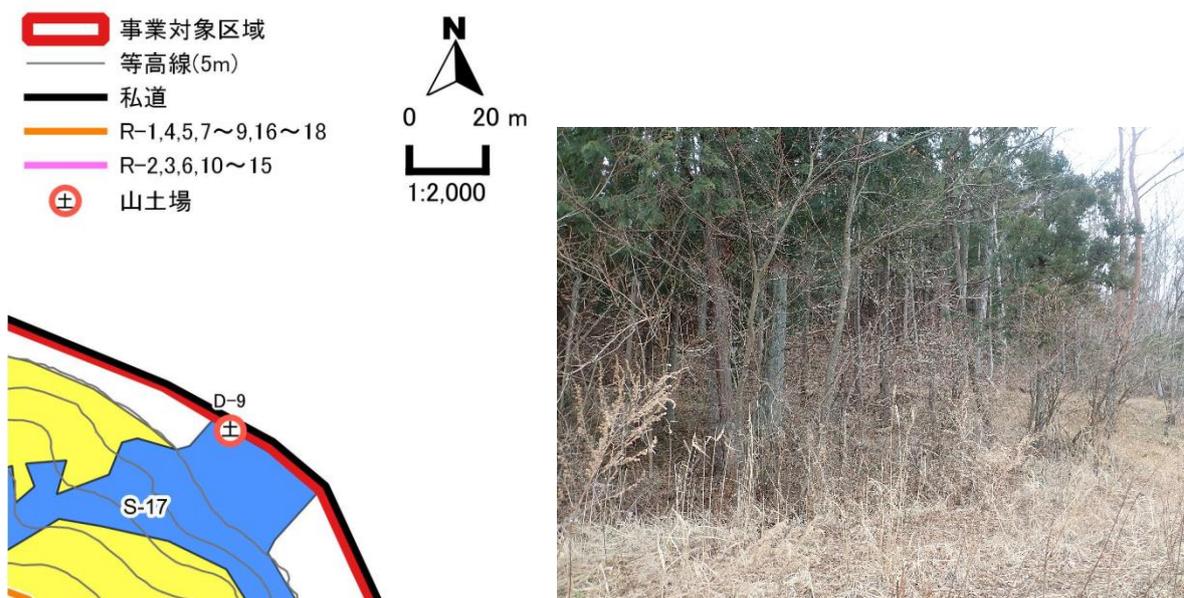
図表 489 D-8 の構造等

項目	内 容
種別	作業ポイント
接続道	R-4
面積※	52.0m ²
路面	土
のり面	切土 1 : 0.0 盛土 1 : 1.2
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

3.9 詳細設計(D-9)

図表 490 D-9 平面図



林業用作業施設の種別、面積等を図表 491 にまとめる。

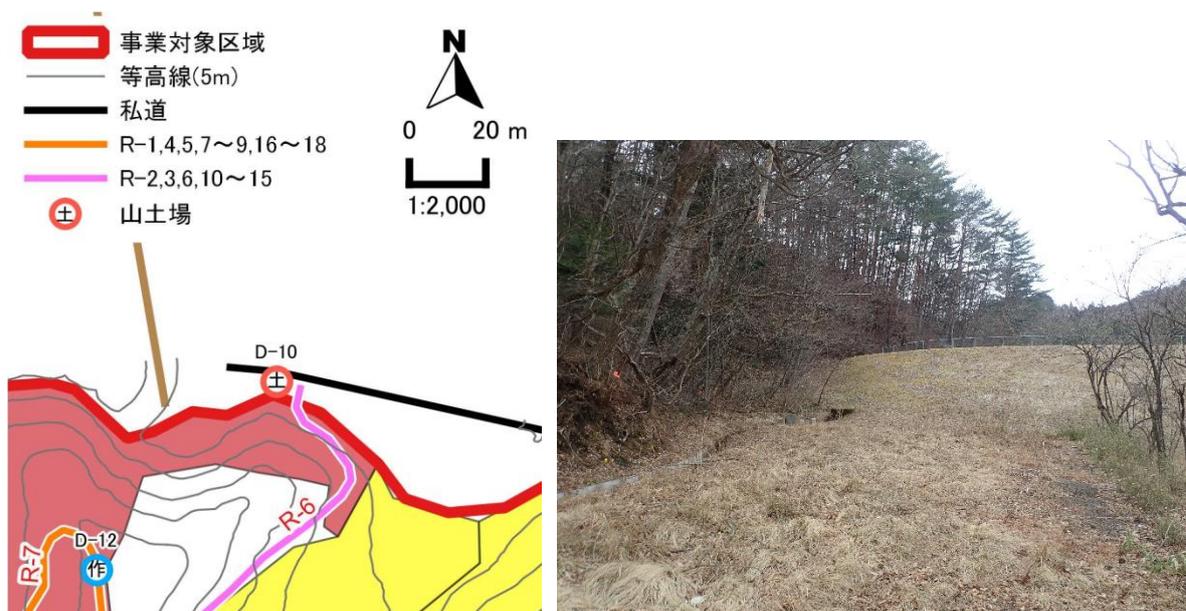
図表 491 D-9 の構造等

項目	内容
種別	山土場
接続道	既設道
面積※	42.0m ²
路面	土
のり面	なし
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

3.10 詳細設計(D-10)

図表 492 D-10 平面図



林業用作業施設の種別、面積等を図表 493 にまとめる。

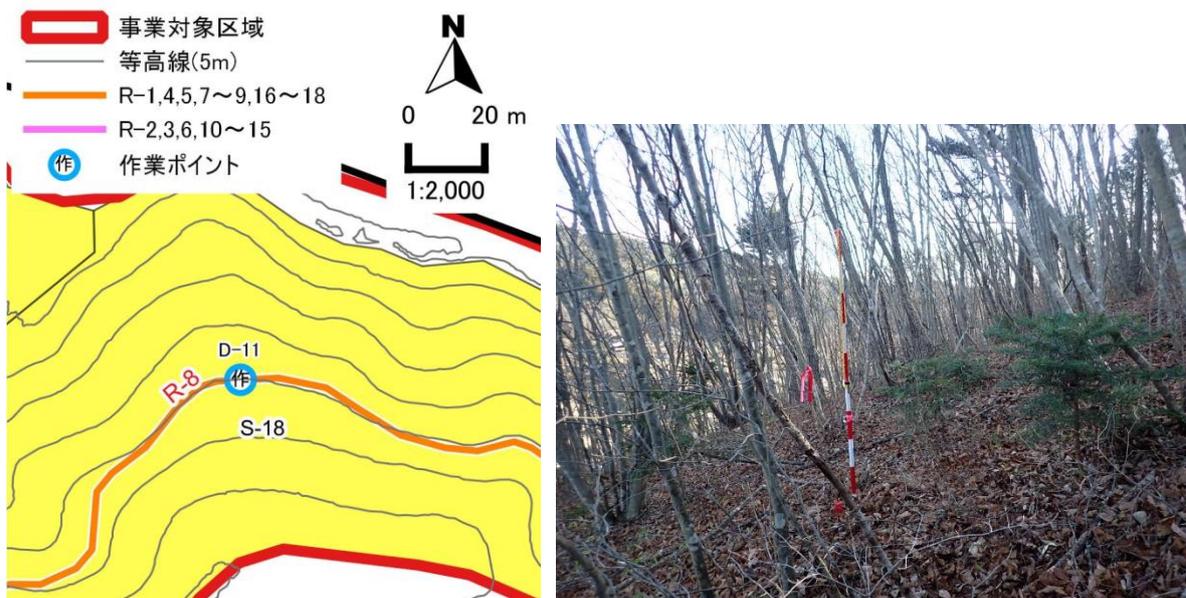
図表 493 D-10 の構造等

項目	内容
種別	山土場
接続道	既設道、R-6
面積※	100.0m ²
路面	土
のり面	なし
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

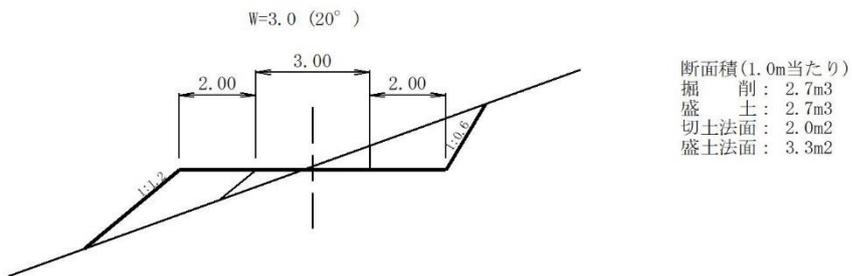
3.11 詳細設計(D-11)

図表 494 D-11 平面図

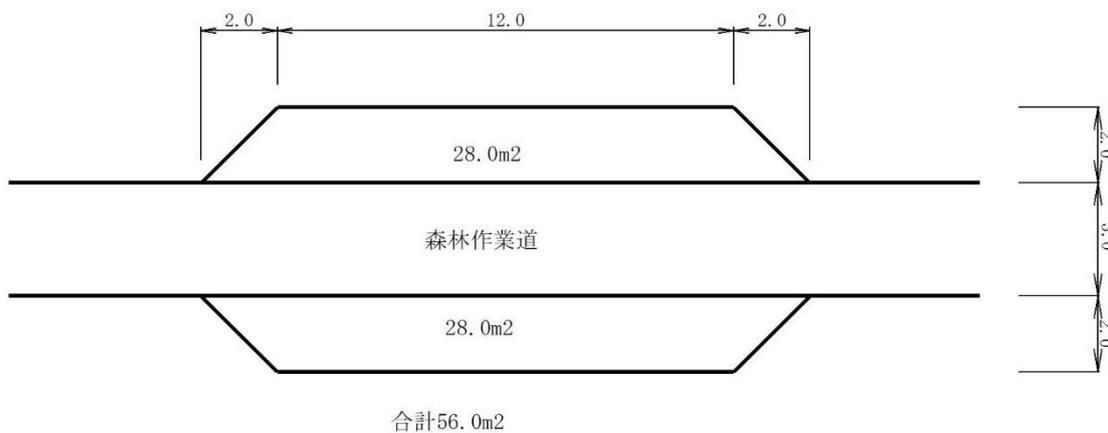


図表 495 D-11 の標準図

横断面図



平面図(中間タイプ)



林業用作業施設の種別、面積等を図表 496 にまとめる。

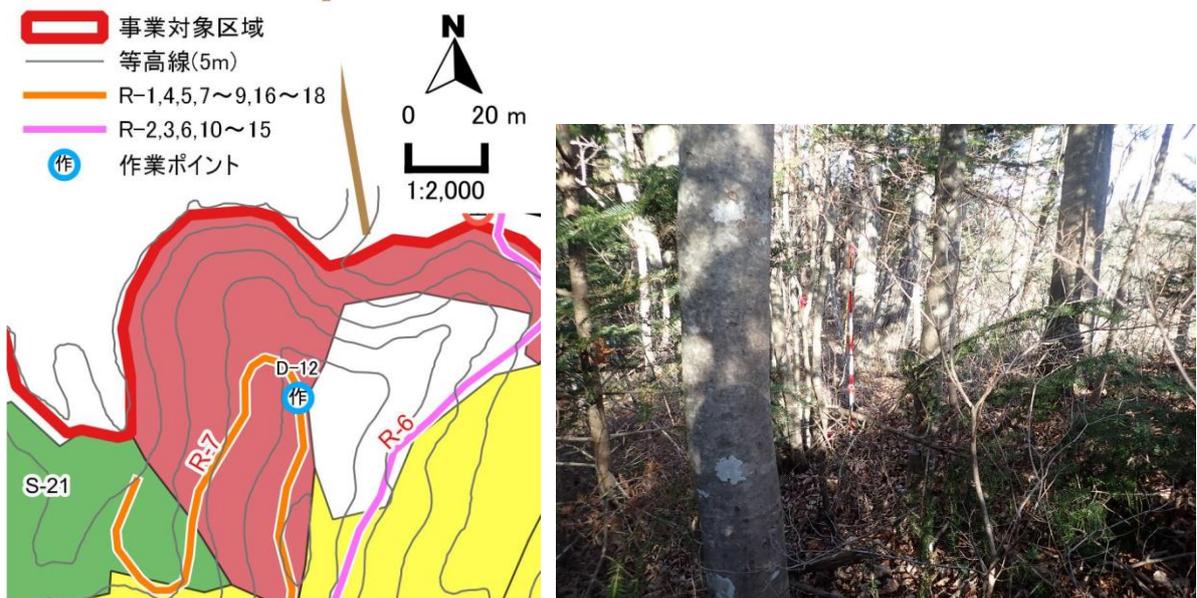
図表 496 D-11 の構造等

項目	内 容
種別	作業ポイント
接続道	R-8
面積※	56.0m ²
路面	土
のり面	切土 1 : 0.6 盛土 1 : 1.2
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

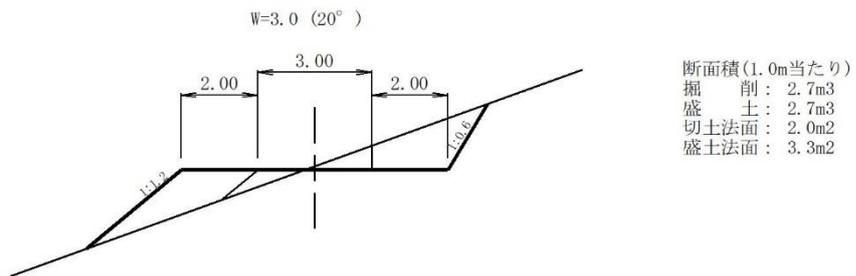
3.12 詳細設計 (D-12)

図表 497 D-12 平面図

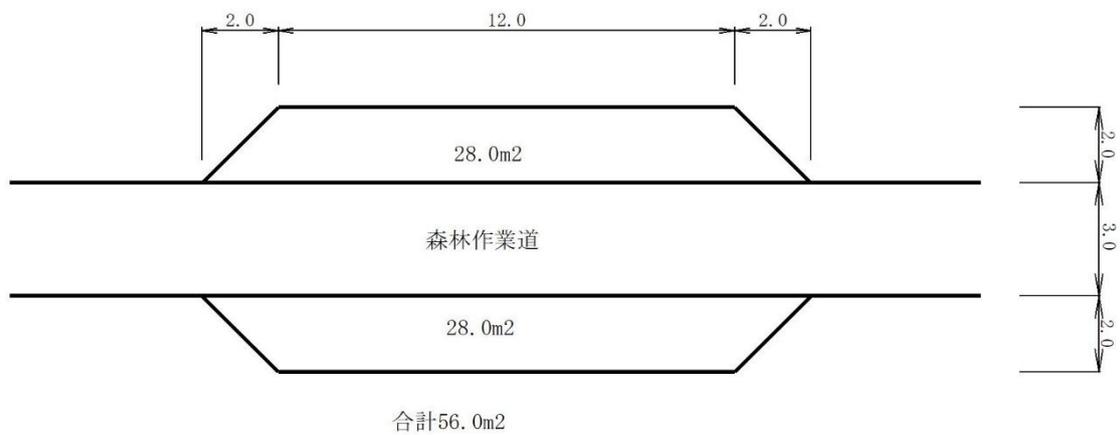


図表 498 D-12 の標準図

横断面図



平面図(中間タイプ)



林業用作業施設の種別、面積等を図表 499 にまとめる。

図表 499 D-12 の構造等

項目	内 容
種別	作業ポイント
接続道	R-7
面積※	56.0m ²
路面	土
のり面	切土 1 : 0.6 盛土 1 : 1.2
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

3.13 詳細設計(D-13)

図表 500 D-13 平面図



林業用作業施設の種別、面積等を図表 501 にまとめる。

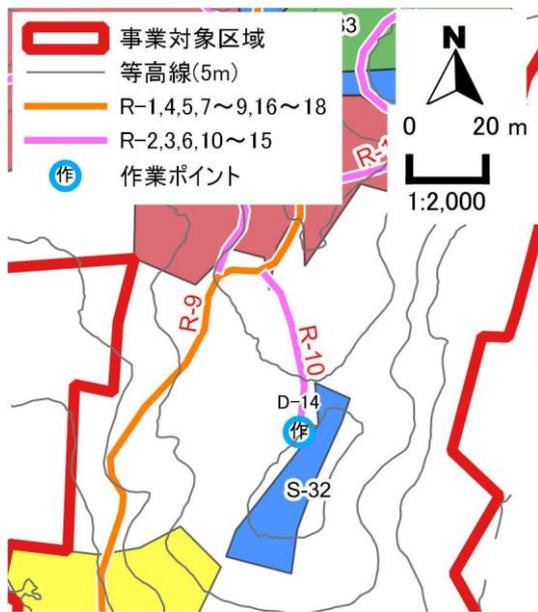
図表 501 D-13 の構造等

項目	内容
種別	山土場
接続道	R-9
面積※	252.0m ²
路面	敷鉄板
のり面	なし
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

3.14 詳細設計(D-14)

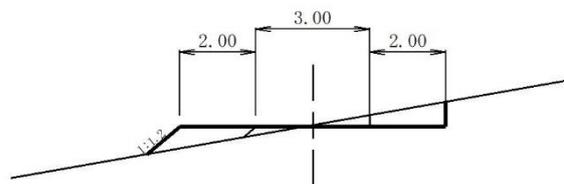
図表 502 D-14 平面図



図表 503 D-14 の標準図

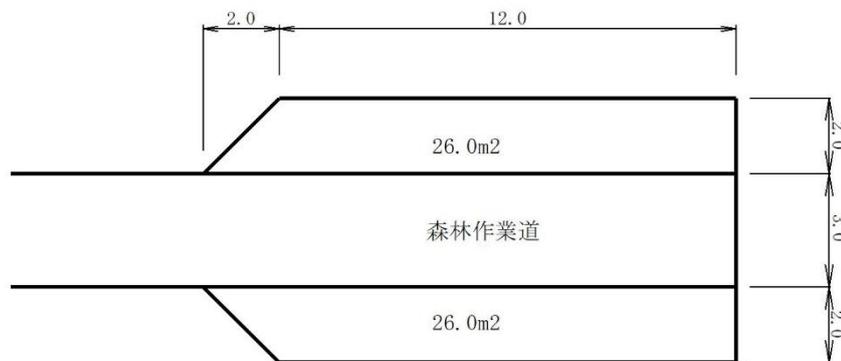
横断面図

W=3.0 (10°)



断面積(1.0m当たり)
 掘削: 1.2m³
 盛土: 1.2m³
 切土法面: - m²
 盛土法面: 1.1m²

平面図(終点タイプ)



合計52.0m²

林業用作業施設の種別、面積等を図表 504 にまとめる。

図表 504 D-14 の構造等

項目	内 容
種別	作業ポイント
接続道	R-10
面積※	52.0m ²
路面	土
のり面	切土 1 : 0.0 盛土 1 : 1.2
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

3.15 詳細設計 (D-15)

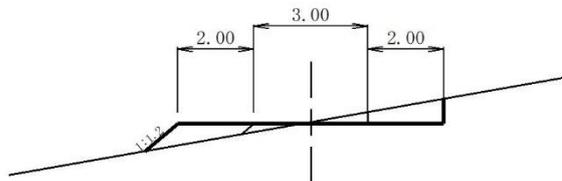
図表 505 D-15 平面図



図表 506 D-15 の標準図

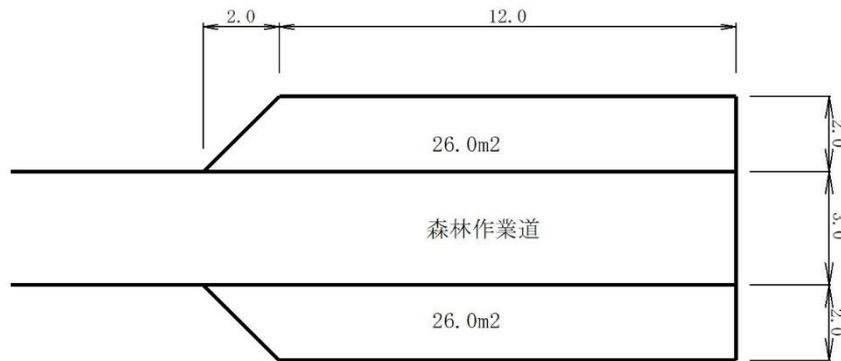
横断面図

W=3.0 (10°)



断面積(1.0m当たり)
 掘削: 1.2m³
 盛土: 1.2m³
 切土法面: - m²
 盛土法面: 1.1m²

平面図(終点タイプ)



合計52.0m²

林業用作業施設の種別、面積等を図表 507 にまとめる。

図表 507 D-15 の構造等

項目	内 容
種別	作業ポイント
接続道	R-12
面積※	52.0m ²
路面	土
のり面	切土 1 : 0.0 盛土 1 : 1.2
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

3.16 詳細設計 (D-16)

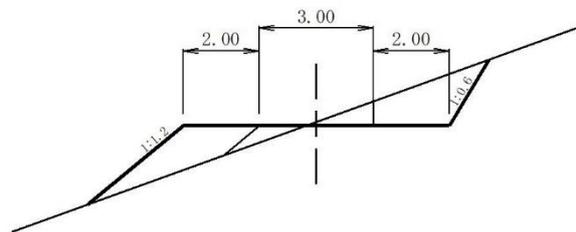
図表 508 D-16 平面図



図表 509 D-16 の標準図

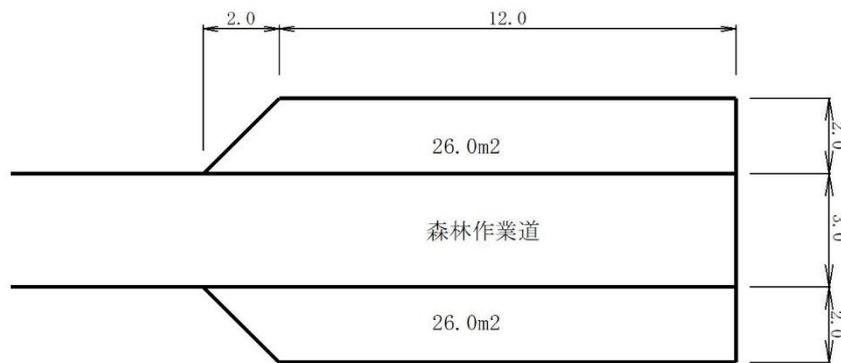
横断面図

W=3.0 (20°)



断面積(1.0m当たり)
 掘削: 2.7m³
 盛土: 2.7m³
 切土法面: 2.0m²
 盛土法面: 3.3m²

平面図(終点タイプ)



合計52.0m²

林業用作業施設の種別、面積等を図表 510 にまとめる。

図表 510 D-16 の構造等

項目	内 容
種別	作業ポイント
接続道	R-9
面積※	52.0m ²
路面	土
のり面	切土 1 : 0.6 盛土 1 : 1.2
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

3.17 詳細設計(D-17)

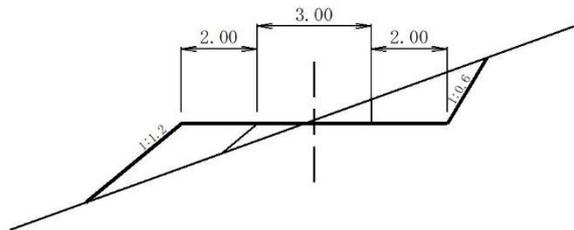
図表 511 D-17 平面図



図表 512 D-17 の標準図

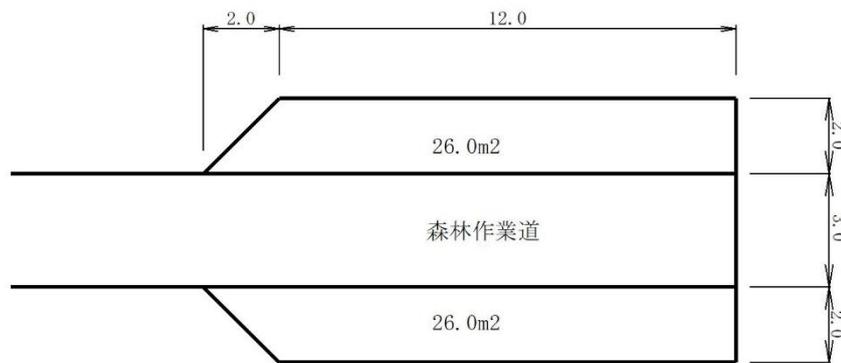
横断面図

W=3.0 (20°)



断面積(1.0m当たり)
 掘削: 2.7m³
 盛土: 2.7m³
 切土法面: 2.0m²
 盛土法面: 3.3m²

平面図(終点タイプ)



合計52.0m²

林業用作業施設の種別、面積等を図表 513 にまとめる。

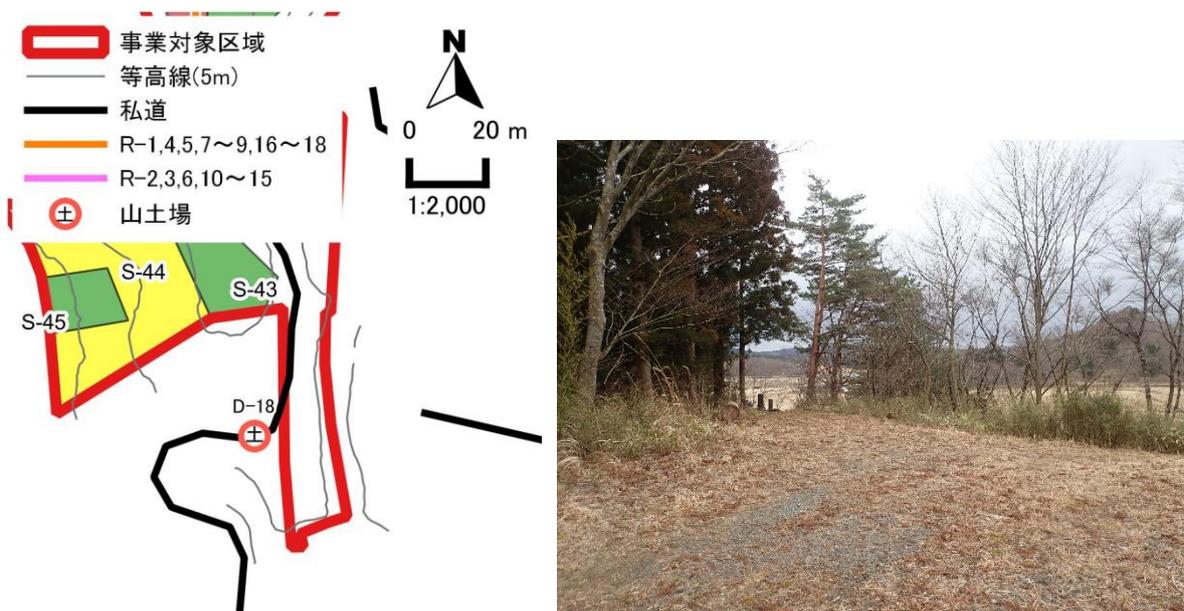
図表 513 D-17 の構造等

項目	内 容
種別	作業ポイント
接続道	R-15
面積※	52.0m ²
路面	土
のり面	切土 1 : 0.6 盛土 1 : 1.2
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

3.18 詳細設計(D-18)

図表 514 D-18 平面図



林業用作業施設の種別、面積等を図表 515 にまとめる。

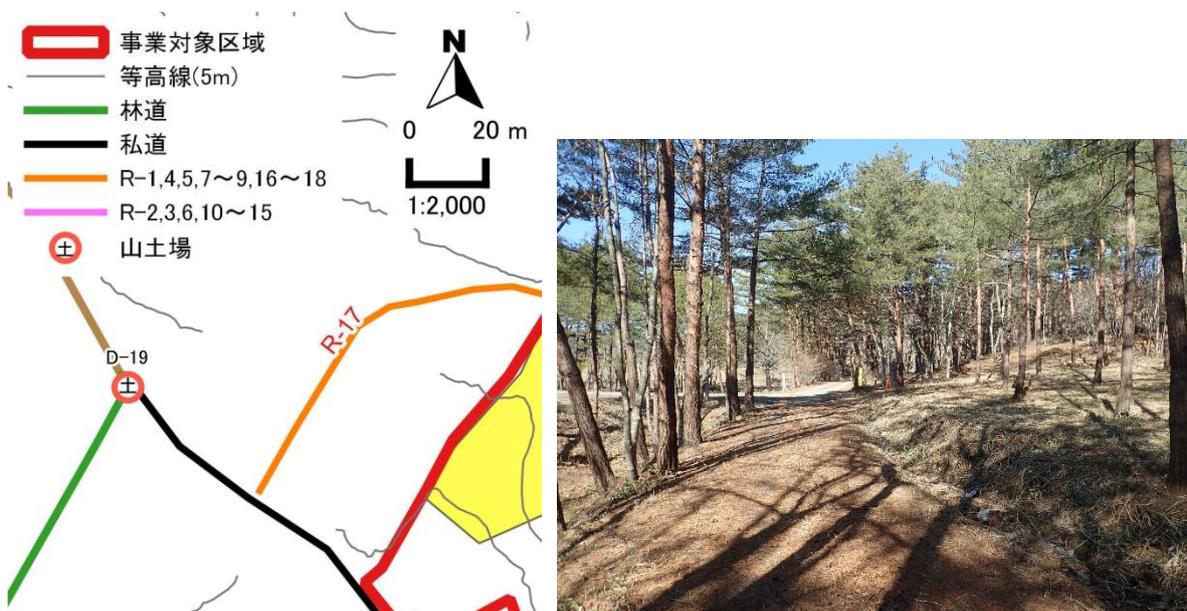
図表 515 D-18 の構造等

項目	内容
種別	山土場
接続道	既設道
面積※	100.0m ²
路面	砂利
のり面	なし
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

3.19 詳細設計(D-19)

図表 516 D-19 平面図



林業用作業施設の種別、面積等を図表 517 にまとめる。

図表 517 D-19 の構造等

項目	内 容
種別	山土場
接続道	林道
面積※	60.0m ²
路面	土
のり面	なし
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

3.20 詳細設計(D-20)

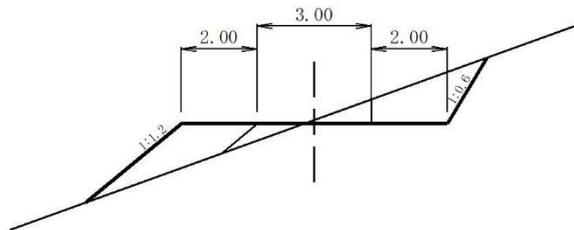
図表 518 D-20 平面図



図表 519 D-20 の標準図

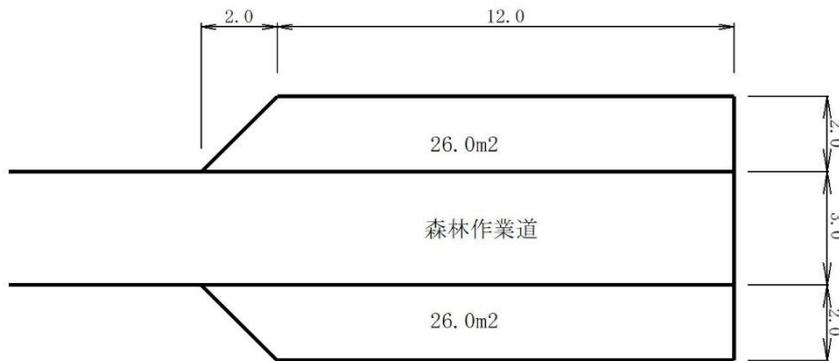
横断面図

W=3.0 (20°)



断面積(1.0m当たり)
 掘削: 2.7m³
 盛土: 2.7m³
 切土法面: 2.0m²
 盛土法面: 3.3m²

平面図(終点タイプ)



合計52.0m²

林業用作業施設の種別、面積等を図表 520 にまとめる。

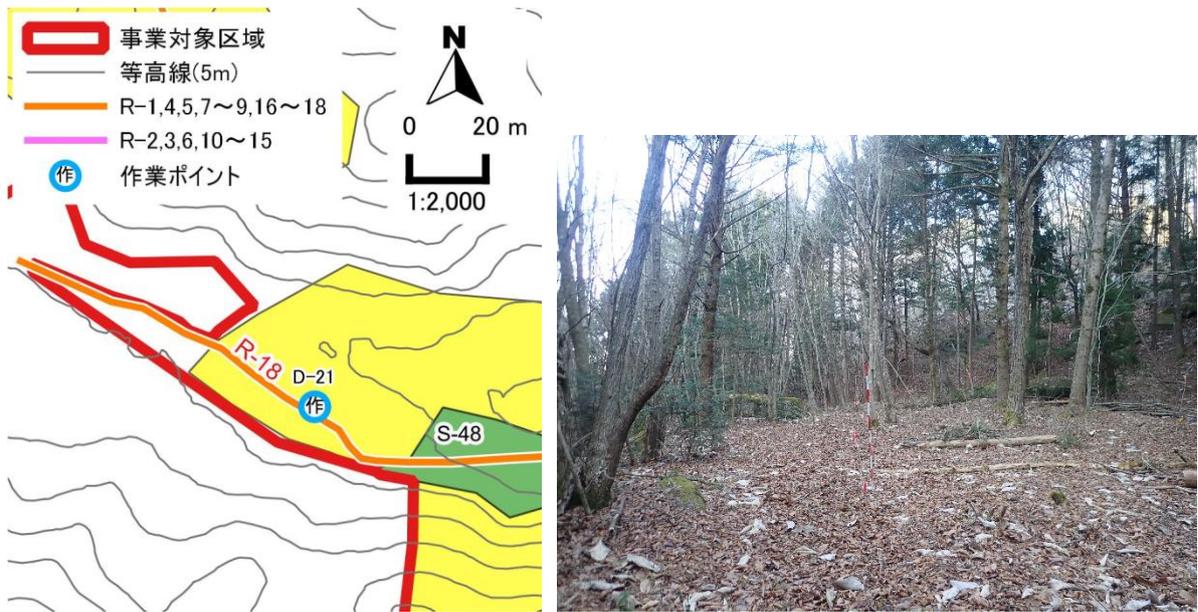
図表 520 D-20 の構造等

項目	内 容
種別	作業ポイント
接続道	R-17
面積※	52.0m ²
路面	土
のり面	切土 1 : 0.6 盛土 1 : 1.2
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く

3.21 詳細設計(D-21)

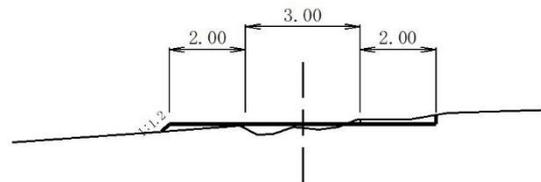
図表 521 D-21 平面図



図表 522 D-21 の標準図

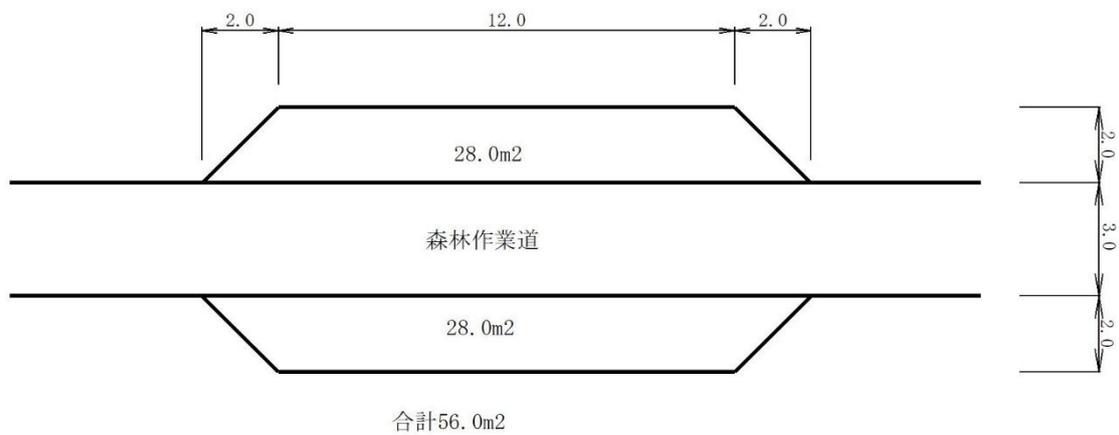
横断面図

W=3.0 不陸整正



断面積(1.0m当たり)
不陸整正: 4.0m²

平面図(中間タイプ)



林業用作業施設の種別、面積等を図表 523 にまとめる。

図表 523 D-21 の構造等

項目	内 容
種別	作業ポイント
接続道	R-18
面積※	56.0m ²
路面	土
のり面	なし
排水施設	なし
構造物	なし
その他	なし

※面積は車道部分を除く